

**KAWASAKI CITY MUSEUM
ANNUAL REPORT**

2012.4-2013.3

平成24年度

川崎市市民ミュージアム年報

平成 24 年度 川崎市市民ミュージアム年報
目 次

はじめに	3
概要	4
平成 24 年度市民ミュージアム組織表	5
展示、上映	
1 企画展	6
2 アートギャラリー展示	13
3 博物館展示（考古・歴史・民俗）	15
4 マンスリー展示	17
5 ミュージアムライブラリー（映像）	18
6 ミュージアムライブラリー（図書）	18
7 映画上映	19
8 ビデオ・DVD 上映	22
9 ミニホール・ビデオ上映	24
10 他団体の展示等	25
収集・整理・保存	
1 収集	26
2 整理・保存・修復	27
3 収蔵品の貸出・他館への協力	28
調査研究	
1 調査研究	31
2 出版	32
職員の派遣	
33	
教育・普及	
1 教育普及	34
2 実習生の受け入れ	39
3 イベント	40
4 広報活動	41
5 友の会	42
資料	
川崎市市民ミュージアム条例	44
川崎市市民ミュージアム条例施行規則	47
企画展一覧	53
ギャラリー展示一覧	56
特別資料室展示一覧	61
企画上映一覧（映画）	62
平成 24 年度市民ミュージアム利用者統計表	69
平成 24 年度歳出予算	70
川崎市市民ミュージアム協議会	71
川崎市市民ミュージアム資料等収集委員会	71
川崎市市民ミュージアム資料等評価委員	72
かわさき市美術展運営委員会	72
施設概要	73
職員	74

はじめに

川崎市市民ミュージアムは、「全国に発信できるミュージアム」、「市民文化の伝承と創造の発信拠点としてのミュージアム」、「地域の活性化に貢献できる拠点としてのミュージアム」をめざし、これまで進めてきた改革に継続して取り組んでいます。その取組のひとつとして、平成24年度当初には博物展示室の一部を改修し、これまで未着手であった川崎の近現代に関する本格的な展示を開始しました。

事業としては、当館の強みのひとつである映像を駆使したインスタレーション展示である「スタジオ・アッズーロ展」や、川崎ゆかりの作家の作品を展示する「中村正義の顔展」及び「与勇輝展」、川崎の特色を示す歴史・文化資料を公開する「郷土・川崎を掘る展」などの展覧会を始めとして、川崎で生まれ育った坂本九氏の顕彰事業「映像と音楽で辿る九ちゃんの夢」や、川崎市市民文化大使によるコンサート、美術作家や地域の団体と連携したワークショップ、老人福祉施設や市内関連施設での出張展示など、様々な事業において地域との連携を図り、市民参加型の幅広い活動を行いました。

また、子育て中の方でも気軽にミュージアムに足を運ぶきっかけとなる『ママカフェ』といった「子育て支援プログラム」の拡充や、当館の豊富な収蔵品を活用した、高齢者を対象とした「鑑賞型福祉プログラム」及び、障害者を対象とした「制作体験型福祉プログラム」の充実も図りました。

広報では、当館の魅力を全国に向けて発信するため、広報物やホームページの充実、各メディアとの連携強化など、広報活動の更なる促進に努めてまいりました。

市民ミュージアムは、平成25年度に開館25周年という節目の年を迎えます。「文化芸術を活かしたまちづくりの拠点」として、市民の皆様を始め多くの方々に御支持、御利用いただけるように、引き続き改革を進めてまいります。

皆様の御理解と御支援を賜りますよう、今後ともよろしくお願い申し上げます。

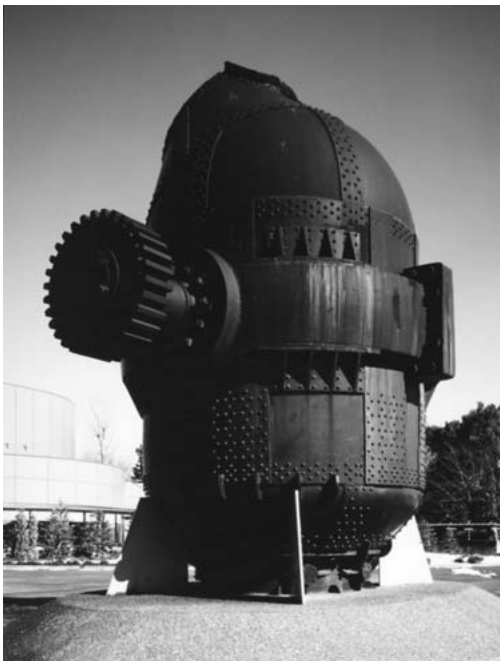
川崎市市民ミュージアム
館長 原 隆

概要

川崎市市民ミュージアムは1988年（昭和63年）11月、「都市と人間」を基本テーマに開館した。

都市は、さまざまな人が集まり次々と新しい文化を生み出している。市民ミュージアムは、都市の発展過程やそこで生まれ育った文化を見つめるための資料や作品を収集・展示・調査・研究している。

特に、今日私たちの暮らしに深い関わりをもち、都市文化の形成に大きな役割を果たしてきたポスター、版画、写真、漫画、映画、ビデオといった複製技術による芸術作品、川崎に関連する考古・歴史・民俗資料及び芸術家の作品を対象に基本テーマを追求するほか、市民ミュージアムの情報を活用しながら、利用者が楽しく学習できるような学習講座も行っている。



トーマス転炉（日本鋼管 現JFE寄贈）

英国人シドニー・G・トーマスが発明した燐を含む鉄鉱石の製鋼炉。1937年から1957年（昭和12年から32年）まで稼働。日本の鉄鋼業界の発展に大きく貢献。京浜工業地帯発展史のなかでも象徴的な産業遺産といえる。

沿革（開館まで）

1980年（昭和55年）

川崎市博物館構想委員会を設置
（担当教育委員会）

漫画・写真・映像文化センター構想を発表
（担当企画調整局）

1981年（昭和56年）

川崎市博物館基本構想を策定

現代映像文化センター基本構想を策定

1982年（昭和57年）

川崎市博物館建設調査委員会を設置（教育委員会）し、同時に展示基本計画書を策定

現代映像文化センター基本計画委員会を設置
（企画調整局）し、基本計画を策定

1983年（昭和58年）

川崎市博物館資料収集委員会（教育委員会）、
現代映像文化センター収集委員会を設置（企画調整局）し、収集事業がスタート

両計画を一体化するため、仮称川崎市博物館・
現代映像文化センター一体化に関わる委員会を
設置（企画調整局）し、基本計画を策定

1985年（昭和60年）3月

建築基本設計を完了

1985年（昭和60年）3月

展示基本設計を完了

1985年（昭和60年）4月

教育委員会に市民ミュージアム準備事務室が発足

1985年（昭和60年）11月

建築実施設計を完了

1985年（昭和61年）3月

展示実施設計を完了

1986年（昭和61年）3月

建築工事着手

1987年（昭和62年）7月

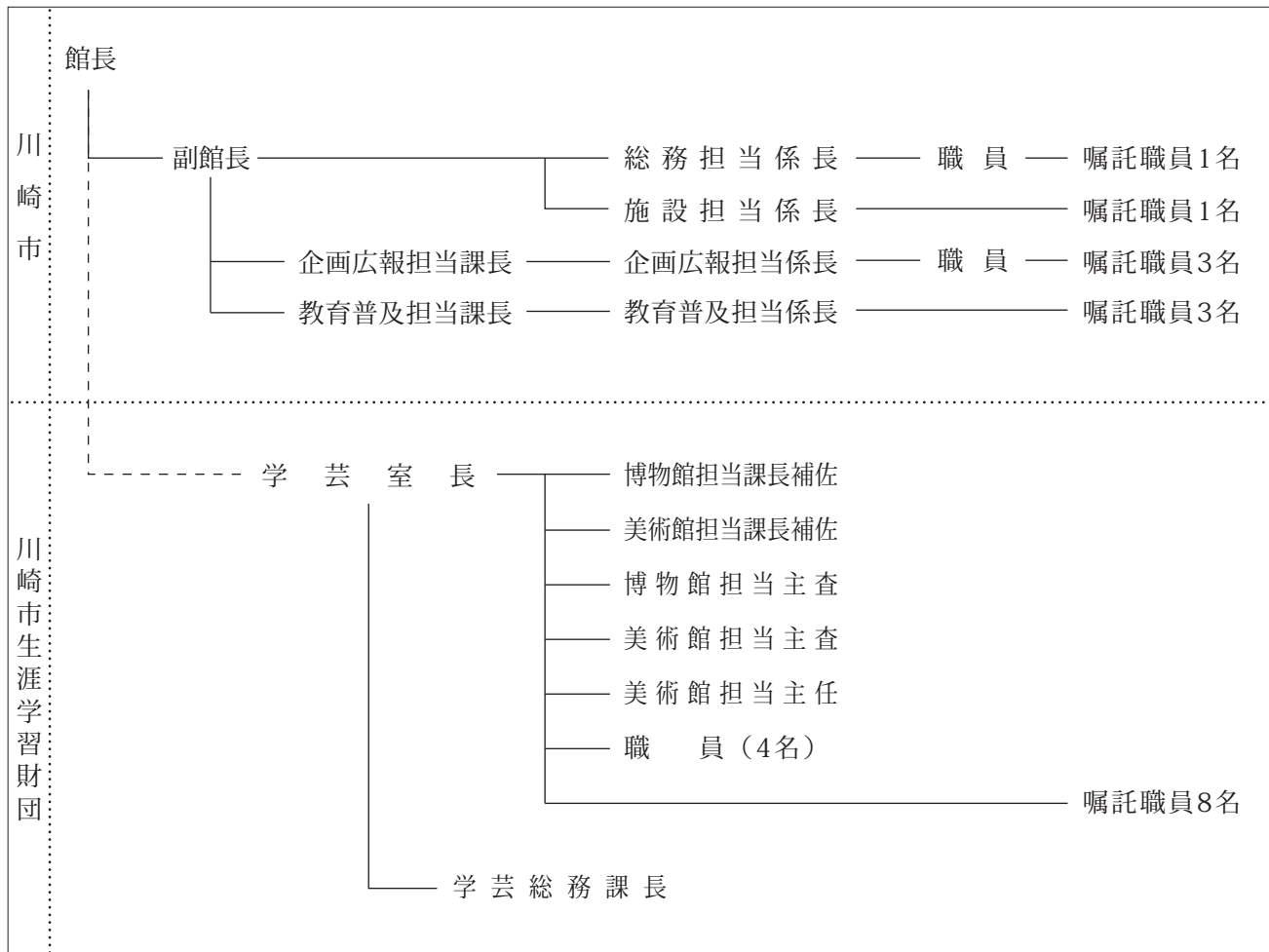
展示工事着手

川崎市市民ミュージアム条例を制定

1988年（昭和63年）11月

川崎市市民ミュージアム開館

平成 24 年度 市民ミュージアム組織表



展示・上映

1 企画展

林忠彦賞 20 回記念写真展

〔会 期〕 6月2日～6月24日

〔入場者〕 1,605名

〔主 催〕 川崎市市民ミュージアム・周南市美術博物館

〔企画・制作〕 周南市美術博物館

〔協 力〕 東京都写真月間(公益社団法人日本写真協会主催)

〔観覧料〕 無料

〔開催趣旨〕

昭和を代表する写真家、林忠彦(大正7年～平成2年)の偉業を後世に伝えるため創設された「林忠彦賞」の20回を記念し、第1回から第20回の受賞者(21作家)の受賞作品と新作及び第21回受賞作品、さらには当館が収蔵する林忠彦の作品を展示した。

〔主な展示品〕

- 林忠彦賞の第1回から第20回までの受賞作品と新作(周南市美術博物館収蔵 214点)
- 林忠彦による写真作品 6点
- 公益社団法人日本写真家協会パネル 8点

〔印刷物〕

図 録：南市美術博物館作成
「林忠彦賞 20 回記念写真展」カタログ
(平成 23 年 9 月発行)

チ ラ シ：A 4 判

ポスター：B 2 判

〔関連イベント〕

◎学芸員による展示解説

日 程：6月23日

参加人数：30名



郷土・川崎を掘る

—川崎考古学研究所の活動の軌跡—

〔会 期〕 6月30日～8月26日

〔入場者〕 3,057名

〔主 催〕 川崎市市民ミュージアム

〔観覧料〕 一般 500円

学生・65歳以上 300円

中学生以下 無料

〔開催趣旨〕

川崎考古学研究所から出土品を中心に約20,000点もの資料が平成22年度に寄贈された。この貴重な資料を未来に伝えていくため、市民に寄贈資料を紹介するとともに、とくに小学生に地域の歴史を学ぶ機会を提供し、地域の身近な遺跡をとおして川崎の歴史を日本史の中で理解いただいた。

〔主な展示品〕

- 鷺沼遺跡出土品
- 梶ヶ谷神明社上遺跡出土品
- 東泉寺上遺跡出土品
- 久地伊屋之免遺跡出土品
- 野川南耕地遺跡 A 地点出土火葬骨蔵器

〔印刷物〕

図 録：A 4 判 118 頁

チ ラ シ：A 4 判

ポスター：B 2 判、B 3 判

〔関連イベント〕

◎オープニング・レセプション

日 程：6月29日

開会式 15:00～ 企画展示室1

内覧会 15:20～ 企画展示室1

懇親会 15:50～ 市民ミュージアム

レストラン 3104

参加人数：35名

◎ベビーカートツアー

日 程：7月4日・7月12日

参加人数：4名

◎体験講座「勾玉を作ろう」

日 程：7月7日

参加人数：20名

参加料：500円

講 師：小葉一夫(東高根森林公園副所長)

◎記念講演会「弥生時代の南関東」

日 程：7月22日

参加人数：114名

講 師：石川日出志（明治大学教授）

◎16ミリ上映会

「影向寺遺跡の発掘」「岡上丸山遺跡の発掘」

日 程：7月28日・7月29日

参加人数：54名

料 金：一般600円、シニア・学生500円

◎記念講演会「農民考古学者 持田春吉の仕事」

日 程：8月5日

参加人数：95名

講 師：持田春吉・村田文夫（川崎考古学研究所元所員）

◎体験講座「トンボ玉を作ろう」

日 程：8月12日・8月19日（各日とも午前・
午後の2回開催し、計4回の開催）

参加人数：50名

参加料：1,000円

◎「夏休み子ども考古学研究室」

日 程：8月4日・8月18日

参加人数：30名

参加料：200円（保護者300円）

◎学芸員による展示解説（全12回）

日 程：〔一般向け〕

7月1日・7月15日・7月16日

・8月11日・8月25日・8月26日

〔こども向け〕

7月22日・7月29日・8月5日

・8月11日・8月25日・8月26日

参加人数：119名



川崎市市民ミュージアム・美術館名品展 “都市と人間のポリフォニー”

〔会 期〕7月28日～9月9日

〔入場者〕1,716名

〔主 催〕川崎市市民ミュージアム

〔観覧料〕一般 300円

学生・65歳以上 200円

中学生以下 無料

〔開催趣旨〕

当館所蔵・美術館コレクションならびに映画・映像コレクションの中から市民の観覧希望（市民へのアンケート等）を反映した作品を展示・上映し、また、ミュージアムの名品と言われる作品・資料をわかりやすい解説とともに紹介した。

〔主な展示品〕

○ロートレック「ムーラン・ルージュのラ・グーリュ」

○ミュシャ「ジスモンダ」

○カッサンドル「ノルマンディ号」

○歌川国芳「荷宝蔵壁のむだ書」

○安田靉彦「草薙の剣」

○濱田庄司、ナダールなどの代表的作品など

（総展示点数 141点）

○上映作品 11作品

〔印刷物〕

チラシ：A4判

ポスター：B2判、B3判

〔関連イベント〕

◎学芸員による展示解説（全7回）

日 程：7月28日・8月4日・8月11日・8月
18日・8月25日・9月1日・9月8日

参加人数：37名

◎ベビーカーツアー

日 程：8月2日・9月4日

参加人数：13名

◎美術館名品展関連上映（全7回）

収蔵品の中からアンケートで要望が多かった作品、これまで最も人気の高かった作品と展示作品に関連する作品等全11作品を上映。

日 程：8月25日・8月26日・9月1日
・9月2日・9月8日・9月9日

鑑賞人数：468名

◎「みる・つくる・みせる リトグラフ講座」

日 程：9月2日・9月9日・9月23日

参加人数：のべ12名

参加料：3,000円（全3回）
テーマ：「都市の風景」
講師：小森琢己（版画作家）

中村正義の《顔》展

〔会期〕9月15日～10月14日
〔入場者〕1,643名
〔主催〕川崎市市民ミュージアム
〔協賛〕中村正義の美術館、シネマネスト JAPAN
〔観覧料〕一般 600円
 学生・65歳以上 400円
 中学生以下 無料
〔開催趣旨〕

日本画の反逆児、異端の画家と呼ばれた中村正義（1924-77）。画家としてののはじまりは日本画だったが、まだ茅葺屋根の残る川崎市細山に転居した1961年からは、油彩やアクリル、蛍光塗料を使ったり、演劇や映画に参加したりと新しい創造の世界に踏みだした。しかし、華々しい活躍の一方で、その生涯は結核やガンとの闘いでもあった。「人間の顔は精神の象徴である」と自らが語るように、画業を通して描き続けた顔は、死との対峙であり、生きている証でもあった。本展覧会では、この中村正義の「顔」を中心にその足跡を辿る。あわせて、ドキュメンタリー映画「父をめぐる旅」のプロモーション特別版を上映した。

〔主な展示品〕

- 「舞妓」1963年 紙本着彩（中村正義の美術館蔵）
- 「顔」1976年 紙本着彩（中村正義の美術館蔵）
- 「三島由紀夫像」1968年 紙本着彩（個人蔵）

〔印刷物〕

図録：A5判 80頁
チラシ：A4判
ポスター：B3判

〔関連イベント〕

◎オープニング・レセプション

日程：9月15日
開会式 9:15～ 企画展示室2
内覧会 9:30～ 企画展示室1
懇親会 10:00～ 市民ミュージアム
 レストラン3104

参加人数：8名

◎プロモーション特別上映版ドキュメンタリー映画
『父をめぐる旅—異才の日本画家 中村正義の生涯』
日程：9月15日・9月16日
鑑賞人数：227名

◎映画上映『怪談』（監督：小林正樹/1964年）
日程：9月15日・9月16日
鑑賞人数：102名
料金：一般600円、大学・高校生・シニア
 500円、小学生400円

◎トークショー「中村正義と美術界」
日程：9月15日
参加人数：87名
ゲスト：中村敏子（元株三越美術部参与、元東京ステーションギャラリー企画委員、元やないづ町立斎藤清美術館副館長）、中村倫子（中村正義の美術館館長）

◎トークショー「中村正義と映画」
日程：9月16日
参加人数：83名
ゲスト：小川益王、武重邦夫（ドキュメンタリー映画「父をめぐる旅」監督）

※映画『肉筆浮世絵 日本の華』
（監督：小川益王/1968年/20分）上映

◎ワークショップ「中村正義から、つくる」
日程：9月22日・9月23日
参加人数：のべ18名
参加料：1,000円（全2回）
講師：近藤恵介（画家）、富井大裕（彫刻家）

◎学芸員による展示解説（全3回）
日程：9月29日・10月6日・10月13日
参加人数：24名

◎ベビーカーツアー
日程：9月26日
参加人数：12名



さわって、ふんで、声かけて！映像神話の現在形 スタジオ・アズーロ展－KATARIBE－

〔会 期〕 9月22日～11月4日

〔入場者〕 7,666名

〔主 催〕 川崎市市民ミュージアム、読売新聞社、
美術館連絡協議会

〔助 成〕 芸術文化振興基金

〔協 賛〕 ライオン、清水建設、大日本印刷、損保ジャ
パン、日本テレビ放送網

〔川崎展特別協賛〕 日本電気株式会社、リッチモンドホテルプ
レミア武蔵小杉、ITEM-16株式会社、ク
ウジット株式会社、エルメスジャポン株式
会社、株式会社ニコン、島村楽器株式会社、
川崎フロンターレ、東京応化工業株式会社、
セガフレード・ザネッティ・エスプレッソ・
ワールドワイド・ジャパン株式会社、株式
会社チネチッタ、アサヒビール株式会社、
川崎アゼリア商店会、川崎フロンターレ、
公益財団法人東京応化科学技術振興財団、
株式会社ミットヨ

〔後 援〕 イタリア大使館、イタリア文化会館

〔企画・制作〕 ミホプロジェクト

〔機材協力〕 キヤノン株式会社

〔観覧料〕 一般 1,000円
学生・65歳以上 800円
中学生以下 無 料

〔開催趣旨〕

観賞者とのインタラクティブな仕掛けを特色とするスタジオ・アズーロの映像作品を通し、人と人とのつながりの大切さや地域に根ざすことのかけがえのなさといった今日的なメッセージを投げかける展覧会を、開館25周年に先立つプレ特別企画として開催し、全国に発信する。

〔主な展示品〕

○第四の梯子（サンタフェ）、センシティブ・シティ
（以上2点「語り部」シリーズ）

○水たまり、泳ぐ人
全4点

〔印刷物〕

図 録：B5判 48頁

チ ラ シ：A4判

ポスター：B2判、B3判

〔関連イベント〕

◎オープニング・レセプション

日 程：9月21日

内覧会 17:00～19:00 企画展示室1

開会式 18:00～18:20 逍遥展示空間

懇親会 18:20～19:00 逍遥展示空間

参加人数：148人

◎オープニング・トーク

日 程：9月22日

参加人数：66名

出 演 者：パオロ・ローザ、横山正（東京大学
名誉教授

◎学芸員による展示解説（全4回）

日 程：9月30日・10月14日・10月28日・
11月4日

参加人数：62名

◎ベビーカーツアー

日 程：10月4日・10月18日・10月23日

参加人数：34名

◎LED照明ワークショップ+ダンスパフォーマンス「lost 2」

日 程：10月6日・10月7日・10月8日

参加人数：164人

◎スタジオ・アズーロ ドレスコード割引

利用者数：401名

◎ミューボン割引

利用者数：76名



2012 川崎フロンターレ展 “一体感”

〔会 期〕 12月8日～平成25年1月14日

〔入場者〕 4,806名

〔主 催〕川崎市市民ミュージアム
 〔共 催〕川崎フロンターレ後援会、川崎フロンターレ
 〔協 賛〕株式会社ピクトリコ
 〔観覧料〕一般 300円
 学生・65歳以上 100円
 中学生以下 無料
 ※24年度後援会会員は入場無料
 ※川崎のホームタウンスポーツ展示は無
 料（逍遙展示空間付近で展示）

〔開催趣旨〕

川崎フロンターレの激闘の記録を写真や映像で振り返る川崎フロンターレ展に加え、市内のトップチームをはじめホームタウンスポーツの活動を、写真、グッズなどさまざまな資料を活用して、ミュージアムならではの展示構成で紹介する川崎のホームタウンスポーツに関する展示を同時開催するとともに、市民が参加できる多彩な関連イベントを開催した。

〔主な展示品〕

- 川崎フロンターレ関連：2012年シーズンの戦いを記録した写真
- 等々カグラド改修に伴う記念コーナー [写真、歴代ユニフォーム、ポスター、メッセージ等]
- 選手全員の写真、選手スパイク
- 映像集 [ゴールシーン等]、日本代表関連展示
- 幼稚園児が描いたふろん太
- 「わたしの川崎フロンターレ」フォトコンテスト受賞作品
- 川崎のスポーツ関連：ホームタウンスポーツ各団体の展示（写真、資料等）など約300点

〔印刷物〕

チラシ：A4判
 ポスター：B2判、B3判

〔関連イベント〕

- ◎選手チャリティトークショー
 （24年度後援会会員限定）
 日 程：12月9日
 参加人数：110名
- ◎親子ふれあい体験工作教室
 日 程：12月16日
 参加人数：114名
- ◎ベビーカーツアー
 日 程：12月20日

参加人数：2名

◎かわさき格闘スポーツフェスタ

日 程：12月22日

参加人数：52名

◎映画上映「ユナイテッド ミュンヘンの悲劇」

日 程：平成25年1月5日

鑑賞人数：27名

◎新春エンタメSHOW!

日 程：平成25年1月12日

参加人数：300名

◎フロンターレクイズ王決定戦

12/9・12/22に実施する予選会の成績上位者による決勝トーナメント

日 程：平成25年1月12日

参加人数：50名

◎成人の日イベント

- ・展示写真プレゼント予約会（後援会会員限定）

参加人数：169名

- ・成人式記念撮影会

日 程：平成25年1月14日

参加人数：95名



昔の暮らし 今の暮らし 2013

〔会 期〕平成25年1月26日～4月1日

〔入場者〕11,922名

〔主 催〕川崎市市民ミュージアム

〔観覧料〕無料

〔開催趣旨〕

原始古代から現代まで、連綿と営まれてきた人々の暮らしを、生活用具の移り変わりから振り返る展覧会。

小学3年生が学ぶ「昔の道具と暮らし」のカリキュラ

ムにあわせて、毎年この時期に開催しているもので、今年「旅行」をテーマとして、江戸時代と現代の旅の様相の変化を特集展示として、コーナーを設けた。

また、毎年好評の昔の道具体験コーナーでは、石臼・足踏みミシン・つるべ井戸・黒電話・天秤棒を用意した。

そのほか、昭和45年の茶の間、囲炉裏ばた、縄文時代の竪穴住居模型を展示し、「昔の暮らし」と「今の暮らし」の違いを感じ取ってもらえるよう工夫して紹介した。

〔主な展示品〕

- 調理する（深鉢、注口土器、ナイフ形石器、羽釜、鍋、すり鉢、包丁等）
- 洗う・つくろう（手回しミシン、洗濯機、洗濯板・タライ、火のし等）
- 保存する・たくわえる（蠅帳、水がめ、木製冷蔵庫等）
- たべる（台付皿、石皿、箱膳、ちゃぶ台等）
- あかり（灯明皿、燭台、行灯、ガス灯、電灯等）
- 新しいくらしの道具（ラジオ、テレビ、携帯電話、パソコン等）
- 旅のうつりかわり（道中日記、菅笠、財布、ガイドブック等）

〔印刷物〕

- チラシ：A4判
- ポスター：B2判、B3判
- パンフレット：A4判 8頁

〔関連イベント〕

◎プレイベント「お正月 de ミュージアム」

日 程：平成25年1月14日

参加人数：36名

◎昔のあそび体験（全10回）

日 程：平成25年1月27日・2月3日・2月10日・
2月17日・2月24日・3月3日・3月10日・
3月17日・3月24日・3月31日

参加人数：570名

◎学芸員による展示解説（全10回）

日 程：平成25年2月2日・2月3日・2月11日・
2月17日・3月9日・3月16日・3月17日・
3月20日・3月24日・3月31日

参加人数：132名

◎ベビーカートツアー

日 程：平成25年2月21日・3月12日

参加人数：12名

◎映画上映「日本文化のふるさと 第7集」

「椿山－焼畑に生きる－」「日本の稲作
－そのころと伝統－」「千年の紺屋」
「川崎のさきやま」

日 程：平成25年3月20日

参加人数：64名

◎「ガリ版で印刷体験！」

日 程：平成25年3月23日・3月24日

参加人数：106名

◎小学校団体受入

参加学校：16校

参加人数：1,658名



第46回かわさき市美術展

〔会 期〕平成25年2月9日～2月23日

〔入場者〕2,124名

〔主 催〕川崎市・かわさき市美術展運営委員会

〔後 援〕川崎市教育委員会

〔協 賛〕川崎信用金庫、セレサ川崎農業協同組合

〔観覧料〕無料

〔開催趣旨〕

かわさき市美術展は、昭和42年に始まり、平成24年度で46回目を迎えた川崎市で最も歴史のある公募美術展であり、市民の創作活動の発表と研鑽の場として川崎市の文化芸術の振興に寄与してきた。応募作品(214点)のうち、入選作品(89点)を紹介した。

〔主な展示品〕

第46かわさき市美術展 入賞作品

○最優秀賞：工芸《WAVE-Table.》柴原勝治

○特選：平面（油彩）《Preparation》山脇勇大

彫刻・立体造形《ugly body II》岡本恵

書道《蘇東坡詩》大室景石

写真《川崎の空》(3枚組) 鳴海廣治

○ヤング大賞：《SPACE》赤井彩夏

[印刷物]

募集要綱：A4判

チラシ：A4判

ポスター：B3判

入賞・入選作品集・案内葉書

[関連イベント]

◎表彰式

日 程：平成25年2月23日

参加人数：80名

◎講評

日 程：平成25年2月23日

参加人数：100人

与勇輝展—物語のなかに—

[会 期] 平成25年3月2日～3月24日

[入場者] 7,669名

[主 催] 川崎市市民ミュージアム

[協 力] 河口湖ミュージアム・与勇輝館、彩鳳堂画廊

[観覧料] 一般 800円

学生・65歳以上 500円

中学生以下 無料

[開催趣旨]

川崎市中区出身の世界的人形作家である与勇輝は、40代までマネキン制作に従事し、その技術を応用し、布という素材を活かして独自の雰囲気を持つ作品を生み出した。多くの人々を惹きつける、その高い芸術性は小磯良平や佐藤忠良らといった作家らの評価も受けている。

今回は、倉本聰原作『ニンゲル』から想を得て制作された森の小人であるチュチュを主人公とした作品を中心として、「物語」という新たな切り口で展示を構成した。

また、映画少年であったという作家が、小津安二郎へのオマージュを表した作品を展示すると同時に与に影響を与えた映画作品を関連上映することで、弊館での開催の独自性を出すとともに、与勇輝作品の創作の源泉へ触れる機会とすべく企画した。

[主な展示品]

○《灰かぶり》、《ピーターパン》、《水ぬるむ》、《おやつ》など 42体

○「ニンゲル」シリーズ 47体

○「小津」シリーズ 13体

○関連資料ほか

[印刷物]

チラシ：A4判

ポスター：B2判、B3判

[関連イベント]

◎オープニング・レセプション

日 程：平成25年3月2日

開会式 9:00～ 企画展示室1

内覧会 9:15～ 企画展示室1

懇親会 9:50～ 市民ミュージアム内

レストラン3104

参加人数：15名

◎作家による展示作品の解説

日 程：平成25年3月2日・3月10日・3月20日

参加人数：239名

◎作家によるサイン会

日 程：平成25年3月2日・3月10日・3月20日

参加人数：114名

◎トークショー

日 程：平成25年3月16日

参加人数：332名

対 談：与勇輝（人形作家）×山本晋也（映画監督）

◎関連上映

日 程：平成25年3月16日

『東京物語』（監督：小津安二郎） 296名

『鉄道員』（監督：降旗康男） 105名

平成25年3月17日

『鉄道員』（監督：降旗康男） 98名

『東京物語』（監督：小津安二郎） 158名

◎与勇輝が語る『ニンゲル』と「中原区」

日 程：平成25年3月18日

参加人数：中原小学校3年生 112名（引率6名）

◎ベビーカートツアー

日 程：平成25年3月19日

参加人数：12名

◎ミュージアムライブラリーを活用し、出品作に関連する小津安二郎監督作品の鑑賞を促した。

利用者：10名

2 アートギャラリー展示

19世紀末～20世紀前半アメリカ漫画資料展

〔会 期〕5月29日～7月29日

〔会 場〕アートギャラリー1

〔観覧料〕無料

〔監 修〕細萱敦、三浦和志

〔開催趣旨〕

19世紀末から20世紀前半にかけてのアメリカ漫画を、初公開資料を中心に紹介した。

〔主な展示品〕

- 様々な漫画研究本
- コミック・ストリップ誕生前夜を表す資料
- ウィンザー・マッケイ資料

〔関連イベント〕

◎学芸員による展示解説

日 程：6月2日

◎監修者によるギャラリートーク

日 程：6月30日

ブラウン管時代のビデオアート ～ネット時代のビデオ

〔会 期〕5月29日～7月29日

〔会 場〕アートギャラリー2

〔観覧料〕無料

〔開催趣旨〕

世界初のビデオアート作品として認められた作家、ナム・ジュン・パイク（1932-2006）と、2011年に高松宮殿下記念世界文化賞を受賞した作家、ビル・ヴィオラの作品を展示し、テレビがブラウン管時代につくられた前衛的な動く絵画、ビデオ映像芸術を21型のブラウン管テレビで展示し、DVDで作品を再生した。1インチと2インチのVTR装置も展示した。

〔主な展示品〕

○ナム・ジュン・パイク

「Edited for Television」1975年 28分 カラー

「Suite212」1973年 30分 カラー

「Global Groove」1973年 28分 カラー

○ビル・ヴィオラ

「I Do Not Know What Is I am Like」

1981年 89分 カラー

「Hatsu Yume」1981年 56分 カラー

「Reverse Television」1981年 15分 カラー

〔関連イベント〕

◎ワークショップ「ブラウン管テレビ」ビデオフィードバック体験

日 程：7月14日

講 師：瀧健太郎（ビデオアーティスト）

参加者：5名

◎学芸員による展示解説

日 程：6月16日

シリーズ川崎の美術 田中岑 91層の色彩

〔会 期〕5月29日～7月29日

〔会 場〕アートギャラリー3

〔観覧料〕無料

〔開催趣旨〕

第1回安井賞を受賞し、川崎文化賞を受賞するなど、戦前戦後をつうじて多くの作家に影響を与えてきた田中岑の軌跡を、近作を含めた油彩約46点、パステル9点、彫刻2点に、関連資料約20点をあわせて紹介した。

〔主な展示品〕

○田中岑《記憶》1958年

○田中岑《エレジー》1984年

○田中岑《曼荼羅風・赤》2012年

〔関連イベント〕

◎学芸員による展示解説

日 程：7月21日

日活創立100年記念資料展

〔会 期〕8月4日～12月4日

〔会 場〕アートギャラリー1

〔観覧料〕無料

〔開催趣旨〕

映像ホールでの日活創立100年記念上映に合わせて、作品世界をより深く味わうための資料を展示した。

〔主な展示品〕

○日活最盛期 1950～60年代の作品の小道具・衣装・ポスター・立て看板・スチール写真など約100点。

〔関連イベント〕

◎学芸員による展示解説（7回）

日 程：8月4日・8月18日・9月1日・9月15日・9月29日・10月6日・11月3日

濱谷浩写真展：

「こども風土記」「地の貌」

「American America」を中心に

〔会 期〕8月4日～12月4日

〔会 場〕アートギャラリー2・3

〔観覧料〕無料

〔開催趣旨〕

開館当時、川崎の特色を表現するものとして、“時代の記録（ドキュメンタリー）”を写真の収集方針のひとつとした。そのコンセプトに賛同いただいたのが、日本を代表する写真家である濱谷浩である。当館はこの巨匠を特別収集作家と位置づけ、作品を約1000点収蔵している。その中から225点を展示した。

〔主な展示品〕

○「こども風土記」シリーズ 78点

○「地の貌」シリーズ 68点

○「アメリカン・アメリカ」シリーズ 79点

○スライド上映「雪国」「裏日本」

〔関連イベント〕

◎学芸員による展示解説（5回）

日 程：8月11日・8月25日・9月8日・9月22日・10月20日

シリーズ・日本のグラフィック・デザイナー：中村誠のポスター展

〔会 期〕12月4日～平成25年3月31日

〔会 場〕アートギャラリー1

〔観覧料〕無料

〔開催趣旨〕

日本のグラフィックデザイナーを、戦後の草創期

から取り上げるシリーズの第7弾。広告の表現がイラストから写真へ移り変わっていった時代に、資生堂のアート・ディレクター、デザイナーとしてブランドイメージを確立し、国内外で高い評価を得た中村誠の作品を紹介した。

〔主な展示品〕

○中村誠《資生堂海外向け企業ポスター》1963年

○中村誠《JAPON-JOCONDE モナリザ100微笑展ポスター》1971年

○中村誠《資生堂練香水[舞]》1978年

〔関連イベント〕

◎学芸員による展示解説

日 程：12月8日・平成25年1月19日・3月2日

いろとかたちの実験：ヨーゼフ・アルバース『フォーミュレーション：アーティキュレーション』展

〔会 期〕12月4日～平成25年3月31日

〔会 場〕アートギャラリー2

〔観覧料〕無料

〔開催趣旨〕

ヨーゼフ・アルバースの色と形における実験の集大成ともいえる版画集『フォーミュレーション：アーティキュレーション』を展示し、ジャンルを超えて多岐にわたって活躍したアルバース芸術の一端を版画作品40点で構成して紹介した。

〔主な展示品〕

○『フォーミュレーション：アーティキュレーション』

〔関連イベント〕

◎学芸員による展示解説

日 程：12月22日・平成25年2月2日・3月16日

素描とスケッチの愉しみ

〔会 期〕12月4日～平成25年3月31日

〔会 場〕アートギャラリー3

〔観覧料〕無料

〔開催趣旨〕

一つの作品が完成するまでには、たくさんの素描やスケッチが描かれる。これらは作家の日々の鍛錬であり、記録であり、蓄積された財産であり、日本画や油彩画、版画とは異なる、いきいきとした動き

が感じられるものである。本展では、完成作だけではみることのできない、着想から完成にいたるまでの思考の一端を紹介した。

〔主な出品作家〕

安田鞆彦、久保一雄、麻生三郎、田中岑、菅野功、久保田孝司、中尾進、水島健

〔関連イベント〕

◎学芸員による展示解説

日 程：平成25年1月5日・2月16日・3月30日

◎ワークショップ「ポップ・スケッチ・ジャンプ！

－描いて、消して、つなげよう－

日 程：平成25年2月9日

参加人数：16名

参加料：500円

講師：永岡大輔（アーティスト）

3 博物館展示（考古・歴史・民俗）

常設展示「博物館展示」

2007年（平成19年）4月から、時系列に沿って川崎市域の歴史と文化を紹介する展示場としてリニューアルオープンした博物館展示室は、「民俗」、「原始」、「古代」、「中世・近世1」、「近世2」、「近・現代」（「文化財シアター」を改修し2012年（平成24年）5月にリニューアルオープンした）の6室で構成している。展示場の壁面に設置した大きな年表を参照しながら、それぞれの時代を特徴付ける展示資料を観覧できる。

また、展示資料も、現在の調査研究成果を踏まえたものに変更し、新収集品の積極的な公開にも努めている。

第1室「民俗」

川崎市が商工業の発達にともなって都市化への道を歩み始めた頃、多摩川沿いに広がる農村部では稲作を中心とした暮らしが営まれていた。民俗展示室では、そのような村の人々の日常生活、行事、信仰、生産活動を振り返り、どのような地域社会が形成されていったのか、往時の共同体意識・村意識について考察している。導入部に復元されている登戸台和地区の「セエノカミのオコモリ小屋」は、現在では見るができなくなっているもので、貴重な資料として展示している。

〔主な展示品〕

セエノカミのオコモリ小屋（多摩区登戸・台和地区）的祭りの的・弓・矢（中原区・日枝神社、多摩区・子之神社）、平の初卯祭「蛇」（宮前区平・白幡八幡大神）、大山講御神酒枠箱、念仏講道具、講中の掛軸、宮内の雨乞い「ジャ・雷・蛙・オタマジャクシ」（中原区宮内）獅子頭（宮前区初山・菅生神社）、屋根替模型、稲作農具（唐箕、足踏式脱穀機など）など

第2室「原始」

川崎に人類が住み始めた旧石器時代は、いわゆる氷河時代で、日本列島は大陸と南北でつながっていた。この時代、川崎にも小規模ながらいくつかの遺

跡が確認されている。約 13000 年前頃から地球規模で温暖化が始まり、それとともに土器や弓矢が発明された。縄文時代の始まりである。約 1 万年間つづいた縄文時代は、狩猟・採集に基礎をおきながら、後半は植物の管理・栽培も行われていた社会だ。川崎には最も古い段階から、縄文時代終焉までの集落や貝塚などの遺跡が豊富である。農耕が本格化する弥生時代は、集落を溝で囲む環壕集落が登場し、階級社会への歩みを始める時代。第 2 室では、こうした時代の資料を展示している。

〔主な展示品〕

旧石器時代資料（宮前区鷲ヶ峰遺跡）、貝塚出土資料（高津区子母口貝塚・新作貝塚）、貝層剥取り標本（子母口貝塚）、植物調理資料（多摩区 N o . 61 遺跡）、草創期～晩期の土器・石器、弥生時代の土器・石器・ガラス製品など

第 3 室「古 代」

原始農耕社会が円熟してくると、人びとの地域的なまとまりが強くなり、階級が生じてくる。その一つの象徴が古墳である。特定の個人のために大きな墓を作る古墳時代は、川崎周辺では 4 世紀になって登場するようになった。その後 6 世紀後半になると古墳の築造が多くなり、崖面に横穴を掘り、これを古墳とする横穴墓も 7 世紀まで盛んに作られるようになる。しかし、律令国家・仏教思想の進展とともに、次第に古墳築造にかわり、寺院の建立や国衙・郡家の創設とその支配を受けるようになる。川崎の大部分は武蔵国橋樹郡（評）であり、影向寺と千年周辺が、橋樹郡の中心地となった。

〔主な展示品〕

幸区白山古墳出土品（複製）、埴輪（高津区久本山古墳・稲荷塚古墳）、横穴墓出土品（多摩区長者穴、麻生区早野など）、瓦（宮前区影向寺、麻生区岡上 4 遺跡、麻生区宮添）、骨蔵器（多摩区鴛鴦沼）、橋樹郡家ジオラマなど（複製）

第 4 室「中世・近世 1」

古代律令国家が崩壊し、11 世紀になると多くの土地が荘園・公領に編成される。川崎市域にも荘園・公領が確認されるが、ここでは中でも比較的伝来のわかる稲毛荘に関わる資料を展示している。一方、

戦国時代になると、川崎市域は小田原城を拠点とする北条氏の支配地となるが、北条氏の滅亡に伴い、徳川氏の領地となり、近世をむかえることとなる。近世の川崎市域は、江戸近郊に位置することもあり、大部分が幕府直轄領と、旗本の領地となった。しかし、平野部以外に臨海部、丘陵部、河川部など、その地理的条件により、村のくらしは異なっている。

これら領主に関わる資料、人々の生業に関わる資料、平野部の耕作を支えた二ヶ領用水に関する資料を展示している。

〔主な展示品〕

多摩川流域絵図（複製）、稲毛本荘検注目録（複製）、鰐口（複製）、鎌倉将軍家寄進状（複製）、北条氏政判物（複製）、岡上村御縄打水帳、大師河原村塩浜耕地絵図（複製）、稲毛川崎二ヶ領用水絵図上流部・下流部（複製）、小杉・等々力地境争論裁許状（複製）など

第 5 室「近世 2」

江戸時代の川崎を代表する場所として、川崎宿があげられる。東海道の宿場である川崎宿には本陣や問屋場などの機能が備えられ、多くの人々が行き交った。また、江戸より川崎宿に入る手前には多摩川を渡る「六郷の渡し」があり、渡船場が設けられていた。これら街道に関わる資料のほか、幕末の動乱に巻き込まれてゆく、地域の様子がわかる資料を展示している。

〔主な展示品〕

川崎宿ジオラマ、川崎宿問屋記録、宿方明細帳、万年屋模型、松平肥前守様御関札一件、横浜開港関係瓦版、外国人遊歩区域地図（複製）など

第 6 室「近代・現代」

明治政府による改革によって近代化が進められる中、官設鉄道の一停車場として川崎駅も新設される。そして東日本で最初の電気鉄道である京浜電気鉄道が開通し、昭和時代に入ると南武鉄道も開業し徐々に路線を拡大していく。これにより川崎駅から川崎大師にかけての都市化や、京浜工業地帯の発展の礎が築かれていくのである。川崎地域の近代化の始まりから、工業地帯の埋立地の拡大、戦時下の軍需産業に沸いた時期、そして高度経済成長期の川崎に関

連する資料を展示している。

〔主な展示品〕

京浜電気鉄道車両模型、東京郊外電車回遊図絵、
書簡図絵「工場は川崎へ」、浅野総一郎地先埋立
予定地内池上家所有地実測図、川崎港案内など

4 マンスリー展示

2003年（平成15年）7月から、博物館展示室第
5室の一部にマンスリー展示のコーナーを設置。

マンスリー展示では、毎月テーマを設定して収蔵
品を中心に資料紹介をしている。また、毎月第3土
曜日午後1時から学芸員によるマンスリートーク（展
示解説）を開催している。

- | | |
|--------------|--------------------|
| 5月29日～6月29日 | 汽笛一声！鉄道開通140年 |
| 6月30日～7月27日 | 南無阿弥陀仏 念仏講 |
| 7月28日～8月31日 | 夏休みこどもマンスリー 妖怪大集合！ |
| 9月01日～9月28日 | 隣組の歴史 |
| 9月29日～11月4日 | 田中休愚と「民間省要」 |
| 12月4日～12月28日 | まぼろしの鉄道「武相中央鉄道」 |
| 平成25年 | |
| 1月4日～2月1日 | 初春マンスリー 福を呼ぶ「へび」 |
| 2月2日～3月1日 | 川崎・海苔物語 |
| 3月2日～4月5日 | 桜 満開！ |

5 ミュージアムライブラリー（映像）

3階のミュージアムライブラリーでは、VHSテープの邦画と洋画、レーザーディスクを新たに公開し、テレビドキュメンタリー、ニュースを個人の研究視聴として公開している。

個人視聴ブース10台、15インチの液晶テレビでDVDとVHSに対応している。

〔利用者数〕2,458名

〔公開映像一覧〕

- 牛山純一のテレビドキュメンタリー作品
 - 〈ノンフィクション劇場〉シリーズ
 - 〈すばらしい世界旅行〉シリーズ
 - 〈20世紀アワー〉シリーズ
 - 〈たのしい歴史旅行〉シリーズ
 - 〈ナブ号の世界動物探検〉シリーズ
 - 〈生きている人間旅行〉シリーズ
 - 〈知られざる世界〉シリーズ
 - 〈ドキュメント人生の劇場〉シリーズ
 - 〈ナゾの海底探検〉シリーズ
 - 〈ワールドスペシャル〉シリーズ
 - 〈牛山純一の世界〉シリーズ
 - 〈牛山純一と仲間たち〉シリーズ
 - 〈スペシャル番組〉シリーズ
- 日本ニュース映画（1940～1951）
- 神奈川ニュース映画 市政ダイジェスト
- 米国制作の戦争のドキュメンタリー
- 祭りの記録映像
- 日本・外国・映画（日本映画傑作全集他）
- レーザーディスク（NHK特集シルクロード他）

6 ミュージアムライブラリー（図書）

来館者の利用を主眼とした図書室で、約8万冊の書籍の閲覧が可能。また、下記の各分野に関する専門図書をコンピュータによって検索することもできるほか、一部の図書は開架式で自由に閲覧も可能である。各分野のおおよその蔵書数については以下のとおり。（平成25年3月31日現在）

〔利用者数〕7,436名

〔蔵書総数〕80,768冊

〔蔵書一覧〕

総記	2,972冊
歴史（資料集、县市町村史他）	7,201冊
考古（発掘調査報告書他）	25,986冊
民俗	4,410冊
芸術	698冊
美術（入門書、全集、作品集、彫刻史、工芸史他）	993冊
グラフィック（作品集、広告関係他）	741冊
写真（作品集、展覧会図録、技法書他）	3,790冊
映画（解説、評論、シナリオ、技術書）	2,994冊
ビデオ	1,235冊
漫画（研究、評論、作品資料他）	3,199冊
文学（郷土作家作品集他）	366冊
自然科学（動植物、天体、自然調査報告書他）	110冊
博物館・美術館	17,723冊
川崎市市民ミュージアム	831冊
子供資料	229冊
洋書	1,572冊
雑誌	5,479冊
共通図書	239冊

7 映画上映

〔会場〕 映像ホール
〔主催〕 川崎市市民ミュージアム
〔鑑賞人数〕 8,464名
〔上映回数〕 128回

●生誕100年・新藤兼人

6月2日 最新作+デビュー作
12:30～ 一枚のハガキ
15:00～ 愛妻物語
6月3日 「人間」を追求した主題
12:30～ 狼
14:45～ 人間
6月9日 女性の生き方
12:00～ 縮図
15:00～ 母
6月10日 戦争をテーマにした作品
12:30～ 一枚のハガキ
15:00～ 原爆の子
6月16日 ドキュメントの視線
12:30～ ある映画監督の生涯 私家版
16:00～ 尖石遺跡
6月17日 有名な原作の大胆な読み替え
12:30～ 讃歌
15:00～ 心
6月23日 日本の近代化への批判
12:00～ 裸の十九才
14:00～ トークショー（堀内正美、神山征二郎）
15:00～ わが道
6月24日 実在の事件、場所、人物を題材に
12:30～ 竹山ひとり旅
15:00～ 村八分
6月30日 独立プロの代表作①
12:00～ 女ひとり大地を行く
15:00～ 裸の島
7月1日 独立プロの代表作②
12:30～ 松川事件

●いのちということ

7月7日
12:30～ 育子からの手紙

15:00～ かかしの旅
7月8日
12:30～ 茗荷村見聞記
15:00～ ちぎれ雲～いつか老人介護

●シネマテーク・コレクション

G. アラヴィンダン特集

7月14日
12:30～ サークス
15:00～ 魔法使いのおじいさん
7月15日
12:30～ 黄昏
15:00～ エスタッパン
7月16日
12:30～ オリダット・あるところで
15:00～ 追われた人々
7月21日
12:30～ サハジャ
アナディ・ダーラ
15:00～ 黄金のシーター

●「郷土・川崎を掘る」展関連イベント

16ミリ上映会

7月28日・7月29日
12:30～ 岡上丸山遺跡の発掘／影向寺遺跡の発掘

●アニメーション特集

川崎市市民ミュージアム×CALF

8月4日
12:30～16:30
子ども向けアニメーション・ワークショップ
8月11日
12:30～ CALF セレクション A
13:40～ トークショー
（水江未来・古川タク・姫田真武）
8月12日
12:30～ ミュージアムコレクション
14:30～ CALF セレクション A
8月18日
12:30～ CALF セレクション B
14:30～ ミュージアムコレクション
8月19日

12:30 ～ CALF セレクション A
14:30 ～ CALF セレクション B

●美術館名品展 関連上映

8月25日

12:30 ～ 家族ゲーム
15:00 ～ の・ようなもの

8月26日

12:30 ～ あさき夢みし
15:00 ～ サード

9月1日

12:00 ～ ミスター・ミセス・ミス・ロンリー
14:45 ～ 真空地帯

9月2日

12:00 ～ 夜明け前
15:00 ～ 金閣寺

9月8日

11:30 ～ 太陽のない街
14:30 ～ 橋のない川

9月9日

12:30 ～ あゝ野麦峠

●プロモーション特別上映

「父をめぐる旅－異才の日本画家 中村正義の生涯」

9月15日

10:30 ～ 父をめぐる旅
－異才の日本画家 中村正義の生涯
12:30 ～ トークショー（中村敏子・中村倫子）
14:00 ～ 怪談＜短縮版＞

9月16日

10:30 ～ 怪談＜短縮版＞
13:30 ～ トークショー（小川益王・武重邦夫）
15:00 ～ 父をめぐる旅
－異才の日本画家 中村正義の生涯

●日活100周年記念上映 日活アクションの世界

9月17日

12:30 ～ 太平洋ひとりぼっち
15:00 ～ あいつと私

9月23日

12:30 ～ ギターを抱えたひとり旅
15:00 ～ 俺にさわると危ないぜ

9月29日

12:30 ～ 銀座の恋の物語
15:00 ～ 勝利者

9月30日

12:30 ～ 関東遊侠伝
15:00 ～ 血斗

10月13日

12:30 ～ 女番長・野良猫ロック
15:00 ～ 野良猫ロック・マシンアニマル

10月14日

12:30 ～ 野良猫ロック・ワイルドジャンボ
15:00 ～ 野良猫ロック・暴走集団'71

10月20日

12:00 ～ トークショー（白鳥あかね）
12:30 ～ 縄張（シマ）はもらった
14:30 ～ トークショー（宍戸錠・佐藤利明）
16:00 ～ みな殺しの拳銃

10月21日

12:30 ～ 新宿アウトロー・ぶっ飛ばせ
15:00 ～ 無頼・人斬り五郎

10月27日

12:30 ～ 前科・仮釈放
15:00 ～ 前科・ドス嵐

10月28日

12:30 ～ 反逆のメロディー
14:10 ～ トークショー
（澤田幸弘・佐藤蛾次郎・佐藤利明）
15:30 ～ 斬り込み

●脚本家・田村孟

12月15日

12:30 ～ 死者との結婚
15:00 ～ 彼女だけが知っている

12月16日

12:30 ～ 悪人志願
14:00 ～ トークショー
（荒井晴彦・井土紀州・土田環）

15:30 ～ 白昼の通り魔

12月22日

12:30 ～ 狼の王子
15:00 ～ 未成年
続・キューポラのある街

12月23日

12:30～ 花嫁は十五才

15:00～ 日本春歌考

12月24日

12:30～ 無理心中日本の夏

15:00～ 炎と女

平成25年1月12日

12:30～ 儀式

15:00～ 飼育

16:55～ トークショー（佐藤忠男）

1月13日

12:30～ さらばモスクワ愚連隊

15:00～ 新宿泥棒日記

1月14日

12:30～ 夏の妹

15:00～ 帰ってきたヨッパライ

1月19日

12:00～ 青春の殺人者

14:20～ トークショー（渡辺千明）

15:30～ 十八歳、海へ

1月20日

12:00～ 瀬戸内少年野球団

15:00～ 少年

1月26日

12:30～ 絞死刑

15:00～ 片翼だけの天使

1月27日

12:00～ 波光きらめく果て

14:45～ 舞姫

●『ベイビーズ』上映会

12月6日 10:00～

12月11日 10:00～

12月18日 10:00～

12月20日 10:00～

●サッカー映画上映会

平成25年1月5日

12:30～・15:00～ ユナイテッド・ミュンヘンの悲劇

●坂本九顕彰事業 九ちゃんの夢

平成25年1月6日

12:30～ 上を向いて歩こう

15:00～ 九ちゃんのでっかい夢

●毎日映画コンクール表彰式開催記念

過去受賞作品アンコール上映

歴代受賞作品特集

平成25年2月3日

12:30～ サウダージ

15:30～ トークショー（富田克也・相澤虎之助）

2月9日

12:30～ 彼女と彼

15:00～ 不良少年

2月10日

12:30～ 他人の顔

15:00～ おとし穴

2月11日

12:30～ 砂の女

15:00～ 若者たち

●「与勇輝展—物語のなかに—」関連上映

平成25年3月16日

11:00～ 東京物語

13:30～ トークショー（与勇輝・山本晋也）

15:00～ 鉄道員（ぽっぽや）

3月17日

12:00～ 鉄道員（ぽっぽや）

14:30～ 東京物語

●「昔の暮らし今の暮らし2013」関連上映

平成25年3月20日

13:30～ 日本文化のふるさと 第7集

椿山 焼畑に生きる

15:30～ 日本の稲作—そのころと伝統— /

千年の紺屋 / 川崎のさきやま

●ポルトガル映画界の新鋭

ジョアン・ペドロ・ロドリゲス

平成25年3月23日

12:30～ オデット

15:00～ 追憶のマカオ

3月24日

12:30～ オデット

14:15～ ロドリゲス監督トークショー
 15:30～ 〈短篇ドキュメンタリー〉
 これが私の家
 万博への旅
 3月30日
 12:30～ 〈短篇ドキュメンタリー〉
 これが私の家
 万博への旅
 15:00～ 〈短篇集1〉
 ハッピーバースデー！
 チャイナ・チャイナ
 聖アントニオの朝
 3月31日
 12:30～ 〈短篇集2〉
 紅い夜明け
 火は上がり、火は鎮まる
 羊飼い
 15:00～ 追憶のマカオ

8 ビデオ・DVD上映

〔会場〕映像ホール
 〔主催〕川崎市市民ミュージアム
 〔入場者〕1,121名
 〔上映回数〕45回
 〔日程〕毎週水曜日 14:00～/毎月第2火曜日 14:00～

●6月 沖縄特集

6月6日
 乾いた沖縄／水と風
 6月13日
 沖縄の十八歳／沈黙の島
 6月20日
 0歳につぼん
 6月27日
 遅すぎた聖所～検証・沖縄戦への道

●7月 すばらしい世界旅行「野生動物の生態」特集

7月4日
 ふたごのゴリラ／ゴリラと暮らす
 7月11日
 立った歩いた。赤ちゃんゴリラ誕生から300日

食べた遊んだ。赤ちゃんゴリラ誕生から300日
 7月18日
 ライオン・トラ・ヒョウ・只今135頭〈前篇／後編〉
 7月25日
 海底の野生の闘争 南太平洋〈前篇／後編〉

●8月 戦争の悲劇を伝えるドキュメンタリー特集

8月1日
 生きている日本海戦〈前篇／後編〉
 8月8日
 生きている墓標 トラックの海底をゆく／
 生きている玉砕の島 サイパンの海底をゆく
 8月15日
 女たちの太平洋戦争〈前篇／後編〉
 8月22日
 あの涙は忘れない
 日本が朝鮮を支配した36年間
 8月29日
 ニューギニアに散った16万の青春

●9月 すばらしい世界旅行「牛山純一と仲間たち 少数民族の生活文化」特集

9月5日
 東ニューギニア縦断記
 9月12日
 クラ 西太平洋の遠洋航海者
 9月19日
 東南アジア山の民 海の民 ケチャのある村 バリ島
 9月26日
 海を顔に彫る 西太平洋 海の民

●10月 テレビ文化の再発見

10月3日
 シンポジウム テレビ番組の保存と価値
 10月10日
 老人と鷹／軍鶏師／ドキュメンタリー消える村
 10月17日
 森の狩人ピグミーアフリカの密林と砂漠から
 トークショー
 10月31日
 能登の海 風たより
 11月3日

牛山純一ドキュメンタリー サンゴ礁があぶないよ
11月4日
推理ドキュメント アンコール遺跡盗難事件

● 12月 中国を知るためのドキュメンタリー
「激動する大国 中国の歴史・文化」特集

12月5日
伝記・毛沢東
12月12日
中国の新しい風・上海の市民と暮らす1978年 秋
12月19日
死の海 タクラマカン砂漠 中国21世紀への旅
12月26日
三岐ダム大移住計画 113万人の故郷が沈む
中国21世紀への旅

● 「テレビ文化の再発見」特集上映
TBSドラマ「岸辺のアルバム」～何を伝え残していくか～

12月8日
14:00～ 「岸辺のアルバム」第1話・第2話
12月9日
14:00～ 「岸辺のアルバム」第15話
15:00～ 対談 構想からドラマ化まで、家族観の
変化について（山田太一、大山勝美）

●平成25年1月「共生とは何か アマゾンの密林
に暮らすインディオの生活」

平成25年1月9日
密林の裸族を守れ 大アマゾンの生と死
〈前篇・後編〉
1月16日
大アマゾンの裸族はいま
故郷を捨てる・大アマゾンの裸族は故郷を思って泣く
1月23日
大アマゾンで密林を追う。縁の魔境を走る。
大アマゾンの幻の町
1月30日
アマゾンの50年戦争
インディオ・ラオニのたどった道

● 2月 アフリカ大陸
狩猟生活をするブッシュマンの叡智

2月6日
ブッシュマンとの70日間 アフリカの密林と砂漠から
2月13日
ブッシュマンキリンを倒す 馬に乗ったブッシュマン

● 3月 家族の記録と日常生活
3月13日
20世紀アワー 多知さん一家の3年
3月27日
ナザレの女・スペインの子たくさん一家

● 「祭りの映像記憶」上映と解説
〔日程〕毎月第2火曜日 14:00～

6月12日
沖縄の伝説芸能の紹介
「エイサー沖縄全島エイサーまつり」
「旗頭（那覇大綱挽）」
「獅子舞（西表島の節祭）」
「村踊（伊江島の村踊り）」
「祈り（久高島のヨーカビー）」
「ハーレー（塩屋湾のウンガミ）」
「波照間島のムシャーナ（竹富町 波照間）」
「石垣島のアンガマ（石垣市）」
「安田のシヌグ（国頭村 安田）」

7月10日
祇園の祭り
「京都祇園祭り（京都）」
「成田祇園祭り（千葉）」
「新庄ぎおんさんの夜見世（和歌山）」
「お礼まき（神奈川）」
「小倉祇園太鼓（福岡）」
「日田祇園の曳山行事（大分）」
「鶯舞（島根）」
「戸畑祇園大山笠（福岡）」
「田鳥祇園祭のおとことや行事（福岡）」

8月14日
盆踊りの祭り
「山鹿灯籠踊り（熊本）」
「十津川の大踊り（奈良）」

「郡上踊り（岐阜）」

9月11日

仮面の祭り

「野原のパーントゥ（沖縄）」

「硫黄島のメンドン（鹿児島）」

「悪石島のボゼ（鹿児島）」

10月16日

舞楽の祭り

「聖霊会の舞楽（大阪府）」

「遠江森町の舞楽（静岡県）」

「林家舞楽（山形県）」

「小滝のチョウクライロ舞（秋田県）」

「浄瑠璃寺の獅子舞（長野県）」

「皇大神宮の春の神楽祭（三重県）」

12月11日

華麗な山車のでる祭り

「秩父夜祭（埼玉）」

「亀崎潮干祭（愛知）」

「高山祭（岐阜）」

平成25年1月8日

どんと祭り

「酒津のどんと祭（鳥取）」

「勝山左義長まつり（福井）」

「三島のサイカミ（福島）」

2月19日

綱引きの祭り

「那覇大綱挽き（沖縄）」

「三朝のジンショ（鳥取）」

「刈和野の大綱引き（秋田）」

3月12日

勇壮な神輿の祭り

「鳥越まつり（東京都）」

「国津比古命神社例祭（愛媛県）」

「日吉大社・山王祭（滋賀県）」

9 ミニホール・ビデオ上映

ミニホールでは、「川崎市 市政ニュース映画」「お子さま向けアニメーション」「日本映画傑作選」を定期的に上映し、市民のホームシアターとして所蔵するビデオやDVDを活用した。

〔利用者数〕 490名

●「川崎市 市政ニュースダイジェスト」を各区、年代で定期上映

日 程：毎月 14:00～16:00

定 員：当日 先着40名まで（無料）

6月10日

「麻生区のニュース映画」

7月14日

「幸区のニュース映画」

8月26日

「川崎区のニュース映画」

9月23日

「中原区のニュース映画」

10月21日

「多摩区のニュース映画」

12月23日

「宮前区のニュース映画」

平成25年1月27日

「高津区のニュース映画」

2月26日

「昭和30年代の川崎ニュース映画」

3月24日

「昭和40年代の川崎ニュース映画」

●日本映画傑作選

所蔵ビデオの解説と上映を、毎月1回、午前と午後に分けて行った。

日 程：毎月第4火曜日 10:30～・13:30～

定 員：当日先着順40名まで（無料）

6月26日

「三等重役」昭和27年新東宝

7月24日

「続三等重役」昭和 27 年新東宝
8 月 28 日
「ひばり十八番お譲吉三」昭和 35 年東映
9 月 25 日
「愛妻記」昭和 34 年東宝
10 月 23 日
「雪之丞変化」昭和 10 年松竹
12 月 18 日
「自由ヶ丘夫人」昭和 35 年東宝
平成 25 年 1 月 22 日
「水戸黄門漫遊記」昭和 44 年東宝
2 月 26 日
「落葉樹」昭和 61 年丸井工文社

●お子さま向けアニメーション

世界の絵本を原作としてアニメーション化した作品シリーズを紹介した。

定 員：毎月第 1 土曜日 14:00 ～ 16:00

6 月 23 日
「世界の絵本箱レオ・レオニ 5 つのお話他」
7 月 24 日
「世界の絵本箱くまのコールテンくん他」
8 月 18 日
「世界の絵本箱ロージーのおさんぽ他」
9 月 29 日
「世界の絵本箱すてきな三にんぐみ他」
10 月 27 日
「世界の絵本箱ものをいうほね他」
12 月 15 日
「世界の絵本箱まほうつかいのノナおばさん他」
平成 25 年 1 月 19 日
「世界の絵本箱チェンジズ・チェンジズ他」
2 月 16 日
「世界の絵本箱ゆうかんなアイリーン他」
3 月 16 日
「世界の絵本箱モリスのまほおうのふくろ他」

10 他団体の展示等

MOA 美術館川崎市児童作品展

会期：10 月 26 日～10 月 28 日

主催：MOA 美術館川崎市児童作品展実行委員会

会場：企画展示室 2・ミュージアムギャラリー

収集・整理・保存

1 収集

(1) 考古担当

〔収集方針〕

川崎市域で発掘・発見された考古資料を中心に、周辺地域の関係資料の複製の収集を行っている。

24年度の収集は行っていない。

(2) 歴史担当

〔収集方針〕

川崎市域史に関わる歴史資料、および川崎を描いた絵画資料（絵図類・錦絵など）、また都市生活資料を中心に収集活動を行っている。

〔寄贈資料〕

石盤 1点（近現代資料）

川崎沿岸古写真 一括（近現代資料）

白黒テレビ 1点（都市生活資料）

〔購入資料〕

東海道絵巻 一卷

吉田初三郎「川崎大師図絵」 1点

〔複製資料〕

横浜貿易新報（大正5年7月3日付） 1点

南武鉄道図絵 1点

(3) 民俗担当

〔収集方針〕

川崎市域に伝えられてきた民俗資料を中心に収集を行っている。

〔寄贈資料〕

栗原昭夫氏寄贈資料 12点（生活用具 他）

小島尚子氏寄贈資料 4点（和釘、茶摘み籠 他）

(4) 美術・文芸担当

〔収集方針〕

川崎市にかかわる作家の作品、資料の収集を行っている。

〔購入作品〕

雑誌「詩の家 特集古賀春江」昭和28年

田中岑 「常世の長鳴」油彩、キャンバス 2005年

「森の径」油彩、キャンバス 1964年

「光炎」油彩、キャンバス 2000年

「この扉を」油彩、キャンバス 1992年

「日輪」油彩、キャンバス 2006年

「祭壇・黄」油彩、キャンバス 2003年

「風の道」油彩、キャンバス 1991年

「エレジー」油彩、キャンバス 1984年

「扉」油彩、キャンバス

「樹木」油彩、キャンバス 1967年

「緑のトンネル」油彩、キャンバス

2012年

「曼荼羅風・赤」油彩、キャンバス

2012年

「曼荼羅風・青」油彩、キャンバス 2012年

「曼荼羅風・黄」油彩、キャンバス 2012年

〔寄贈作品〕

田中岑 「扉」油彩、キャンバス

「海と虹」油彩、キャンバス 2012年

「緑陰」油彩、キャンバス 2012年

「無題」パステル画 1996年 10点

結城天童「郷愁」紙本着彩 1987年

「春を待つ」紙本着彩 2002年

「雪国」紙本着彩 2005年

「紅花の咲く頃」紙本着彩 2008年

「春を待つ月山」紙本着彩 2010年

「吾が庭」紙本着彩 2011年

(5) グラフィック担当

〔収集方針〕

ポスターと現代版画、および関連資料の収集を行っている。ポスターでは特に、印刷技術の発達により多色刷り・大判のポスター製作が可能になった19世紀から20世紀前半までのフランスを中心とするヨーロッパのポスターと、現代日本の優れたグラフィックデザイナーのポスター収集に力を入れている。版画ではポップ・アートを中心に収集している。24年度の収集は行っていない。

(6) 写真担当

〔収集方針〕

国内外の重要なドキュメンタリー作品の収集ならび

に写真史の上で貴重な作品資料の収集を行っている。

24年度の収集は行っていない。

(7) 漫画担当

〔収集方針〕

日本漫画史を通観できる作品・資料、日本と相互影響関係にある外国漫画資料を収集している。

〔寄贈資料〕

漫画フィルム（キング社製 35mm ロールフィルム）及び幻灯機（FUJI PHOTO FILM Co.,LTD. 製）

(8) 映画担当

〔収集方針〕

独立プロダクションの作品の収集を基本としている。

〔購入作品〕

「陽炎座」（1981年 制作：シネマ・プラセット）

「夢 二」（1991年 制作：荒戸源次郎事務所）

(9) ビデオ担当

〔収集方針〕

20世紀の記録・表現として時代・社会及び文化を反映する貴重な映像を収集することを基本方針としている。24年度の収集は行っていない。

2 整理・保存・修復

(1) 考古担当

〔整理〕

川崎考古学研究所旧蔵資料の受け入れに伴い、ひきつづき考古資料のデータベース入力作業を行った。

〔保存・修復〕

梶ヶ谷神明社出土土器 5点

第六天遺跡出土土器 1点

鷺沼遺跡出土土器 2点

野川十三菩提遺跡出土土器 1点

東泉寺上遺跡出土土器 1点

(2) 歴史担当

〔整理〕

平成23年度に引き続き、収蔵古文書の再整理を

行うと共に、データベースの入力作業を進めた。特に梶ヶ谷村・田村家文書について再整理、データ化が終了した。

〔保存・修復〕

深瀬家文書の修復・裏打ち 5点

(3) 民俗担当

〔整理〕

平成24年度収集資料の受け入れに伴い、資料のクリーニング、注記、撮影、資料カード作成を実施した。ひきつづき、民俗資料のデータベース入力作業を行った。

〔保存・修復〕

資料燻蒸 3回

石油ランプのガラスホヤ 1点修復

(4) 美術・文芸担当

〔整理〕

アートギャラリー展「田中岑 91層の色彩」、「素描とスケッチの愉しみ」展のための関連作品、資料の整理を行った。また、寄贈予定作品である中尾進、久保田孝司の作品の整理を行った。

〔保存・修復〕

斎藤寿一「青い点」の修復

資料燻蒸 2回

(5) グラフィック担当

〔整理〕

マガジンカバー 約600件 作品カード作成

〔保存・修復〕

栗津潔《ハスキーのふるえ ビートばくはつ》(B倍、シルクスクリーン) 修復

資料燻蒸 1回

(6) 写真担当

〔整理〕

川崎市主催写真コンクールの応募作品の平成25年度アートギャラリー展示に伴い、600点の画像及びデータ入力及び整理作業を行った。

〔保存・修復〕

木村伊兵衛写真賞受賞作品8点の展示整備を行った。

(7) 漫画担当

〔整理〕

平成22年度から続けている江戸時代から昭和初期にかけての収蔵作品・資料約2,000件の確認及びデータ補完作業を行った。また未整理であった岡本一平、下川凹天資料約20件の特定作業を行った。一方で、雑誌・単行本資料の整理と、データ整備を引き続き行った。

〔保存・修復〕

資料燻蒸2回

(8) 映画担当

〔整理・保存〕

- 台本や映画製作関連資料など、実相寺昭雄関連寄贈資料の整理。
- 劇団民芸公演記録のデジタル化作業。
- 小川益生監督「日本の華 肉筆浮世絵」35mmプリント焼増

(9) ビデオ担当

〔整理〕

コンピュータ室、寄贈資料及びフィルムの整理作業。実相寺昭雄寄贈資料（100箱・棚2つ分）と村木良彦資料（85箱・棚4つ分）書籍／雑誌（120箱）の分類・整理作業を行った。

3 収蔵品の貸出・他館への協力

(1) 考古担当

〔資料貸出 4件 1,120点〕

- 黒川No.10遺跡、下原遺跡、岡上遺跡、宮添遺跡出土品ほか1,029点（川崎市立柿生中学校）
- 南原遺跡出土資料49点（川崎市立南原小学校）
- 東高根遺跡出土土器 一括（東高根森林公園）
- 黒川遺跡群出土土器・子思口富士見台遺跡出土土器ほか4点

（神奈川県教育委員会教育局生涯学習部文化遺産課）

〔特別利用 5件 50点〕

熟覧・撮影

- 万福寺遺跡群出土資料 一式（個人）
- 岡上遺跡出土土器 20点（個人）

- 日向横穴墓出土資料 一式（個人）

原版使用

- 鎗ヶ崎遺跡発掘調査風景 4点（川崎市立西梶ヶ谷小学校）
- 土器棺 1点（青森県環境生活部）

(2) 歴史担当

〔資料貸出 3件 25点〕

- 『源平盛衰記』ほか 14点（横浜市歴史博物館「畠山重忠」展）
- 「祐之地震之記」 1点（大磯町郷土資料館「大磯の災害」展）
- 川崎監視硝記録簿ほか10点（川崎市平和館「川崎大空襲記録」展）

〔特別利用 23件 147点〕

熟覧

- 市川家文書 1点（個人）

撮影

- 「祐之地震之記」1点（株式会社日本能率協会総合研究所）
- 「祐之地震之記」1点（大磯町郷土資料館）
- 川崎都市計画図 5点（日吉郷土史会）
- 安藤家文書 30点（川崎市教育委員会文化財課）

原版使用

- 原家文書 1点（個人）
- 川崎港歴史写真 1点（川崎市港湾局誘致振興課）
- 『ニヶ領用水』パンフレット掲載写真2点（株式会社プラスミック・シーエフビー）
- 森家文書 4点（個人）
- 『源平盛衰記』ほか 7点（横浜市歴史博物館）
- 森家文書 2点（個人）
- 古筆手鑑「披香殿」1点（日本習字教育財団）
- 円筒分水模型 2点（日本大学高等学部・放送部）
- 白黒テレビほか9点（川崎市立生田小学校）
- 稲荷新田絵図ほか49点（川崎市総合企画局公園緑地まちづくり調整室）
- 「祐之地震之記」1点（大磯町郷土資料館）
- 奈良茶飯模型 1点（江戸東京博物館）
- 奈良茶飯 1点（株式会社ベストセラーズ）
- 瓦版「蒸気船之図」1点（聖学院大学出版会）
- 上田家文書 1点（個人）

(3) 民俗担当

〔資料貸出 2件 4点〕

- 柴田是真作「瓦灯蒔絵竹籠」1点 (財根津美術館)
- 千歯扱き 3点 (横浜市歴史博物館)

〔特別利用 14件 29点〕

熟 覧

- 砂盛模型 1点 (横浜市歴史博物館)
- 化物絵巻他 5点 (横須賀美術館)
- 地獄草紙他 6点 (宮崎県総合博物館)

撮 影

- 梶ヶ谷のお神酒榨 1点
(公益財団法人 川崎市文化財団)

原版使用

- 水虎之図 2点 (オフィスエコーズ)
- 水虎之図 1点 (国立歴史民俗博物館)
- 原美恵子氏旧蔵写真 1点 (個人)
- 水虎之図 1点 (有フォルスタッフ)
- 河童像 1点 (有限会社ハユマ)
- 長尾神社の射的祭 DVD 1点 (川崎市多摩市民館)
- 化物絵巻 2点 (株NHK エンタープライズ)
- 千歯扱き 3点 (横浜市歴史博物館)
- 化物絵巻 1点 (株アトファクトリー)
- 大山講御神酒榨 3点 (神奈川県立歴史博物館)

(4) 美術・文芸担当

〔資料貸出 1件 3点〕

- 「濱田が会った魅惑の近代」展 3点
(益子陶芸美術館)

〔特別利用 5件 5点〕

原版使用

- 「鹿児島征討記聞」(株式会社十象舎)
- 安田鞞彦「草薙の剣」(新潮社)
- 「鹿児島征討記聞」(株式会社十象舎 再版)
- 安田鞞彦「草薙の剣」(有限会社モノアート)
- 「土族の商法」(株式会社 ロムアート)

(5) グラフィック担当

〔資料貸出 3件 5点〕

- 「日本の映画ポスター芸術」展 3点
(京都国立近代美術館)
- 「小野佐世男」展 前期1点 後期1点
(川崎市岡本太郎美術館)

〔特別利用 5件 16点〕

原版使用

5件 16点

(6) 写真担当

〔資料貸出 3件 11点〕

- 本城直季作品1点 (写大ギャラリー)
- 岩波写真文庫4点 (岡本太郎美術館)
- 木村伊兵衛関連作品・資料6点
(長野県信濃美術館)

〔特別利用 7件 49点〕

原版使用

- 昭和30年代から40年代の川崎市内撮影写真
2点 (個人)
- 昭和30年代から40年代の川崎市内撮影写真
1点 (川崎市港湾局)
- 昭和30年代から40年代の川崎市内撮影写真
2点 (川崎市幸区子ども支援室)
- 昭和30年代から40年代の川崎市内撮影写真
20点 (川崎市川崎区役所まちづくり推進部)
- 昭和30年代から40年代の川崎市内撮影写真
1点 (雑誌「多摩人」)
- 昭和30年代から40年代の川崎市内撮影写真
3点 (川崎市総合企画局)
- 昭和30年代から40年代の川崎市内撮影写真
20点 (川崎市港湾局)

(7) 漫画担当

〔資料貸出 5件 42点〕

- 畑中純版画作品 12点
(北九州市漫画ミュージアム開館記念展)
- 「週刊少年マガジン」2点 (埼玉県立近代美術館
「開館30周年記念展 日本の70年代 1968-1982」)
- 岡本一平「世界一周図絵」ほか岡本一平作品24
点 (美濃加茂市民ミュージアム「岡本一平」展)
- 雑誌「バクショー」2点 (川崎市岡本太郎美術館
「小野佐世男—モガ・オン・パレード」展)
- 雑誌「ジャパン・パンチ」2点 (品川区立品川
歴史館展示室「品川鉄道事始—陸蒸気が品川を
走る」展)

〔特別利用 25件 285点〕

熟 覧

- 画図百鬼夜行 1点 (横須賀市美術館)
- 今昔百鬼拾遺ほか 3点 (宮崎県立総合博物館)

撮 影

- 明治ポンチ本ほか 5点 (個人)
- 東京パック、バクショー 102点 (川崎市岡本太郎美術館)
- 雑誌「漫画」 24点 (個人)

原版使用

- ビゴー風刺画 2点 (株山川出版社)
- 村山知義「母親になったモダンガール」 1点 (森話社)
- ビゴー風刺画 2点 (有評価問題研究所)
- 画図百鬼夜行より「河童」ほか 4点 (個人)
- 「東京パック」「バクショー」 102点 (川崎市岡本太郎美術館)
- 「漫画少年」 2点 (個人)
- ビゴー風刺画 2点 (株第一学習社)
- ビゴー風刺画 1点 (学校法人高宮学園 代々木ゼミナール)
- ビゴー風刺画 2点 (株学研プロダクツ)
- ビゴー風刺画 1点 (有マイストリート)
- ビゴー風刺画 1点 (株山川出版社)
- ビゴー風刺画 2点 (株山川出版社)
- 画図百鬼夜行ほか 5点 (江東区深川江戸資料館)
- ビゴー風刺画 2点 (東京書籍株式会社)
- 「巷説行革風景」 1点 (オフィス・ゆう)
- 岡本一平「欠伸をしに」ほか 10点 (美濃加茂市民ミュージアム)
- 岡本一平「今日日曜也」 1点 (株東京美術)
- ビゴー風刺画 2点 (有評価問題研究所)
- 岡本一平新聞原稿ほか 6点 (美濃加茂市民ミュージアム)
- ビゴー風刺画 1点 (株山川出版社)

(8) 映画担当

[特別利用 6件 14点]

原版使用

- 「つぶれかかった右眼のために」
- 「エクスタシス」
- 「アートマン」

- 「色即是空」 (モントリオール “Visual Underground: Theatre Scorpio&Japanese Cinema of the sixties” 映画祭)
- 「松川事件」 (「川崎・しんゆり芸術祭 2012」で上映)
- シナリオ「わるいやつら」他5点 (北九州市立松本清張記念館 企画展)
- ゾーエトロープ (チネチッタ)
- 井手雅人小説原稿「地の塩」(個人)
- 「モスクワ・エレジー」(株パンドラ)

調査研究

1 調査研究

(1) 考古担当

平成24年度は鶴見大学との共同研究「川崎市市民ミュージアムにおける収蔵品の文化財科学的調査研究」を実施した。考古担当分野では、鉄器の保存科学的調査研究のための保存処理を行ったことの報告書を作成し、『文化財学雑誌』第9号（鶴見大学文化財学会発行）に掲載した。

また多摩川流域遺跡群研究会との共同研究で、蟹ヶ谷古墳群の発掘調査を5年間で行う事業を開始した。初年度である平成24年度は測量調査を実施し、第1・2・3号墳の3基の測量図と周辺地形図を作製した。

(2) 歴史担当

昨年度に引き続き、多摩区菅に残る古代寺院寺尾台廢堂（八角円堂）に関連して、古代以寺院の調査を行った。また近現代に関する調査として、川崎と人口規模を同じくする政令指定都市の北九州、京都、名古屋において、関連する資料の調査を行った。

(3) 民俗担当

昨年度に続き、鶴見大学との共同研究「川崎市市民ミュージアムにおける収蔵品の文化財科学的調査研究」を実施した。所蔵資料の千歯抜き30点について、木製台座部分の赤外線写真撮影を実施し、千歯抜きに墨書されている文字データを集積した。

(4) 美術・文芸担当

企画展「中村正義の顔」展、「与勇輝展－物語のなかに－」、アートギャラリー展「田中岑 91層の色彩」、「素描とスケッチの愉しみ」に関わる調査を行い、このうち「田中岑」については、その成果を紀要にまとめた。また、来年度の展覧会の準備として、川崎ゆかりの作家久保田孝司、深見隆などの調査を行った。

(5) グラフィック担当

マガジнкаバー資料600件の作品カード化に伴い、作品名、作家名、年代の特定のため、調査を行った。アートギャラリー展に際し、中村誠の文献調査、ヨーゼフ・アルバースの作品調査を行った。

(6) 写真担当

企画展「林忠彦賞20回記念写真展」、アートギャラリー展「濱谷浩写真展「こども風土記」「地の貌」「American America」を中心に」に関わる調査を行った。

(7) 漫画担当

資料整理に関連して、岡本一平、下川凹天資料特定のため調査を行い、その結果、約20点の資料が特定された。並行して、開館25周年に合わせて行われる予定の現代美術展に関する作家作品調査を行った。

また、学習院大学大学院夏目房之介研究室との共同研究がスタートした。2012年12月～2013年3月の活動は、4月以降の本格的な活動開始に向けて研究者のオリエンテーションを行ない、当面の活動目的である下川凹天資料264件の基礎整理作業を行った。

(8) 映画担当

アートギャラリー展示「日活創立100年記念資料展」に際し、日本最古の映画会社である日活について調査を行い、展示構成や展覧会内容に反映させた。特に展示で取り上げた1950～1970年代については、製作された映画作品についても調査し、特集上映に反映させた。

(9) 映像（ビデオ）担当

放送文化基金助成による「村木良彦に関する資料のアーカイブ的研究」として、大分類から中分類と台本のデジタル化などを行い、報告書を作成した。3月31日に報告・シンポジウムを実施した。

2 出版

(1) 『川崎市市民ミュージアム紀要第 25 集』

川崎市市民ミュージアム紀要は、考古・歴史・民俗・美術文芸・グラフィック・写真・漫画・映画・ビデオ及び施設運営・管理などに関する論文・資料紹介・研究ノートから構成し、ミュージアム職員の日頃の調査研究の成果を発表したものである。

〔内 容〕

- 擬人化動物写真家ハリー・ホイッティアー・フリースについて 林司
- 田中岑 油彩画制作とそれにとまなう展開について 喜安嶺
- ストーリー漫画家としての宍戸左行 佐々木果
- 馬絹古墳の再検討にむけて 新井悟
- 博物館における高齢者対象プログラムについて 内海美佳

〔仕 様〕

B 5 判 56 頁

〔発 行〕

平成 25 年 3 月 31 日発行 1,000 部

(2) 『川崎市市民ミュージアム収蔵品目録 考古資料 第 3 集』

平成 23 年に閉所した川崎考古学研究所の旧蔵品約 20,000 点を、川崎市市民ミュージアムが収集したことをうけて、資料目録を作成した。

〔仕 様〕

A 4 版 106 頁

〔発 行〕

平成 25 年 3 月 20 日発行 500 部

職員の派遣

(1) 博物館（考古・歴史・民俗）

- 4月1日～（通年） 国際常民文化研究機構共同研究への派遣（民俗担当）
- 4月25日 川崎市平和館展示検討委員会（歴史担当）
- 5月9日 中原区地域対応事業「歴史シンポジウム」中原市民館（歴史担当）
- 5月19日 講座『もののふの時代と川崎』第4回かわさき市民アカデミー（歴史担当）
- 6月23日 神奈川地域史研究会シンポジウム（歴史担当）
- 6月30日 講座『もののふの時代と川崎』第10回かわさき市民アカデミー（民俗担当）
- 7月6日 男女平等推進学習「江戸から学ぶ男と女のいきいき暮らし」教育文化会館（歴史担当）
- 8月22日 体験講座「麦わら細工を作ろう～編み細工編～」教育文化会館大師分館（民俗担当）
- 9月2日 講座「地域に残る民間信仰の諸相」良寛会（民俗担当）
- 9月14日 文化財公開事前学習会「泉福寺の絵馬が語ること」教育委員会（民俗担当）
- 9月14日 講座「岡上の史・資料で学ぶくらしの歴史」麻生市民館岡上分館市民自主学級（歴史担当）
- 9月17日 「等覚院と不動めぐり」宮前市民館菅生分館市民自主学級（民俗担当）
- 10月5日 講座「岡上の史・資料で学ぶくらしの歴史」麻生市民館岡上分館市民自主学級（民俗担当）
- 10月12日 文化財公開関連講座「泉福寺の絵馬が語ること」教育委員会（民俗担当）
- 10月24日 講座「川崎宿麦わら細工を作ろう」川崎区役所（民俗担当）
- 10月26日 全国大学博物館学講座協議会大会合同部会「博物館実習をめぐって」駒澤大学（歴史担当）
- 11月10日 シンポジウム「学芸員の仕事」鶴見大学文化財学会（民俗担当）
- 11月24日 『川崎を掘る』講座かわさき市民ア

カデミー（考古担当）

- 12月7日 講座「岡上の史・資料で学ぶくらしの歴史」麻生市民館岡上分館市民自主学級（歴史担当）
- 12月9日 「考古学から見た川崎の海岸線と温暖化」川崎市地球温暖化防止活動センター（考古担当）
- 平成25年1月8日 講座「川崎の地名から探る民間伝承」地名資料室（民俗担当）
- 1月25日 展示協力川崎市立日吉小学校（民俗担当）
- 1月26日 かわさき文化財フォーラム川崎市教育委員会（民俗担当）
- 2月13日 講座「川崎宿麦わら細工を作ろう」川崎区役所（民俗担当）

(2) 美術館（美術・文芸・グラフィック・写真・漫画・映像（ビデオ））

- 4月14日～平成25年3月15日（第3木曜日）全12回
友の会企画「映像で学ぶ昭和史」講師（映像担当）
- 11月30日 講座「江戸絵画の魅力」の講師於・多摩老人福祉センター（美術文芸担当）
- 12月6日 講座「江戸絵画の魅力」の講師於・多摩老人福祉センター（美術文芸担当）
- 12月13日 講座「江戸絵画の魅力」の講師於・多摩老人福祉センター（美術文芸担当）
- 11月2日～12月25日 「犬塚勉展」（奥田元宋・小由女美術館主催：NHKプロモーション）の展示監修（美術文芸担当）
- 平成25年3月14日 多摩市民館市民ギャラリー展示指導
- 3月21日 東京国立近代美術館収集購入委員会（写真担当）

教育・普及

1 教育普及

学校や地域との連携を図るとともに、市民ミュージアムを身近に感じ活用してもらえよう事業を展開する。また、子育て支援事業としてのママカフェの実施やボランティア活動の組織化、及びその拡充を図る中でボランティアスタッフと共に事業を推進している。

(1) スクールプログラム

市民ミュージアムの特性を活かし、市内の小・中・高等学校の児童生徒を対象とし、学校での学習単元や社会体験に沿ったプログラムを学校等の教育機関と市民ミュージアム（教育普及担当と学芸室）が協働して実施するプログラムである。

◎社会科教育推進事業

川崎市の公立小学校4年生を対象に、江戸時代に作られた二ヶ領用水の歴史と役割、当時の生活について学ぶプログラムである。各学校への参加希望調査と年間の日程を調整し、学校と市民ミュージアム間の送迎を行った。

日 程：6月19日～平成25年2月14日
(67日間)

場 所：ガイダンスルーム、逍遙展示空間、
博物館展示室

講 師：教育普及担当

参加校：98校／117校（84%）

地区別参加

川崎区	17／20校（85%）
幸区	13／13校（100%）
中原区	17／19校（89%）
高津区	14／16校（88%）
宮前区	16／17校（94%）
多摩区	11／15校（73%）
麻生区	10／17校（59%）

参加人数：10,846名

（児童10,281名 引率教員565名）

バス借上げ：217台

◎博物館・美術館・総合学習プログラム

学芸員の解説をつけたバックヤード見学、民俗・考古・歴史の常設展示・企画展示の見学、アートギャラリー展、企画展の鑑賞、体験プログラム

日 程：通年

場 所：企画展示室1・2、体験学習室、バックヤード、研修室、常設展、アートギャラリー

対 象：小学生～大学生

講 師：担当学芸員

参加人数：571名 18校

◎出張プログラム

学芸員が学校に出向いて授業を行なうプログラム。

○「縄文時代について」

日 程：4月26日

対象：新城小学校 121名

○「初山遺跡、縄文時代から弥生時代について」

日 程：5月1日

対 象：白幡台小学校 57名

○「西福寺について」

日 程：7月6日

対 象：宮崎小学校 172名

○「土器片を使ったワークショップ」

日 程：7月24日

対 象：中原小学校 6名

○「土器の拓本をとるプログラム」

日 程：10月20日

対 象：川中島中学校 30名

○「戦争とニュース映画」

日 程：11月13日

対 象：日吉中学校 100名

○「写真のしくみを知ろうⅠ・Ⅱ」

日 程：11月15日

対 象：県立麻生総合高等学校 10名

○「昔の道具を体験しよう」

日 程：平成25年2月20日

対 象：片平小学校 111名

○「でこぼこ できたね インクもつけてみよう」

日 程：平成25年2月28日

対 象：田島養護学校 25名

○企画展「川崎を掘る」展関連事業

「学校の近くの遺跡案内」

参加校：6校 706名

4月12日 菅寺尾第廃堂跡 南菅小学校 57名

4月13日 子母口貝塚 子母口小学校 171名

4月19日 菅寺尾第廃堂跡 生田小学校 89名

4月25日 子母口貝塚 久末小学校 174名

4月27日 加瀬台古墳群 日吉小学校 130名

5月25日 加瀬台古墳群 南加瀬小学校 85名

◎職業体験

博物館についてのガイダンス、館内見学、学芸員の仕事、ショップ・受付監視などを体験する。

日 程：通年

対 象：市内の中学2年生

講 師：教育普及担当、担当学芸員

参加人数：93名 20校

◎学校連携展覧会

○第61回 川崎市中学校理科作品展

主 催：川崎市立中学校教育研究会理科部
会、川崎市市民ミュージアム

会 期：9月15日～9月23日

場 所：ミュージアムギャラリー

搬入展示：9月14日 10:00～17:00

搬出撤去：9月25日 15:00～16:00

参加人数：1,092名

○第55回 創造する子ども展

主 催：川崎市教育委員会、川崎市造形教育
連合会、川崎市市民ミュージアム

会 期：12月12日～12月18日

場 所：企画展示室2

搬入展示：12月11日 15:00～17:00

搬出撤去：12月18日 15:00～17:00

(小、高、特別支援学校のみ)

参加人数：2,610名

○第46回 川崎市立中学校造形展

主 催：川崎市教育委員会、川崎市立中学
校教育研究会美術部会、川崎市
市民ミュージアム

会 期：平成25年1月12日～1月18日

場 所：企画展示室2

搬入展示：平成25年1月11日 13:00～17:00

搬出撤去：平成25年1月18日 15:00～16:00

参加人数：894名

○第32回 川崎市立中学校技術・家庭科作品展

主 催：川崎市教育委員会、川崎市中学校
教育研究会技術・家庭科部会、川
崎市市民ミュージアム

会 期：平成25年2月2日～2月11日

場 所：ミュージアムギャラリー

搬入展示：平成25年2月1日 13:30～17:00

搬出撤去：平成25年2月13日 15:00～17:00

参加人数：733名

◎大学連携

大学など専門的な高等教育機関と連携し、学生が活躍する場を提供する。

○横浜国立大学の教育人間科学部美術教育ゼミナールが開発したアートツールを使用した造形ワークショップを開催した。

日 程：12月15日・12月16日

場 所：逍遥展示空間

対 象：幼児から小・中学生

講 師：横浜国立大学教育人間科学部美術
教育ゼミナール

参加人数：347名

(2) 子育て支援

◎「ママカフェ」

幼いころから博物館・美術館に足を運び、文化に親しみを持てるような場を提供する。子育て中の親同士が気軽に集まり、情報を提供・収集する場として活用された。

日 程：毎月第1・第3木曜日

場 所：市民ミュージアムレストラン「3104」

対 象：乳幼児～未就学児の親子5席20組
(年度途中から25組)

参加人数：親子234組 475名

見守りのボランティアスタッフ：13名

◎「ベビーカートツアー」

乳幼児がいる保護者の来館を促し、幼児が文化芸術に触れる機会を作ることを目的としている。

要約した展示解説と親子で自由見学できるワークシートを用意し実施した。

日 程：通年、企画展ごと計13回実施

場 所：企画展示室1・2

対 象：乳幼児～未就学児の親子

(定員は展示状況によって変更あり)

参加人数：親子46組 92名

見守りのボランティアスタッフ：13名

(3) ミュージアムプログラム

ミュージアムの収蔵品や展示、研究内容を反映した様々なプログラムを実施し、広く市民に還元する普及活動を行った。

◎ミュージアム歴史散策

18世紀後半、大師河原村の名主であった池上幸豊が開発した池上新田や、かつての塩浜地域などの幸豊ゆかりの地を訪ねた。

日 程：5月12日

場 所：川崎市川崎区池上町周辺

講 師：担当学芸員

参加料：500円

参加人数：16名

◎ワークショップ「ブラウン管テレビ」ビデオフィードバック体験

ブラウン管テレビの特性を活かした映像ワークショップ。参加者にはビデオカメラとブラウン管テレビをいろいろな方法で繋いでゆく体験をしてもらった。

日 程：7月14日

場 所：逍遙展示空間

講 師：瀧健太郎（ビデオアーティスト）

参加料：500円

参加人数：5名

◎おやこ歴史散策

※参加者がいなかったため中止とした。

日 程：7月28日

対 象：親子連れ

講 師：担当学芸員

参加料：保護者300円、こども200円

◎夏休みこどもミュージアム「つながるとどろき—アーティストと町工場、モノづくりの現場—」

夏休み中の小学生から一般を対象に、現代美術作家2組と等々力工業会の廃材を活用した共同制作ワークショップを実施した。

日 程：7月21日・7月22日・7月28日・7月29日

講 師：KOSUGEI-16（現代美術作家）、
タムラサトル（現代美術作家）

場 所：逍遙展示空間、等々力工業会展示場

参加料：1,000円

参加人数：28名

◎「写真連続講座—スナップから写真作品へ—」

写真作品を撮影するところから、展示まで総合的に学ぶ全8回の連続講座として実施した。

日 程：8月5日・9月16日・10月14日・
10月28日・12月9日・平成25年
1月20日・2月10日・3月16日

場 所：体験学習室

講 師：新納翔（写真家）

参加料：6,400円

参加人数：16名

◎博物館講座

ムラから都市へと変化・発展してきた川崎の地域史を考古・民俗・歴史の各分野から探る連続座学講座として実施した。

場 所：3階 第3研修室

参加料：各回200円

定 員：各回40名（当日先着順）

○第1回「御幸煉瓦製造所について」

日 程：9月29日

講 師：坂上克弘（元横浜市ふるさと歴史財団 埋蔵文化財センター所長）

参加人数：15名

○第2回「ムラから誕生した農機具メーカー「細王舎」の歩みとその終焉をめぐって」

日 程：10月27日
講 師：杉本浄
(東海大学文学部アジア文明学科
専任講師)

参加人数：8名

○第3回「参詣行楽地川崎大師と京浜電鉄」

日 程：12月8日
講 師：鈴木勇一郎(立教大学立教学院史
資料センター学術調査員)

参加人数：9名

◎「美術館名品展」関連連続体験講座

「みる・つくる・みせる リトグラフ講座」

制作体験を通してリトグラフが制作技法を理解するとともに、制作する楽しさを体験できる全3回の連続講座を実施した。

日 程：9月2日・9月9日・9月23日

場 所：アトリエ

講 師：小森琢己(版画家)

参加料：3,000円

参加人数：のべ12名

◎「こわくなんかないさー3分映画をつくるワークショップ」

市民ミュージアム館内・周辺をロケ場所として、3分の怖い映画を制作してもらうワークショップ。参加者の自発性を促し、撮影・編集・上映までの流れを理解してもらうことを目的として実施した。

日 程：9月15日・9月16日・9月17日

講 師：井土紀州(映画監督)、川崎龍太
(脚本家)

参加料：1,500円

参加人数：のべ24名

◎「中村正義の顔」展関連イベント 公開制作「中村正義から、つくる」

中村正義の作品や制作活動に、現代美術作家の新たな解釈を取り入れ、絵画作品を立体作品に置き換える公開制作ワークショップを実施した。

日 程：9月22日・9月23日

場 所：逍遥展示空間

講 師：近藤恵介(画家)、富井大裕(彫刻家)

参加料：無料

参加人数：のべ18名

◎福祉プログラム

○高齢者福祉プログラム「認知症とその家族及び介護者のためのアートプログラム」

認知症高齢者とその介護者を対象に、アートギャラリー及び企画展の展示を鑑賞するプログラムを3回連続で実施した。

日 程：9月5日・10月3日・12月12日

場 所：アートギャラリー、企画展示室2

対 象：認知症とその家族および介護者

(愛の家 グループホーム中原下小田中)

講 師：アーツアライブ代表理事 林容子

参加人数：のべ27名

○障害者福祉プログラム ワークショップ

「ちょっとどきどき、ちょっとわくわくするミュージアム体験をデザインしよう！」

視覚障害者をリードユーザーに迎え、誰もが市民ミュージアムを楽しめる、ユニバーサルな体験プログラムをデザインするワークショップを2回連続で実施した。

日 程：平成25年2月24日・3月31日

場 所：川崎市市民ミュージアム全体、体験学習室

講 師：特定非営利活動法人 エイブル・アート・ジャパン

参加人数：のべ30名

◎ミュージアム遺跡めぐり「武蔵国府・国分寺の遺跡を歩く」

武蔵野国の中心地である武蔵国府と武蔵国分寺・国分尼寺周辺の遺跡をめぐり、武蔵国分寺跡資料館、ふるさと府中歴史館を見学した。

日 程：11月10日

場 所：東京都国分寺市周辺

講 師：担当学芸員

参加料：500円

参加人数：19名

◎学芸員研究ノート

市民ミュージアムの学芸員がそれぞれの専門分野における調査研究の成果を、市民に伝える連続講座。

日程・内容・講師：

10月6日 「収蔵品でたどる日本のあかり」
(高橋典子学芸員)

10月13日 「池上家文書と18世紀後半の日本」
(望月一樹学芸員)

11月3日 「諏訪天神塚古墳の出土遺物について」
(新井悟学芸員)

平成25年2月3日 「写真を保存すること」
(林司学芸員)

2月17日 「コレクションから－ATGの世界」
(岩槻歩学芸員)

2月24日 「3つのパスポート－ウォークラリー型展覧会の世界」
(金澤韻学芸員)

3月3日 「収蔵品の謎を解く－ダゲレオタイプに写った日本人」
(深川雅文学芸員)

3月10日 「国際展ができるまで」
(石原敏明学芸室長)

3月17日 「ビデオの保存とデジタル化」
(濱崎好治学芸員)

場 所：第3研修室

参加料：無料

参加人数：のべ77名

◎地域のお祭りを見る「丸子どんと焼き」

地域の民俗行事に対する興味・関心を持ってもらうことを目的に、多摩川第一広場で行われる民俗行事「丸子どんと焼き」を見学した。

日 程：平成25年1月13日

場 所：川崎市中原区上丸子周辺

講 師：担当学芸員

参加料：200円

参加人数：5名

◎古文書講座

はじめて古文書を読む人のための5回連続入門講座。古文書を読んで、江戸時代の村のくらしについて学んだ。

日 程：5回連続

第1回 平成25年2月9日

「古文書は日本語です」

第2回 2月16日

「江戸時代の村をさぐる」

第3回 2月23日

「絵図からながめる村の景観」

第4回 3月2日

「村の事件簿 盗賊一件」

第5回 3月9日

「村と村との争い」

場 所：第2研修室

講 師：担当学芸員

参加料：2,500円(5回通し)

参加人数：15名

◎アートギャラリー「素描とスケッチの愉しみ」

展関連ワークショップ

「ポップ・スケッチ・ジャンプ！－描いて、消して、つなげよう－」

小学生から一般、親子を対象に「素描とスケッチの愉しみ展」に関連して、描くことを意識した制作ワークショップを開催した。

日 程：平成25年2月9日

場 所：アートギャラリー3

講 師：永岡大輔(アーティスト)

参加料：500円

参加人数：13名

◎富岡製糸場を巡るバスツアー

世界遺産登録に向けて注目されている富岡製糸場と碓氷峠鉄道施設群周辺を巡るバスツアーを実施し、参加者に文化遺産・近代史について興味・関心を深めてもらうことを目的として実施した。

日 程：平成25年3月16日

場 所：群馬県富岡市周辺

講 師：安中市ボランティアガイド、富岡製糸場ボランティアガイド

参加料：4,000円

参加人数：43名

(4) さまざまな団体と新たな連携

◎おやじ de ミュージアム

川崎市内の市民団体「川崎おやじ連」と市民ミュージアムの連携事業を実施した。各団体が、昔ながらの遊びや工作を体験できるブースを出店し、子どもから大人まで誰でも参加できるイベントを実施した。

日 程：8月11日

場 所：逍遙展示空間

講師・参加者：おやじ考、いたか、しらはた 21、ま・
いい会、おいでよ会から 28名

参加人数：125名

◎お正月 de ミュージアム

企画展「昔のくらし 今のくらし」のプレイベントとして、「川崎おやじ連」と市民ミュージアムの連携事業を実施した。凧や羽子板作りなどの、お正月の遊びや工作を体験できるイベントを実施した。

日 程：平成 25 年 1 月 14 日

場 所：逍遙展示空間

講師・参加者：おやじ考、いたか、しらはた 21、ま・
いい会、おいでよ会から 24名

参加人数：36名

(5) ボランティア活動

ミュージアムとの協働により、ミュージアムの事業をサポートするとともに、ボランティアが主体となる自主活動を企画し、実施する。

◎スクールプログラムサポート

社会科教育推進事業をはじめとした、スクールプログラムで来館する児童の見学時のサポート。

活動参加人数：161名（登録者数 39名）

◎イベントサポート

ミュージアム主催のイベント、ワークショップや講座等のサポート。

活動参加人数：50名（登録者数 43名）

◎チャイルドサポート

ママカフェ、ベビーカートゥアのサポート。

活動参加人数：55名（登録者数 13名）

◎展示ガイド（博物館部門）

博物館展示室の常設の収蔵品についてのガイド。

活動参加人数：74名（登録者数 21名）

◎展示ガイド（美術館部門）

常設オブジェとアートギャラリーのガイド。

活動参加人数：66名（登録者数 10名）

◎ワークショップ

ミュージアムの収蔵品や展示に関連したワークショップを実施。

活動参加人数：64名（登録者数 21名）

◎企画・運営

ボランティア主体となった企画の提案や運営。

活動参加人数：59名（登録者数 14名）

◎ボランティア募集

前年度3月から新規ボランティアの募集を行い、32名が新規に登録した。

ボランティアスタッフ登録人数 77名
（平成 25 年 3 月 31 日現在）

◎研修

新規ボランティア研修「グループ別研修」「フォローアップ研修」を体系化し、実施した。

◎ボランティア対象内覧会

ミュージアム主催企画展の内覧会を、友の会と合同で実施した。

2 実習生の受け入れ

(1) 博物館担当

◎館内実習 7月24日～8月4日

専修大学 1名

法政大学 1名

昭和女子大学 1名

(2) 美術館担当

◎館内実習 7月18日～7月29日

明治学院大学	1名
筑波大学	1名
立正大学	1名
昭和女子大学	1名
東京造形大学	1名

3 イベント

市民ミュージアムの来館者が気軽に参加したり、楽しんだりできるイベントを館中央にある逍遥展示空間などで開催している。2003年（平成15年）からスタートした若者をターゲットにしたイベント「カワサキ・ティーンズ・プロジェクト」を開催したほか、企画展と連動したイベントの実施等、市民ミュージアムの活動をより広い層に紹介するイベントを行っている。

◎プロムナードコンサート

来館者が展示を鑑賞する合間に気軽に楽しんでもらうコンサート。出演者は公募している。

○AirBeluga

日 程：6月10日
13:30～14:00 / 15:00～15:30

会 場：逍遥展示空間

出 演：AirBeluga
(マンドリン、ギター、ピアノ)

料 金：無料

入場者数：170名

○雨燕、Ryoko

日 程：7月8日
13:30～14:00 / 15:00～15:30

会 場：逍遥展示空間

出 演：雨燕（二胡）、Ryoko（ピアノ）

料 金：無料

入場者数：190名

○小林秀史

日 程：9月9日
13:30～14:00 / 15:00～15:30

会 場：逍遥展示空間

出 演：小林秀史（ハープ）

料 金：無料

入場者数：159名

○丸山朋文

日 程：10月8日
11:00～11:30 / 12:30～13:00

会 場：逍遥展示空間

出 演：丸山朋文（チェロ）

料 金：無料

入場者数：190名

○クリスマスコンサート

日 程：12月24日 13:00～14:00

会 場：逍遥展示空間

出 演：rosco motion orchestra
(ピアノ・ストリングス・ホルン・
トルン 他)

料 金：無料

入場者数：142名

○パーカッションデュオ mimosa

日 程：平成25年1月13日
13:30～14:00 / 15:00～15:30

会 場：逍遥展示空間

出 演：パーカッションデュオ mimosa
(マリンバ)

料 金：無料

入場者数：196名

◎平成24年度 坂本九顕彰事業

映像と音楽で辿る「九ちゃんの夢」

日 程：平成25年1月6日 14:15～14:45

会 場：逍遥展示空間

出 演：洗足学園音楽大学邦楽アンサンブル

料 金：無料

入場者数：232名

◎「与勇輝展—物語のなかに—」開催記念

国府弘子ピアノコンサート

日 程：平成25年3月3日 14:00～15:00

会 場：逍遥展示空間

出 演：国府弘子

料 金：無料

入場者数：400名

◎新成人記念撮影会

新成人を撮影し、その場で写真をプレゼントする撮影会を実施した。

日 程：平成 25 年 1 月 14 日 10:00 ～ 16:00

会 場：企画展示室 2 前

料 金：無料

参加人数：95 名

◎「新世代アーティスト展 in Kawasaki セカイがハンテンし、テイク」イベント

①ナイン・ホール 佐藤雅晴展

2013 年夏に行われる開館 25 周年記念「新世代アーティスト展」のイベントとして開催。若手を支援し、新しい表現を紹介する「新世代アーティスト展」に先駆け、若手から中堅へとステップを上りつつある作家、佐藤雅晴を起用し、映像ホール全体を使った新しい試みの映像インスタレーションを行うことで、当館の現代美術への取り組みをアピールした。

日 程：平成 25 年 2 月 15 日～ 3 月 7 日

会 場：映像ホール

料 金：無料

来場者数：1,210 名

②藤浩志氏講演会「地域とかえる。もやもやとアートな関係」、岩淵貞哉氏講演会「新人作家が世に出るには！？」

現代美術という、従来の美術概念の枠を超えて展開する表現が主軸となる本展に先立ち、美術の内側と外側の両面からお話を伺う講演会を実施し、美術と社会の関係について触れ、考える機会とした。講演会のうち一つ目は、地域の人々との活動を通してご自身の美術プロジェクトを実践されている美術家、十和田市現代美術館副館長の藤浩志氏をお招きし、美術が現代社会の中でどのような役割を果たせるのかについてお話を伺った。二つ目の講演会は、現代日本を代表する美術雑誌『美術手帖』の編集長、岩淵貞哉氏をお招きし、本展参加作家とのトークも交え、作家が世に出て行く過程についてお話を伺った。前者には市民ミュージアム館長、後者には本展参加作家のうち 4 組が登壇し、講師

との対話を持った。

日 程：平成 25 年 3 月 9 日・3 月 10 日

会 場：映像ホール

料 金：無料

来場者数：44 名

◎「マンガのチカラワークショップ」

10 代がアートで自分を表現し、人と関わり、つながっていく楽しみを体験するイベントとして「マンガのチカラ！」と題し、ワークショップと座談会を行った。

日 程：平成 25 年 3 月 16 日

主 催：川崎市市民ミュージアム

協 力：デリーター株式会社

対 象：中学生以上のマンガを描いてみたい学生

会 場：3 階 研修室 3

料 金：300 円

参加人数：8 名

4 広報活動

市民ミュージアムの活動を市民の方々に理解していただくため、また、市民ミュージアムで開催される催し物をより多くの人に認知していただき来館していただくための活動を行っている。

(1) 定期刊行物の作成と配布

下記の刊行物を市内の市民館、図書館、文化施設、情報プラザ、学校関係等および市外の類似施設、マスコミ関係等に配布した。

○『ミュージアムニュース』

〔仕 様〕

A 4 判 8 ページ

〔発 行〕

年 3 回 各回 10,000 部発行

○『ミュージアムカレンダー』

〔仕 様〕

524 × 297mm

〔発 行〕

年 6 回 各回 15,000 部発行

(2) マスコミへの情報提供

新聞・雑誌・テレビなどのマスコミで紹介されることによる広報効果は非常に大きく、各種媒体との継続的で良好な関係を維持することは重要である。市民ミュージアムでのさまざまな企画事業を紹介するため300～350社に対して継続的にプレスリリースを行っている。

(3) 企画展等の広報

各種企画事業のうち、企画展や企画上映など規模の大きな事業に関しては、3ヶ月程前から広報計画を立て、各担当者と協力して広報活動を行っている。ポスター、チラシの配布先も事業の内容に合わせて、その都度調整している。それぞれの事業に関しては、各種媒体に掲載された記事を整理し、報告書を作成し、以後の事業の展開および効果的な広報活動の実施に役立てている。

(4) ホームページの作成

当館ホームページを利用して迅速に情報を発信するため、館内での更新作業が可能な部分を増やすよう改築を進めている。

その他に、川崎市と連携した広報活動や、館内外の広報掲示板の管理を行う等、地域に根ざした広報を心がけている。

5 友の会

友の会は、市民ミュージアムの事業に協力し、地域の文化・芸術の振興を図る団体で、企画部、総務部、広報部、5つの学習部会で構成されている。

24年度は、友の会と市民ミュージアムの協力関係をより充実すべく、友の会会長をはじめ友の会役員と市民ミュージアムの職員とで作業部会を設置し、課題や今後のあり方について検討を重ねている。

現在、個人会員96名、賛助会員1名。

(平成25年3月31日現在)。

(1) 会議

◎総会

日 程：6月9日

場 所：ガイダンスルーム

議 案：平成23年度活動報告と収支決算報告並びに会計監査報告、平成24年度活動計画など

◎役員会

例 会：毎月第4土曜日

場 所：活動普及室

出席者：会長・副会長・会計・会計監査・総務部・企画部・広報部・学習部会の
続日本記講読・古文書講読・写真・映像・版画の代表者

(2) 活動報告

◎企画部

友の会主催の企画展解説、ビデオ鑑賞会の企画・開催をはじめ、他館見学や歩いて学ぶ会の見学先との調整などを担っている。

◎広報部

会報「友の会」を年2回、および月刊「友の会だより」の発行している。

◎総務部

友の会会員の募集、発送を含むPR業務、会員の更新案内、会員証の発行などの庶務事項一般を担当している。

(3) 学習部会

◎歴史部会「続日本紀」を読む会

例 会 日：毎月第3金曜日

場 所：第2研修室

会 員：10名

内 容：①講読会「続日本紀」

日 程：7月29日

場 所：宮前区野川影向寺

②視察

日 程：平成25年2月17日

場 所：茨城県土浦市博物館

◎歴史部会「古文書」を読む会

例 会 日：毎月第4水曜日

場 所：活動普及室

会 員：11名

内 容：

4月～7月「火附盗賊、夜盗、押込類一条／親殺、主殺、親不孝等控」下平間村 成

川家文書 講読

8月～12月「御台様御由緒裁評／王禅寺山論
濟口」下平間村 成川家文書

1月～3月「古文書を読む 課題集 NHK学
園／三省堂」

◎写真部会

例会日：毎月第2日曜日

場所：活動普及室

内容：会員が撮影した作品の鑑賞、情報交
換、写真展見学、撮影会の開催

◎映像部会

例会日：第3木曜日

会場：ミニホール

内容：「映像で学ぶ昭和史」を主題とした、
ビデオ観賞会の企画・開催と意見交換

◎版画部会

例会日：毎週土曜日に制作活動

会場：アトリエ

内容：シルクスクリーン版画と銅版画の製
作、外部の教育機関、福祉施設での
版画指導

資料

川崎市市民ミュージアム条例

昭和 62 年 12 月 22 日
条例第 45 号

(目的及び設置)

第 1 条 考古、歴史、民俗、美術、映像等に関する資料及び作品について収集、展示、調査研究等を行うこと等により、市民の観覧、学習、研究等に資するとともに市民相互の交流を推進し、もって市民の教育、学術及び文化の発展に寄与するため、川崎市市民ミュージアム（以下「市民ミュージアム」という。）を設置する。

(位置)

第 2 条 市民ミュージアムの位置は、川崎市中原区等々力 1 番 2 号とする。

(事業)

第 3 条 市民ミュージアムは、おおむね次の事業を行う。

- (1) 考古、歴史、民俗、絵画、工芸、漫画、写真、ポスター、映像等に係る実物、複製、模型等の資料及び作品（以下「資料等」という。）の収集、保管、展示等を行うこと。
- (2) 資料等に関する講座、講演会、映写会、研究会等を開催すること。
- (3) 資料等に関する説明及び助言を行うこと。
- (4) 市民の文化活動の助長、奨励及び指導を行うこと。
- (5) 資料等に関する専門的及び技術的な調査研究並びに解説書、目録、年報、調査研究報告書等の作成及び頒布を行うこと。
- (6) 博物館、図書館、学校、研究所その他の関係機関と協力し、刊行物及び情報の交換、資料等の相互貸借等を行うこと。
- (7) 施設及び設備（以下「施設等」という。）を利用に供すること。

(職員)

第 4 条 市民ミュージアムに館長その他必要な職員を置く。

(利用時間及び休館日)

第 5 条 市民ミュージアムの利用時間及び休館日は、次のとおりとする。ただし、市長は、必要と

認めるときは、利用時間を変更し、又は臨時に開館し、若しくは休館することができる。

利用時間	午前 9 時 30 分から午後 5 時まで
休館日	(1) 月曜日（国民の祝日に関する法律（昭和 23 年法律第 178 号）に規定する休日（以下「休日」という。）を除く。） (2) 休日の翌日（土曜日、日曜日及び休日を除く。） (3) 12 月 29 日から翌年の 1 月 3 日までの日（前 2 号に掲げる日を除く。）

(観覧料)

第 6 条 市民ミュージアムが行う企画展（以下「企画展」という。）の展示会場へ入場しようとする者は、別表第 1 に定める観覧料を納付しなければならない。

(特別利用)

第 7 条 資料等について熟覧、模写、模造、拓本、撮影及び原板使用（以下「特別利用」という。）をしようとする者は、市長の許可を受けなければならない。

- 2 前項の許可を受けた者は、別表第 2 に定める区分に応じ同表に定める特別利用料を納付しなければならない。
- 3 前項の特別利用料は、許可と同時に納付しなければならない。ただし、市長が特別の理由があると認めるときは、この限りでない。
- 4 市長は、第 1 項の許可を受けた者がその条件に違反したとき、又は違反するおそれがあるとき、その他市長が管理上支障があると認めるときは、当該許可を取り消し、又は特別利用を制限し、若しくは停止することができる。

(施設等の利用許可)

第 8 条 別表第 3 に掲げる市民ミュージアムの施設等を利用しようとする者は、市長の許可を受けなければならない。

(施設等の使用料)

第 9 条 前条の許可を受けた者（以下「施設等利用者」という。）は、別表第 3 に定める使用料を納付しなければならない。

- 2 前項の使用料は、前納とする。ただし、市長が特別の理由があると認めるときは、この限りでない。

(施設等の利用許可の制限)

第10条 市長は、管理上支障があるとき、その他施設等の利用を不適当であると認めるときは、第8条の許可をしない。

(施設等の利用許可の取消し等)

第11条 市長は、施設等利用者が次の各号のいずれかに該当すると認める場合は、第8条の許可を取り消し、又は施設等の利用を制限し、若しくは停止することができる。

- (1) 利用の目的に反したとき。
- (2) 秩序を乱し、他人の迷惑となる行為をしたとき。
- (3) 偽りその他不正な行為により許可を受けたとき。
- (4) 災害その他の事故により利用できなくなったとき。
- (5) 工事その他市の事業の執行上やむを得ない理由により利用できなくなったとき。
- (6) 前各号に定めるもののほか、この条例又はこれに基づく規則に違反したとき。

(施設等の変更禁止)

第12条 施設等利用者は、施設等を利用する場合において、これを模様替えし、又はこれに特別の設備を付設してはならない。ただし、市長が特別の理由があると認めるときは、この限りでない。

(施設等の利用権の譲渡等の禁止)

第13条 施設等利用者は、施設等を利用する権利を第三者に譲渡し、又は転貸してはならない。

(原状回復)

第14条 施設等利用者は、施設等の利用を終了し、又は第8条の許可を取り消され、若しくは施設等の利用を制限され、若しくは停止されたときは、直ちにその施設等を原状に回復し、又は返還しなければならない。

(取消し等による損害の責任)

第15条 市は、第11条第5号に該当する場合を除き、第8条の許可の取消し又は施設等の利用の制限若しくは停止によって、施設等利用者に生じた損害については、その責めを負わない。

(受講料及び入場料)

第16条 市長は、第3条第2号に規定する事業を行うに当たっては、受講料及び入場料を徴収することができる。

2 前項の受講料及び入場料の額は、市長がその都

度定める。

(観覧料等の減免)

第17条 市長は、特に必要があると認めるときは、第6条に規定する観覧料、第7条第2項に規定する特別利用料及び第9条第1項に規定する使用料(以下「観覧料等」という。)を減額し、又は免除することができる。

(観覧料等の還付)

第18条 既納の観覧料等は、還付しない。ただし、市長が特別の理由があると認めるときは、その全部又は一部を還付することができる。

(入館等の制限)

第19条 市長は、他人の迷惑となるおそれのある者その他管理上支障があると認められる者については、入館を断り、又は退館させることができる。

(損害の賠償)

第20条 資料等又は施設等を損傷し、又は滅失させた者は、市長の指示に従いこれらを原状に回復し、又はその損害を賠償しなければならない。ただし、市長がやむを得ない理由があると認めるときは、賠償額を減額し、又は免除することができる。

(協議会)

第21条 市民ミュージアムの円滑な運営を図るため、市民ミュージアムに川崎市市民ミュージアム協議会(以下「協議会」という。)を置く。

2 協議会は、市民ミュージアムの運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べるものとする。

3 協議会は、委員10人以内をもって組織する。

4 委員は、学校教育及び社会教育の関係者、学識経験を有する者並びに市民のうちから、市長が委嘱し、又は任命する。

5 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

6 委員は、再任されることができる。

7 前各項に定めるもののほか、協議会の組織及び運営に関し必要な事項は、市長が定める。

(委任)

第22条 この条例の施行について必要な事項は、規則で定める。

附 則

この条例の施行期日は、市長が定める。(昭和63年10月7日規則第85号で昭和63年11月1日から施行)

附 則（平成6年10月7日条例第30号）

この条例は、平成6年10月17日から施行する。

附 則（平成12年12月21日条例第78号）

この条例は、平成13年4月1日から施行する。

附 則（平成17年9月30日条例第87号）

この条例は、平成18年4月1日から施行する。

附 則（平成18年6月28日条例第53号）

この条例は、平成18年10月1日から施行する。

ただし、第5条及び別表第1の改正規定並びに別表第2の次に1表を加える改正規定（展示室及び逍遥展示空間に係る部分に限る。）は、平成19年4月1日から施行する。

附 則（平成21年12月24日条例第47号抄）
（施行期日）

1 この条例は、平成22年4月1日から施行する。

（川崎市スポーツ振興審議会条例等の一部改正に伴う経過措置）

12 この条例の施行の日（以下「施行日」という。）前に教育委員会が行った処分その他の行為で、施行日においてこの条例の附則の規定による改正後の次に掲げる条例の規定により当該行為を行うべきものが市長となるものは、施行日以後においては、市長が行った処分その他の行為とみなす。

- (1) 川崎市スポーツ振興審議会条例
- (2) 川崎市とどろきアリーナ条例
- (3) 川崎市体育館条例
- (4) 川崎市スポーツセンター条例
- (5) 川崎市武道館条例
- (6) 川崎市市民ミュージアム条例
- (7) 川崎市岡本太郎美術館条例
- (8) 川崎市大山街道ふるさと館条例

別表第1（第6条関係）

1 普通観覧料

企画展の観覧料は、1人につき2,000円の範囲内で市長が企画展ごとに定める。

種 別	金 額
100円券12枚つづり	1,000円
100円券25枚つづり	2,000円

2 共通利用券

備考 共通利用券は、次に掲げる施設の入場等に利用することができる。ただし、当該各施設への団体（20人以上をいう。）の入場等については、この限りでない。

(1) 市民ミュージアムにおいて市民ミュージア

ムが行う企画展の展示会場への入場

(2) 川崎市岡本太郎美術館条例（平成11年川崎市条例第25号）に規定する川崎市岡本太郎美術館の常設展又は企画展の展示会場への入場

(3) 川崎市青少年科学館条例（昭和46年川崎市条例第24号）に規定する川崎市青少年科学館のプラネタリウム的一般投影又は特別投影の観覧

(4) 川崎市立日本民家園条例（昭和42年川崎市条例第19号）に規定する川崎市立日本民家園への入園

3 特別入場券

市長は、7,000円の範囲内で定期券その他の特別入場券を発行することができる。

区 分	単 位	特別利用料
熟 覧	1点 1日	200円
模 写		1,000円
模 造		1,000円
拓 本		1,000円
撮 影	1点	300円
原板使用	1枚	2,000円

別表第2（第7条関係）

別表第3（第8条、第9条関係）

種 別	金 額			
	午前9時30分から午後0時30分まで	午後1時30分から午後5時まで	午前9時30分から午後5時まで	
ホ ール	映像ホール	7,800円	9,100円	16,900円
	ミニホール	3,000円	3,500円	6,500円
研 修 室	研修室1	1,200円	1,400円	2,600円
	研修室2	1,200円	1,400円	2,600円
	研修室3	1,200円	1,400円	2,600円
展 示 室	企画展示室1			46,500円
	企画展示室2			45,000円
	アートギャラリー			75,000円
	多目的ギャラリー1			9,000円
	多目的ギャラリー2			7,500円
逍遥展示空間	30分につき 2,300円			

1 施設使用料

備考

1 土曜日、日曜日及び休日に利用する場合の施設使用料の額は、規定使用料の2割増相当額とする。

2 ホール、展示室又は逍遥展示空間の利用に

ついて入場料を徴収する場合の施設使用料の額は、次の表の入場料金の区分に従い、規定使用料（前項の規定を適用する場合は、同項の規定により算出して得た額）に増額の割合

入場料金	増額の割合
1,000 円未満	15 割
1,000 円以上 3,000 円未満	20 割
3,000 円以上	30 割

を乗じて得た額とする。

3 第5条ただし書の規定により同条の表に定める利用時間の変更がされた場合で当該変更に係る時間（午後5時から午前9時30分までの時間に限る。）に利用するときの施設使用料の額は、当該利用の許可に係る時間30分につき、ホール又は研修室を利用する場合にあっては利用日の午後1時30分から午後5時までの利用時間の区分（以下「午後の区分」という。）の規定使用料（前2項の規定を適用する場合は、これらの規定により算出して得た額。以下この項において同じ。）の30分当たりの額の2割増相当額（10円未満の端数は、切り捨てる。）、展示室を利用する場合にあっては利用日の午前9時30分から午後5時までの利用時間の区分の規定使用料の30分当たりの額の2割増相当額（10円未満の端数は、切り捨てる。）、逍遙展示空間を利用する場合にあっては規定使用料の2割増相当額（10円未満の端数は、切り捨てる。）とする。

4 午後0時30分から午後1時30分までの時間（以下「中間時間」という。）においてホール又は研修室を利用する場合（午前9時30分から午後0時30分までの利用時間の区分（以下「午前の区分」という。）又は午後の区分を利用する場合に限る。）の施設使用料の額は、当該利用の許可に係る時間30分につき、午前の区分の規定使用料（第1項又は第2項の規定を適用する場合は、これらの規定により算出して得た額）の30分当たりの額とする。ただし、午前の区分と午後の区分の当該2区分を引き続き利用する場合の中間時間の施設使用料は、無料とする。

2 設備使用料については、市長が別に定める。

川崎市市民ミュージアム条例施行規則

平成22年3月31日

規則第36号

（趣旨）

第1条 この規則は、川崎市市民ミュージアム条例（昭和62年川崎市条例第45号。以下「条例」という。）の施行について必要な事項を定めるものとする。

（事務の委任）

第2条 次に掲げる事務は、川崎市市民ミュージアム館長（以下「館長」という。）に委任する。

（1）条例第7条に規定する特別利用（以下「特別利用」という。）の許可、許可の取消し等に関すること。

（2）条例第8条の規定による施設等（条例第3条第7号に規定する施設等をいう。以下同じ。）の利用の許可（以下「利用許可」という。）に関すること。

（3）条例第10条の規定による施設等の利用許可の制限に関すること。

（4）条例第11条の規定による施設等の利用許可の取消し等に関すること。

（5）条例第17条に規定する観覧料等（以下「観覧料等」という。）の減額又は免除に関すること。

（6）条例第18条の規定による観覧料等の還付に関すること。

（7）条例第19条の規定による入館等の制限に関すること。

（観覧券等の交付）

第3条 館長は、条例第6条の規定による観覧料の納付と引換えに観覧券、共通利用券又は特別入場券を交付するものとする。

（特別入場券）

第4条 市長は、条例別表第1の3の規定により次の特別入場券を発行することができる。

（1）定期券

（2）共通入館券

（3）優待券

（4）前売券

2 前項の特別入場券を発行する場合及びその額は、その都度市長が定める。

(特別利用の申請等)

第5条 条例第7条第1項の規定により特別利用をしようとする者は、特別利用許可申請書(第1号様式)をあらかじめ館長に提出しなければならない。

2 館長は、特別利用を許可したときは、当該申請をした者に特別利用許可書(第2号様式)を交付するものとする。

3 館長は、特別利用を許可するときは、次に掲げる条件を付することができる。

(1) 条例第3条第1号に規定する資料等(以下「資料等」という。)の模写、模造、拓本、撮影若しくは原板使用によって得たもの(以下「模写資料等」という。)を展示し、又は出版物等に掲載するときは、川崎市市民ミュージアム(以下「市民ミュージアム」という。)の所蔵に係るものであることを適切な方法で表示すること。

(2) 無断で模写資料等の再複製、出版物等への掲載、上映、放送又はこれらに類する行為をしないこと。

(3) 資料等を撮影したときは当該撮影によって得たフィルム等を、模写資料等を出版物等へ掲載したときは当該出版物等を本市に提供すること。

(4) その他館長が必要と認める事項

(特別利用の不許可)

第6条 館長は、次に掲げる資料等については、特別利用を許可しない。

(1) 特別利用によって資料等の保存に影響を及ぼすおそれがあると認めるもの

(2) 寄託された資料等で寄託者の同意を得ていないもの

(3) 著作権が存する資料等で著作権者等の同意を得ていないもの

(4) その他館長が特別利用することを不適当と認めるもの

2 特別利用は、館長の指示に従って行わなければならない。

(施設等の利用許可の申請)

第7条 条例第8条の規定により施設等の利用許可を受けようとする者は、施設等利用許可申請書(第3号様式)を館長に提出しなければならない。

(施設等の利用許可の申請期間)

第8条 施設等の利用許可の申請期間は、次に定め

るところによる。ただし、館長が特に必要があると認めるときは、この限りでない。

(1) 企画展示室又はアートギャラリーを利用する場合にあっては、利用日又は利用開始日(連続して利用しようとする場合の最初の日をいう。以下同じ。)の属する年度の前年度の4月1日から利用日の1月前まで申請することができる。

(2) 映像ホール、ミニホール、多目的ギャラリー又は逍遥展示空間を利用する場合にあっては、利用日又は利用開始日の属する月の6月前の月の初日から利用日の14日前まで申請することができる。

(3) 研修室を利用する場合にあっては、利用日の属する月の6月前の月の初日から利用日の3日前まで申請することができる。

(4) 前2号の規定にかかわらず、企画展示室又はアートギャラリーの利用と併せて映像ホール、ミニホール、多目的ギャラリー、逍遥展示空間又は研修室を利用する場合にあっては、第1号の規定を準用する。

(5) 第3号の規定にかかわらず、映像ホール、ミニホール、多目的ギャラリー又は逍遥展示空間の利用と併せて研修室を利用する場合にあっては、第2号の規定を準用する。

(施設等利用許可書の交付)

第9条 館長は、施設等の利用許可をしたときは、当該申請をした者に施設等利用許可書(第4号様式)を交付するものとする。

(施設等使用料の納付)

第10条 条例別表第3の1に規定する施設使用料及び同表の2に規定する設備使用料(以下「施設等使用料」という。)は、館長が指定する日までに納付しなければならない。

2 前項の施設等使用料の納付方法は、川崎市金銭会計規則(昭和39年川崎市規則第31号)の定めるところによる。

(設備使用料)

第11条 条例別表第3の2の規定に基づき、市長が定める設備使用料は、別表のとおりとする。

(特別の設備の付設等)

第12条 条例第12条ただし書の規定により施設等を模様替えし、又は特別の設備を付設しようとする者は、特別設備等許可申請書(第5号様式)を市長に

提出し、その許可を受けなければならない。

2 前項の申請書は、施設等利用許可申請書と同時に提出しなければならない。

3 施設等の利用許可を受けた者（以下「施設等利用者」という。）が、第1項の許可を受けて施設等を模様替えし、又は特別の設備を付設したときは、利用後直ちに自己の負担においてこれを原状に回復し、又は撤去しなければならない。

（施設等利用中止の届出）

第13条 施設等利用者が、その利用を中止しようとするときは、施設等利用中止届出書（第6号様式）を館長に提出しなければならない。

（利用期間等の制限）

第14条 館長は、施設等の利用の公平を図るため必要があると認めるときは、同一利用者が1月以内に施設等を利用する期間又は回数を制限することができる。

（観覧料等の減免）

第15条 条例第17条の規定により館長が観覧料等を減額し、又は免除することができる場合及びその額は、次のとおりとする。

（1）観覧料

ア 学校教育法（昭和22年法律第26号）第1条に規定する幼稚園、小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校その他これらに準ずる教育施設が教育課程に基づく教育活動として観覧を行う場合 全額

イ 児童福祉法（昭和22年法律第164号）第7条第1項に規定する児童福祉施設が当該施設の活動として観覧を行う場合 全額

ウ 身体障害者福祉法（昭和24年法律第283号）第15条第4項の規定による身体障害者手帳、戦傷病者特別援護法（昭和38年法律第168号）第4条第1項又は第2項の規定による戦傷病者手帳、原子爆弾被爆者に対する援護に関する法律（平成6年法律第117号）第2条第3項の規定による被爆者健康手帳、療育手帳（知的障害者の福祉の充実を図るため、児童相談所又は知的障害者更生相談所において知的障害と判定された者に対して支給される手帳で、その者の障害の程度その他の事項の記載があるものをいう。）、精神保健及び精神障害者福祉に関する法律（昭和25年法律第123号）第45条第2項の規定による精神障害者保健福祉手帳等（以下「身

体障害者手帳等」という。）の交付を受けている者（これらの者の介護者を含む。）が観覧を行う場合 全額

エ その他館長が特に必要があると認める場合
その都度館長が定める額

（2）特別利用料

ア 市又は国若しくは他の地方公共団体がその事業の用途に供することを目的とする場合 全額

イ 私立の博物館、美術館、図書館、学校、研究所等がその事業の用途に供することを目的とする場合 全額

ウ 専ら学術研究の用途に供することを目的とする場合 全額

エ その他館長が特別の理由があると認める場合
その都度館長が定める額

（3）施設等使用料

ア 市又は国若しくは他の地方公共団体がその事業のために利用する場合 5割相当額

イ 市が構成員となっている協議会、研究会等が主催する行事等のために利用する場合 5割相当額

ウ その他館長が特別の理由があると認める場合
その都度館長が定める額

2 前項第1号の規定による観覧料の減額又は免除を受けようとする場合にあっては観覧料減免申請書（第7号様式）を、前項第2号の規定による特別利用料の減額又は免除を受けようとする場合にあっては特別利用料減免申請書（第8号様式）を、前項第3号の規定による施設等使用料の減額又は免除を受けようとする場合にあっては施設等使用料減免申請書（第9号様式）を、あらかじめ館長に提出しなければならない。ただし、前項第1号ウの場合にあっては、身体障害者手帳等の提示をもって、当該申請書の提出に代えることができる。（観覧料等の還付）

第16条 条例第18条ただし書の規定により観覧料等を還付することができる場合及びその額は、次のとおりとする。

（1）災害その他の事故により観覧又は特別利用ができない場合 観覧料又は特別利用料の全額

（2）管理上の必要から入場を禁止し、若しくは制限し、又は特別利用の許可を取り消した場合 観覧料又は特別利用料の全額

（3）条例第11条第4号又は第5号の規定により、

館長が利用許可を取り消した場合 施設等使用料の全額

- (4) 企画展示室又はアートギャラリーの利用者が利用日の6月前までに利用中止を届け出た場合 施設等使用料の全額
- (5) 企画展示室又はアートギャラリーの利用者が利用日の3月前までに利用中止を届け出た場合 施設等使用料の5割相当額
- (6) 企画展示室又はアートギャラリーと併せて利用しない場合の映像ホール、ミニホール、多目的ギャラリー又は逍遥展示空間の利用者が利用日の1月前までに利用中止を届け出た場合 施設等使用料の全額
- (7) 企画展示室又はアートギャラリーと併せて利用しない場合の映像ホール、ミニホール、多目的ギャラリー又は逍遥展示空間の利用者が利用日の14日前までに利用中止を届け出た場合 施設等使用料の5割相当額
- (8) 企画展示室、アートギャラリー、映像ホール、ミニホール、多目的ギャラリー又は逍遥展示空間と併せて利用しない場合の研修室の利用者が利用日の3日前までに利用中止を届け出た場合 施設等使用料の全額
- (9) 企画展示室又はアートギャラリーと併せて利用する場合の映像ホール、ミニホール、多目的ギャラリー、逍遥展示空間又は研修室の利用者が利用日の6月前までに利用中止を届け出た場合 施設等使用料の全額
- (10) 企画展示室又はアートギャラリーと併せて利用する場合の映像ホール、ミニホール、多目的ギャラリー、逍遥展示空間又は研修室の利用者が利用日の3月前までに利用中止を届け出た場合 施設等使用料の5割相当額
- (11) 映像ホール、ミニホール、多目的ギャラリー又は逍遥展示空間と併せて利用する場合の研修室の利用者が利用日の1月前までに利用中止を届け出た場合 施設等使用料の全額
- (12) 映像ホール、ミニホール、多目的ギャラリー又は逍遥展示空間と併せて利用する場合の研修室の利用者が利用日の14日前までに利用中止を届け出た場合 施設等使用料の5割相当額
- (13) 前各号に定めるもののほか、館長が特別の理由があると認める場合 その都度館長が定

める額

(遵守事項)

第17条 市民ミュージアムを利用する者は、次に掲げる事項を遵守しなければならない。

- (1) 建物、附属設備又は資料等を汚損若しくは損傷し、又はそれらのおそれのある行為をしないこと。
- (2) 他人に迷惑をかけ、又はそのおそれのある行為をしないこと。
- (3) 展示会場において許可を受けずに、撮影、模写等を行わないこと。
- (4) 所定の場所以外で飲食又は喫煙をしないこと。
- (5) 施設等利用者は、定員を超えて入場させないこと。
- (6) 利用許可された以外の施設等を利用しないこと。
- (7) 所定の場所以外で火気を使用しないこと。
- (8) 危険物又は不潔物を持ち込まないこと。
- (9) 許可を受けずに物品の販売又は飲食の提供をしないこと。
- (10) 前各号に定めるもののほか、館長が指定する事項

(整理員の配置)

第18条 施設等利用者は、市民ミュージアムの利用に際し、市民ミュージアム内外の秩序維持のため必要な整理員を置かなければならない。ただし、館長が必要がないと認める場合は、この限りでない。

(管理上の入室)

第19条 施設等利用者は、管理のために立ち入る係員の入室を拒むことができない。

(損傷等の届出)

第20条 施設等利用者は、施設等を損傷し、又は滅失したときは、文書により速やかに館長に届け出なければならない。

(利用後の点検)

第21条 施設等利用者は、施設等の利用を終了したときは、係員に報告し、その点検を受けなければならない。

(協議会の会長及び副会長)

第22条 条例第21条の規定に基づく川崎市市民ミュージアム協議会（以下「協議会」という。）に会長及び副会長を置く。

2 会長及び副会長は、委員の互選とする。

- 3 会長は、協議会を代表し、会務を総理する。
- 4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。
(協議会の会議)

第23条 協議会の会議は、会長が必要に応じて招集する。

- 2 会議は、委員の半数以上の出席がなければ開くことができない。
- 3 議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。
- 4 協議会は、会長が必要であると認めるときは、関係者又は専門的事項について学識経験を有する者の出席を求め、その説明又は意見を聴くことができる。
(委員の委嘱又は任命)

第24条 条例第21条第4項の委員は、次に掲げる者のうちから委嘱し、又は任命する。

- (1) 本市の区域内に設置された学校の教育職員
- (2) 本市の区域内の社会教育関係団体等から推薦された者
- (3) 本市の区域内に住所を有する考古、歴史、民俗、美術、映像等に関する知識及び経験を有する市民
- (4) 学識経験者

2 前項第3号の市民のうちから委嘱される委員は、公募によるものとする。
(協議会の庶務)

第25条 協議会の庶務は、市民ミュージアムにおいて処理する。

(委任)

第26条 この規則の施行について必要な事項は、市民・こども局長が定める。

附 則

(施行期日)

- 1 この規則は、平成22年4月1日から施行する。
(経過措置)
- 2 川崎市市民ミュージアム協議会規則(平成18年川崎市教育委員会規則第9号)の規定により委嘱され、又は任命された委員で、この規則の施行の際現在に在任する委員は、その任期が終了するまでの間、この規則の規定に基づき委嘱され、又は任命されたものとみなす。

別表(第11条関係)

1 映像ホール設備使用料

品名	金額	単位		備考
音響・調光設備	7,000円	1回	1式	操作室内ワイヤレスマイクロホンを除く。
ワイヤレスマイクロホン	1,000円	1回	1本	
アップライトピアノ	2,000円	1回	1台	
16mm映写機	1,000円	1回	1台	固定式、映写室内
映画用スクリーン	500円	1回	1張	

2 逍遥展示空間設備使用料

品名	金額	単位		備考
音響設備	3,000円	1回	1式	ワイヤレスマイクロホンを除く。
ワイヤレスマイクロホン	1,000円	1回	1本	
照明設備	5,000円	1回	1式	ピンスポットライトを除く。
ピンスポットライト	1,000円	1回	1台	
ピアノ	10,000円	1回	1台	ベーゼンドルファー(調律別)
金屏風	1,000円	1回	1双	
山台	200円	1回	1台	
幕類	1,000円	1回	1張	

3 共通設備使用料

品名	金額	単位		備考
レクチャーテーブル	500円	1回	1台	
オーバーヘッドプロジェクター	500円	1回	1台	
16mm映写機	500円	1回	1台	移動式
液晶プロジェクター	500円	1回	1台	
持込器具	100円	1回	1キロワット	

備考

- 1 本表においては、映像ホール、ミニホール又は研修室の利用にあつては午前9時30分から午後0時30分までの利用時間の区分(以下「午前の区分」という。)、午後1時30分から午後5時までの利用時間の区分(以下「午後の区分」という。)をそれぞれ1回として、企画展示室、アートギャラリー、多目的ギャラリー又は逍遥展示空間の利用にあつては4時間までごとに1回として扱う。
- 2 映像ホール、ミニホール又は研修室を午後5時から午前9時30分までの時間に利用する場合の設備使用料の額は、4時間までごとに1回として扱う。
- 3 映像ホール、ミニホール又は研修室を午後0時30分から午後1時30分までの時間(以下

「中間時間」という。)において利用する場合の設備使用料の額は、30分につき、午前の区分を単位として利用した場合の規定使用料の30分当たりの額(10円未満の端数は、切り捨てる。)とする。ただし、午前の区分と午後の区分の当該2区分を引き続き利用する場合の中間時間の設備使用料は、無料とする。

企画展一覧（開館～平成23年度）

昭和63年度

1. モンパルナスの大冒険 1988.11.1～12.1
2. 子ども風土記 12.17～1989.1.16
3. グラフィック・パワー展 1989.1.21～2.12
4. 岡本かの子の世界展 2.18～3.19
5. 写真家・濱谷浩展 3.25～4.23

平成元年度

6. リュブリアナ国際ビエンナーレ日本展 4.2～6.11
7. 笑いの世界・世界の漫画展 7.8～8.13
8. 閻魔登場 8.22～9.24
9. TREND'89 現代写真の動向展 9.30～10.22
10. アガム展 10.28～12.17
11. 写真展 記憶の記念日 1990.1.4～2.12
（よみうり写真大賞10年の歩みから）
12. 藤ノ木古墳とその時代展 2.27～4.5

平成2年度

13. 女性のまなざし - 日本とドイツの女性写真家たち -
4.10～4.22
14. 昭和のマンガ展 4.28～6.10
15. 円鋸勝三 彫刻展 6.20～7.22
16. ミュージアムコレクション展 8.4～9.16
17. 木簡 - 古代からのメッセージ - 10.9～11.12
18. - 佐藤惣之助生誕百年記念 - 多彩な惣之助展
11.21～12.24
19. 近代芸術の諸相 PART I 1991.1.19～2.24
20. 近代芸術の諸相 PART II 3.1～4.14

平成3年度

21. 岡本太郎展 4.27～6.23
22. 縄文文化の交流展 7.13～8.25
23. 道祖神の源流 9.7～10.20
24. 色相の詩学展 - 現代絵画・平面からのメッセージ -
11.2～12.15
25. '92 ミュージアムコレクション展 1992.1.4～2.23
26. アン・リベルテ - 現代フランスの写真展 -
3.6～3.29

平成4年度

27. 棟方志功展 4.18～6.14

28. ネイチャーワールド
動物写真家・岩合光昭の世界展 7.4～8.16
29. 版画にみるポップアートとその周辺 8.22～9.27
30. 写真展 ルイス・ボルツ 法則 10.10～11.23
31. オキナワ展 1993.1.10～2.14
32. 原田泰治アメリカに行く 3.2～3.28

平成5年度

33. T A R O 萬華鏡 4.24～7.4
34. 妖怪展 - 現代に蘇る百鬼夜行 7.24～8.29
35. ルーアン美術館展 フランス絵画 - 黄金の19世紀
10.16～11.14
36. 鳥山 明の世界 12.4～1994.1.30
37. バウハウス - 芸術教育の革命と実験 - 2.12～3.27

平成6年度

38. 東海道 - 東と西の交歓 - 4.16～5.29
39. 岩下哲士 美の世界 6.25～8.5
40. 「川崎の文化財」展 8.27～10.10
41. 生誕100年記念 濱田庄司展 10.29～12.11
42. 「弥生の食」展 1995.1.21～3.12

平成7年度

43. 安野光雄の世界展 4.22～6.11
44. 映画生誕100年記念展 - シネマの世紀 - 7.22～9.17
45. 海と人生 - 川崎で海苔が採れた頃 - 10.3～11.12
46. 現代写真の動向 1995 ANOTHER REALITY
11.21～1996.1.28
47. 愛する人々への熱いメッセージ
シャガールの傑作版画展 2.10～4.7

平成8年度

48. アジアの民族造形
- 衣・食・住・祈り・学び・芸能・遊び -
1996.4.27～6.16
49. 日本の漫画300年
- 日本最大の漫画コレクション - 挙公開 - 7.20～9.8
50. 弘法大師信仰展 10.5～11.10
51. ドイツ現代写真展遠・近 ベッヒャーの地平
11.24～1997.1.26
52. マリー・ローランサン展 3.18～4.15

平成9年度

53. 没後20年 中村正義展 4.26～6.1

54. 怪獣ミュージアム
開田裕治の世界〔K A I J U～ガンダム〕
7.19～8.31
55. -現代マンガのパイオニア- 没後50年岡本一平展
9.20～11.3
56. バウハウスの写真 11.20～1998.2.1
57. 世紀末芸術の華 オープリー・ピアズリー
2.21～4.5

平成10年度

58. -写生・下絵を中心とした- 安田鞞彦 4.11～5.24
59. 少女まんがの世界展
-女性作家8人のまなざしと表現-
8.15～9.27
60. ミュージアムコレクション展Ⅰメディアと大衆
10.3～11.15
61. ミュージアムコレクション展Ⅱ博物館の眼
11.21～12.20
62. 大ザビエル展-その生涯と南蛮文化の遺宝-
1999.1.15～3.14

平成11年度

63. ミュージアムコレクション展Ⅲ芸術都市へ・かわさき
4.24～6.6
64. 木村伊兵衛写真賞の軌跡 6.20～8.1
65. ホイッスラーからウォーホールまで
-版画に見るアメリカ美術の100年- 8.14～9.19
66. アンセル・アダムスの世界 10.26～12.12
67. 大江戸マルチ人物伝-池上太郎左衛門幸豊-
2000.2.26～4.9

平成12年度

68. グラフィック・デザインのモダニズム展
-20世紀・機械時代のグラフィック革命-
4.22～6.11
69. アニメ黄金時代 7.15～8.31
70. 縄文の華 9.9～10.22
71. 陰翳礼賛 フランスの現代写真
-ジャン＝クロード・ルマニーの視点-
11.3～12.17
72. -都市と社会の100年・私たちのくらし
-新世紀元年1901／2001 2001.1.27～3.25

平成13年度

73. 呪いと占い 4.28～6.10
74. 偶然の振れ幅 amplitude of chance
-「出来事の成り立ち」を記述する美術-
7.20～8.26
75. 東海道宿駅制度400年記念 東海道
-日本橋、そして川崎宿へ- 9.15～10.21
76. outer⇔inter 現代写真の動向
11.3～12.24
77. 明治の版画 -岡コレクションを中心に-
2002.2.9～3.31

平成14年度

78. 森村泰昌写真展
「女優家Mの物語」～M式ジオラマ(25m)付き～
4.27～7.7
79. 明治の面影・フランス人画家ピゴーの世界展
9.7～10.27
80. 夢幻巡礼 映画美術監督・木村威夫の世界展
11.23～2003.1.19
81. ポスターのユートピア
ロシア構成主義のグラフィックデザイン
2.15～4.6

平成15年度

82. 古代を考えるⅠ -郡の役所と寺院- 4.19～6.15
83. フランスコミック・アート展 7.5～8.31
84. 光の狩人 森山大道1965-2003 9.13～11.3

平成16年度

85. 街角に咲いた芸術
～世紀末フランスの華麗なポスター～ 4.3～5.30
86. 日本の幻獣-未確認生物出現録- 7.3～9.5
87. 21世紀の本居宣長-学問・交流・情報- 9.18～11.7
88. CLAMP四S u
MANGAアートは時空(とき)を超える
2005.1.22～4.10

平成17年度

89. 時代を切り開くまなざし
-木村伊兵衛写真賞の30年- 1975-2005
4.23～6.19
90. ロシア民族学博物館アイヌ資料展
-ロシアが見た島国の人びと- 7.2～8.28

91. アメリカ展帰国記念
川崎・砂子の里資料館所蔵浮世絵名品展
9.17～10.16
92. 大 OH! 水木しげる展 11.19～2006.1.9
93. メイド・イン・カワサキ展
第1部「川崎モノづくり物語」 1.21～2.26
第2部「都市・川崎を創造する
－メイド・イン・カワサキ現代美術賞展－」
3.11～4.2
- 平成 18 年度**
94. 「弥生・古墳・飛鳥を考える
－古墳の出現とその展開－」 4.29～6.25
95. 名取洋之助と日本工房 1931 - 1945 7.8～9.3
96. レイモン・サヴィニャック展 9.16～11.5
97. 「横山光輝の世界展」 11.18～2007.1.8
98. みんなのドラえもん展－魅力のひみつ－
1.20～2.25
- 平成 19 年度**
99. 昭和ブギウギ 1945 - 64 4.21～6.3
100. 安彦良和原画展「勇者ライディーン」から
「機動戦士ガンダム THE ORIGIN」へ
6.16～8.19
101. こどもの毎日－みんなこうして大きくなった－
7.14～8.19
102. 産業都市・カワサキのあゆみ 100年
9.1～10.14
103. 「つわもの」どもの光と影
－稲毛三郎とその時代－ 10.27～12.9
104. みんなのデザイン
－グッドデザインと私たちの生活－ 10.24～12.16
105. 斎藤寿一展 青・風・宙の版画 12.23～2008.1.27
106. 川崎が生んだ世界の人形
「作家 与勇輝－神様のすみか」展 1.12～2.3
107. 昔の暮らし 今の暮らし 2.9～3.30
108. 少女マンガパワー！
－つよく・やさしく・うつくしく－ 2.16～3.30
- 平成 20 年度**
109. オキナワ／カワサキ－二つの地をつなぐ人と文化－
4.26～6.8
110. ブルーノ・ムナーリのアートとあそぼう！
～みて さわって たのしんで～ 7.12～8.31
111. くらしと着物展 7.19～8.31
112. 開館 20 周年記念「人間国宝濱田庄司」展
10.4～11.30
113. 開館 20 周年記念「ともに生きる－欲望・矛盾・
創造－都市・自然・人・食・メディア」展
10.23～12.7
114. 広重「名所江戸百景」の世界
－江戸の人たちの名所感覚－展 12.13～2009.1.12
115. 複々製に進路をとれ 粟津潔 60 年の軌跡
1.24～3.29
116. 昔の暮らし 今の暮らし 1.27～4.5
117. 川崎ぐるっと博物館 2008.5.15～12.7
- 平成 21 年度**
118. 横浜開港 150 周年 幕末明治期の川崎とニッポン
2009.4.18～6.7
119. 星野富弘展－一枝の花とはいえ－ 6.6～6.28
120. ハービー山口写真展
－ポートレイツ・オブ・ホープ～この一瞬を永遠に～
6.20～8.16
121. サンデー・マガジンの DNA 展 7.18～9.13
122. 川崎・縄文・1 万年
－大地に刻まれた生活と温暖化－ 8.29～10.12
123. 灯りの情景展－灯りと人の物語－
10.24～2010.1.11
124. 2009 川崎フロンターレ 12.12～2010.1.11
125. 昔の暮らし 今の暮らし 2010
－くらしの道具のうつりかわり－展 2010.1.19～4.4
126. 川崎市美術展 2.5～2.27
127. 安田鞞彦展－歴史画誕生の軌跡－ 3.13～4.18
- 平成 22 年度**
128. 横山裕一
ネオ漫画の全記録：「わたしは時間を描いている」
4.24～6.20
129. 「絵図でめぐる川崎 失われた景観をさぐる」展
7.17～9.5
130. 「まど・みちお え てん
－ある詩人の 100 年の軌跡、童謡・抽象画・詩－」展
8.21～10.3
131. 「アイヌ－美を求める心」展
AINU－In pursuit of beauty 9.18～11.7
132. 木村伊兵衛写真賞 35 周年記念展
11.13～2011.1.10

- 133. 2010 川崎フロンターレ展 12.11 ~ 2011.1.10
- 134. 昔のくらし・今のくらし 2011 2011.1.22 ~ 4.3
- 135. 第 44 回かわさき市美術展 2.5 ~ 2.26
- 136. かわさきガラス WORLD2011 3.5 ~ 3.27

平成 23 年度

- 137. 岩合光昭どうぶつ写真展 4.16 ~ 6.26
- 138. 実相寺昭雄展-ウルトラマンからオペラ「魔笛」まで-
7.16 ~ 9.4
- 139. ニヶ領用水ものがたり展 7.23 ~ 9.11
- 140. ユーモアのすすめ 福田繁雄大回顧展
9.17 ~ 11.6
- 141. 2011 川崎フロンターレ展「桃」 12.10 ~ 2012.1.9
- 142. 昔のくらし 今くらし 2012 1.24 ~ 4.1
- 143. 第 45 回かわさき市美術展 2.18 ~ 3.3
- 144. 画の道八十年をたどる 結城天童回顧展
3.10 ~ 3.25

ギャラリー展示一覧

グラフィックギャラリー (開館~平成 17 年度)

1. アール・ヌーボーとアール・デコのポスター展
1988.11.1 ~ 1990.3.18
2. 現代日本のグラフィックデザイナー展 Part I
1990.3.21 ~ 9.
3. 現代日本のグラフィックデザイナー展 Part II
1990.9.12 ~ 1991.3.17
4. ヨーゼフ・ボイス・ポスター・コレクション
-造形空間と政治空間-展 1991.3.20 ~ 6.23
5. 現代日本のグラフィックデザイナー展 Part III
1991.6.25 ~ 10.27
6. 色相の詩学展 1991.11.2 ~ 12.15
7. ホックニー展 1991.12.17 ~ 1992.4.29
8. アニメーション映画 s 原画展 1992.5.2 ~ 5.31
9. オリンピックポスター展 1992.6.2 ~ 8.2
10. クレス・オルデンバーグ
-『手持ちのノート』-展 1992.8.4. ~ 11.29
11. 色彩・共鳴展 1992.12.1 ~ 1993.2.28
12. 現代日本のグラフィックデザイナー展 Part IV
1993.3.2 ~ 8.8
13. 描かれた時の人-マリリン、スターリン、
サラ・ベルナール、そして…
前期：1993.8.10 ~ 10.11
後期：1993.11.17 ~ 1994.2.6
14. 栗津 潔展 1994.2.12 ~ 4.10
15. 田名網敬一〔版画の仕事〕1967 - 1994
1994.4.15 ~ 6.19
16. 夏の思い出- Some Views of Summer 展
1994.6.23 ~ 9.11
17. 世紀末パリの街角展 1994.11.3 ~ 1995.2.12
18. 旅への誘い-ポスターに見る 100 年間の旅展
1995.2.14 ~ 4.23
19. HEAR T AND ART・ポップのまなざし
-ポップ・アートの版画展- 1995.4.25 ~ 7.16
20. シネマとギャラリー 戦後映画ポスター展示
1995.7.22 ~ 9.17
21. 芸術の楽しみ
-世紀末とアール・デコ時代の展覧会ポスターを中心に
1995.9.22 ~ 1996.1.7
22. 詩によせる想い- 3 人の画家と文学
1996.1.9 ~ 4.29

23. 現代版画の比較鑑賞 抑制と放縦
1996.5.1 ~ 8.18
24. 劇場への招待 -ポスターの中のドラマ-
1996.8.21 ~ 11.17
25. 向秀男の広告美学 (前・後期)
1996.11.19 ~ 1997.6.8
26. 無垢なる魂
アトリエ・エレマン・プレザンの作家たち
1997.8.30 ~ 11.30
27. オリンピック・ポスター展 1997.12.2 ~ 1998.3.15
28. 街は紫煙に包まれ・・・ 世紀末の嗜好品ポスター
1998.3.17 ~ 6.14
29. コレクション・コレクション 1
現代版画名品展 1998.6.16 ~ 9.13
30. コレクション・コレクション 2
19世紀ポスター名品展 1998.9.15 ~ 12.20
31. コレクション・コレクション 3
20世紀ポスター名品展 1998.12.22 ~ 1999.4.4
32. コレクション・コレクション 4
現代日本のポスター展 1999.4.6 ~ 7.4
33. アメリカ版画名品展 1999.7.6 ~ 10.17
34. アール・ヌーヴォーの女性たち
1999.10.19 ~ 2000.1.23
35. 時代のシンボルマーク 2000.1.25 ~ 4.9
36. ミュージアムコレクションによる
「グラフィック デザインのモダニズム」展
2000.4.11 ~ 7.9
37. 楽しいポスターミュージアム 2000.7.11 ~ 10.22
38. 木村恒久原画展 2000.10.25 ~ 12.24
39. コレクションによるホックニーの版画展
2001.1.5 ~ 4.15
40. 博覧会の時代 2001.4.17 ~ 7.15
41. 特別企画 没後 100 年記念
ミュージアムコレクションに見るロートレックとその時代
2001.7.17 ~ 10.28
42. カッサンドルとサヴィニャック
2001.10.30 ~ 2002.2.24
43. デザインの教室 現代ポスターの表現と効果
2002.2.26 ~ 6.2
44. 折元立身 グラフィック・アート+オブジェ
2002.6.8 ~ 9.1
45. 詩によせる想い -ベン・シャーン、
コールフィールド、ホックニーの挿絵の世界
2002.9.3 ~ 11.17
46. 夢幻彷徨 木村威夫のイメージ画
2002.11.23 ~ 2003.1.19
47. 革命期のロシア・ポスター 2003.2.7 ~ 4.27
48. 色彩の魅力・版画の魅力 2003.5.1 ~ 8.31
49. 楽しいポスター・ショッピング 2003.9.2 ~ 12.21
50. 劇場への招待 2003.12.23 ~ 2004.4.4
51. 街角に咲いた芸術・アメリカとヨーロッパ諸国
2004.4.6 ~ 7.4
52. 現代日本デザイン 100 選
Japanese Design Today 2004.7.10 ~ 8.1
53. スポーツの祭・展
「オリンピックのポスター展」 2004.8.6 ~ 2005.1.16
54. -シリーズ写真展：現代写真の母型 2005 -
サイト・グラフィックス-風景写真の変貌-展
2005.1.20 ~ 4.10
55. 川崎の美術-川崎を描く/川崎で描く-
2005.2.7 ~ 5.7
56. つたえる美術
-ポスター、写真、マンガのはじめて物語-
2005.7.5 ~ 11.13
57. スイス・コミック・アート展 2005.9.16 ~ 12.25
58. 毎日国際マンガグランプリ 2005 受賞作品展
2006.1.3 ~ 2.12
59. 第 27 回読売国際 2006.2.18 ~ 4.23
60. WRITING Line LIGHTING Line：筆跡と光跡
2005.7.11 ~ 2006.1.29

写真ギャラリー (開館～平成 17 年度)

1. 戦後日本写真の展開 (1945 - 1980)
1988.11.3 ~ 1989.5.1
2. 写真発明 150 年記念企画
写真と人間 I (1850 - 1930) 1989.5.3 ~ 8.27
3. 写真発明 150 年記念企画
写真と人間 II (1930 - 1970)
1989.8.30 ~ 1990.2.28
4. 都市の視点-写真と都市・その交感の軌跡-
1990.3.3 ~ 6.22
5. 風土往来 1990.6.26 ~ 9.30
6. ヒューマン・ドキュメント
-アメリカ：1930'S - 1940'S 1990.10.2 ~ 1991.2.3
7. 濱谷浩の地平 1991.2.6 ~ 4.21
8. 特別企画 アデュー、エルスケン展
1991.4.24 ~ 6.30

9. かたちとイメージ
- 写真における造形と表現 1991.7.3 ~ 9.29
10. Matrix of Photography
- 現代写真の母型 Part I 柴田敏雄展
1991.10.2 ~ 11.17
11. Matrix of Photography
- 現代写真の母型 Part II 安田千絵展
1991.11.20 ~ 1992.1.12
12. Matrix of Photography
- 現代写真の母型 Part III
伊奈英次・小林のりお・畠山直哉 1992.1.15 ~ 3.1
13. Matrix of Photography
- 現代写真の母型 Part IV 白岡順展
1992.3.3 ~ 4.12
14. 暮らしのフォークロア
- 日々のドキュメント再訪 - 1992.4.15 ~ 7.5
15. 子どもの情景 1992.7.7 ~ 9.6
16. 写真を見る～より深く、より豊かに～展
1992.9.8 ~ 1993.2.14
17. 写真展 ザ・スタア～憧れと思ひで～
1993.2.18 ~ 4.25
18. 街と人の物語 1993.4.28 ~ 7.18
19. 自然のイメージ 1993.7.21 ~ 9.26
20. 都市の歴史空間 1993.9.29 ~ 11.28
21. 同時代の視覚 (I) 田村彰英展 1994.1.19 ~ 4.10
22. ヒューマン・リレーションズ 1994.4.16 ~ 6.19
23. ヒューマン・ドキュメント
アメリカ 1930 ~ 40 年代 1994.7.28 ~ 9.11
24. 川崎市市制 70 周年記念プロジェクト
カワサキ・モニュメント 1994.11.3 ~ 1995.1.16
25. 濱谷浩の世界 (1) 1995.1.15 ~ 4.23
26. パリの記憶 1995.4.26 ~ 7.16
27. シネマとギャラリー スタアの肖像展示
1995.7.22 ~ 10.15
28. 満州・シベリア 江成常夫+新正卓 二人展
- 戦後 50 年、二人の写真家があらためて
問いかける戦争と日本人の歴史 -
1995.10.17 ~ 1996.1.15
29. 風土往来 1996.1.24 ~ 4.21
30. 戦後女性写真の展開 1996.4.24 ~ 7.21
31. こどもの情景 1996.7.24 ~ 10.27
32. 写真のタイポロジー - その発現と展開 -
1996.10.30 ~ 1997.2.11
33. 濱谷浩の世界 (2) 1997.2.19 ~ 6.8
34. 写真の楽しみ I 1997.8.27 ~ 1998.1.11
35. 写真の楽しみ II 1998.1.13 ~ 4.5
36. 現代英国写真：カラム・コルヴィン作品展
七つの大罪と四終 1998.5.12 ~ 6.28
37. 写真の楽しみ III アメリカの光と影
1930 年代～1940 年代 1998.7.15 ~ 9.23
38. 川崎物語 - 昭和 30 ~ 50 年代の川崎
1998.9.30 ~ 1999.3.14
39. 写真の楽しみ IV 風土再見 1999.3.27 ~ 5.23
40. 現代写真の母型 MATRIX OF
PHOTOGRAPHY 1999 I 金村 修
1999.6.1 ~ 7.11
41. 現代写真の母型 MATRIX OF
PHOTOGRAPHY 1999 II unit2000 / 視力
1999.7.20 ~ 8.22
42. 現代写真の母型 MATRIX OF
PHOTOGRAPHY 1999 III LIGHT / SPACE
- 朝岡あかね・安彦さちえ・ハイナー・シリング -
1999.8.31 ~ 10.11
43. 風景写真の相貌 1999.10.19 ~ 2000.1.16
44. 現代写真の母型 MATRIX OF
PHOTOGRAPHY 1999 IV 鈴木理策 / 吉村朗
2000.1.25 ~ 4.9
45. ミュージアムコレクションによる
「グラフィック・デザインのモダニズム」展
2000.4.11 ~ 7.9
46. こどもの情景 2000.7.12 ~ 10.1
47. 白岡順写真展「秋の日」 2000.10.11 ~ 2001.2.4
48. デジタルプリントでよみがえる笠倉家の乾板写真
2001.2.7 ~ 5.13
49. こどもの情景 2001.5.23 ~ 9.30
50. PORTRAITS：北島敬三写真展
〈現代写真家シリーズ：同時代のまなざし III〉
2001.0.23 ~ 2002.2.3
51. ヒューマン・イメージ 2002.2.20 ~ 7.17
52. 新寄贈作品 資料展 2002.2.20 ~ 7.17
53. こどもの情景 2002.7.20 ~ 10.14
54. 宮本隆司写真展 AFTER 1995 - 2002
2002.11.1 ~ 2003.1.19
55. ロシア：1905 年 × 1917 年 2003.2.7 ~ 5.11
56. 風土往来 2003.5.21 ~ 8.17
57. 南仏写真記録プロジェクト ニュー・パースペクティブ
- 若き 6 人の写真家による南仏風景へ向けられた新たなまなざし -
2003.8.29 ~ 11.24

58. 川崎物語－昭和 20 年代から 40 年代の川崎区－
2003.12.4 ～ 2004.3.31
59. パリの記憶 2004.4.13 ～ 6.13
60. 谷岡ヤスジの世界展－天才キャラクターだもんね！
2004.6.15 ～ 9.26
61. 第 10 回ロサンゼルス・オリンピック（1932 年）の記録
2004.9.30 ～ 2005.1.16
62. －シリーズ写真展：現代写真の母型 2005 －
サイト・グラフィックス－風景写真の変貌－展
2005.1.20 ～ 4.10

漫画ギャラリー（開館～平成 17 年度）

1. 特別展 手塚治虫の世界 1988.11.1 ～ 1989.4.23
2. 特別展 藤子不二雄の世界 1989.4.25 ～ 9.3
3. 現代風俗をえぐった異色の漫画家 富田英三展
1989.9.5 ～ 12.3
4. はがき漫画展 1989.12.5 ～ 1990.1.28
5. 似顔絵漫画展 1990.1.30 ～ 5.13
6. 团团珍聞（まるまるちんぶん）展 1990.5.15 ～ 9.16
7. 小島功展 1990.9.18 ～ 1991.1.20
8. －告発の漫画家－まるやまふみお展
1991.1.22 ～ 5.19
9. 近藤日出造展 1991.5.21 ～ 9.29
10. 『パンチ』に描かれた日本像展
1991.10.1 ～ 1992.3.1
11. やなせたかしの世界展 1992.3.3 ～ 8.30
12. 漫画集団 60 年史展 1992.9.1 ～ 1993.3.21
13. 明治の風刺画家・田口米作展 1993.3.23 ～ 8.15
14. 漫画に記録された関東大震災展
1993.8.17 ～ 1994.2.27
15. 子供漫画の開拓者 新関健之助展 1994.3.1 ～ 9.11
16. ガロ 30（サーティー）
－伝説を創り続ける漫画雑誌の 30 年－
1994.9.15 ～ 10.30
17. 読売国際漫画大賞傑作選展 1994.11.3 ～ 1995.4.23
18. 読売国際漫画大賞傑作選展 パートⅡ
1995.4.25 ～ 7.16
19. シネマとギャラリー 映画と漫画展示
1995.7.22 ～ 9.17
20. 漫画にみる 1945 年 1995.9.20 ～ 1996.2.18
21. 漫画にみる 1946 年 1996.2.20 ～ 7.14
22. 漫画に記録された東京裁判展
－清水昆の原画を中心に－ 1996.7.20 ～ 10.20

23. 読売国際漫画大賞傑作選
東アジアの漫画Ⅰ・中国編
1996.10.22 ～ 1997.2.23
24. 第 18 回読売国際漫画大賞受賞作品展覧会
1997.2.25 ～ 3.23
25. 読売国際漫画大賞受賞作品展覧会 諸国めぐり
1997.3.25 ～ 6.8
26. 漫画作家 畑中純の挑戦
－豊かな大地と水と人間と－ 1997.6.14 ～ 8.24
27. 一平が育てた弟子たち 1997.8.30 ～ 11.30
28. 漫画動物園「まったく ZOO ZOO しいやつらだ」
1997.12.2 ～ 1998.3.29
29. 第 19 回読売国際漫画大賞展
〔一般の部・大賞－入選の作品〕 1998.4.3 ～ 5.31
30. 第 19 回読売国際漫画大賞展
〔一般の部・佳作、ジュニアの部〕 1998.6.5 ～ 8.2
31. 出版資料に見る少女まんが展 1998.8.7 ～ 10.11
32. いい仕事してますねエ・・・
－ヒトコマ漫画・職人づくし－
1998.10.13 ～ 1999.2.28
33. 第 20 回読売国際漫画大賞展〔前半〕 1999.3.2 ～ 5.5
34. 第 20 回読売国際漫画大賞展〔後半〕 1999.5.7 ～ 7.4
35. 太平洋戦争前夜の漫画雑誌展 1999.7.6 ～ 10.31
36. 明治ポンチ本の世界展 1999.11.2 ～ 2000.2.27
37. 第 21 回読売国際漫画大賞展〔前半〕 2000.2.29 ～ 4.30
38. 第 21 回読売国際漫画大賞展〔後半〕 2000.5.2 ～ 7.2
39. アニメになったマンガ作品 2000.7.4 ～ 10.9
40. 『滑稽新聞』の風刺漫画
2000.10.11 ～ 2001.2.25
41. 第 22 回読売国際漫画大賞展 2001.2.27 ～ 5.27
42. 楠勝平・つりたくにこ／2 人の軌跡
－新しいマンガ表現にかけた青春－
2001.5.29 ～ 9.2
43. 19 世紀フランス人漫画家ロビタが描いた未来
2001.9.4 ～ 12.2
44. アジア I N コミック 2001.12.4 ～ 2002.2.3
45. 第 23 回読売国際漫画大賞展 2002.2.5 ～ 8.18
46. 『ジャパン・パンチ』創刊 140 年記念
ワーグマンの描いた幕末・明治
2002.8.20 ～ 10.27
47. 上村一夫の世界展 2002.10.2 ～ 2003.1.26
48. 第 24 回読売国際漫画大賞展 2003.2.7 ～ 7.13
49. 出版資料に見る日仏コミック交流史展
2003.7.15 ～ 9.7

- 50. 漫画に描かれた日露戦争前夜
- 政治・外交・社会 - 2003.9.9 ~ 2004.2.1
- 51. 第 25 回読売国際漫画大賞展 2004.2.3 ~ 4.11
- 52. 19 世紀フランスの諷刺とユーモア
2004.4.13 ~ 6.13
- 53. 谷岡ヤスジの世界展 - 天才キャラクターだもんね!
2004.6.15 ~ 9.26
- 54. 漫画に見る日本のスポーツ史 2004.9.30 ~ 12.26
- 55. 毎日国際マンガグランプリ 2004 受賞作品展
2005.1.5 ~ 2.6
- 56. 第 26 回読売国際漫画大賞 受賞作品展
2005.2.8 ~ 4.10

アートギャラリー (平成 18 年度 ~ 23 年度)

- 1. シリーズ・日本のグラフィックデザイナー
亀倉雄策のポスター展 2006.4.25 ~ 6.25
- 2. つたえる美術 2 見るこども・見られるこども
2006.5.13 ~ 9.3
- 3. 第 1 回「名取洋之助写真賞」受賞作品展
- 清水哲朗「路上少年」・伊原美代子「海女」
2006.7.8 ~ 9.3
- 4. 眩暈の装置
松本俊夫をめぐるインターメディアの鉦脈
2006.9.16 ~ 11.26
- 5. 川崎フロンターレ 10 周年記念展
- challenge the future - 2006.12.9 ~ 2007.1.8
- 6. individuals - 交差する 4 人 2007.1.23 ~ 2.25
- 7. 第 27 回読売国際漫画大賞 受賞作品展
2007.2.18 ~ 4.23
- 8. オフ・ストライプス / OFF STRIPES:
縞模様の繊細なる瞬き 2007.4.21 ~ 7.8
- 9. 「星と宇宙のファンタジー」 2007.7.21 ~ 9.24
- 10. 映像の現在形 2007
「映像の創出 - イメージと装置」
「これはこれを撮影するカメラである」、
「私があなたを見るようにあなたは私を見る」、
「シーイング / ヒアリング / スピーキング」、
「アイ・アム・(ナット)・シーン」
2007.10.6 ~ 12.24
- 11. シリーズ写真展：現代写真の母型 2008
「写真ゲーム
- 11 人の新たな写真表現の可能性 -」展
2008.1.26 ~ 3.30

- 12. シリーズ・日本のグラフィックデザイナー
田中一光の華展 2007.10.6 ~ 12.2
- 13. 川崎フロンターレ展 2007
One for goal! Goal for one! 2007.12.8 ~ 2008.1.14
- 14. [シリーズ写真展：現代写真の母型 2008]
写真ゲーム - 11 人の新たな写真表現の可能性 -
2008.1.26 ~ 3.30
- 15. 「コレクション・ピックアップ」
学芸員が選ぶ収蔵作品展 2008.4.12 ~ 7.13
- 16. 「顔」 2008.7.19 ~ 11.24
- 17. 川崎フロンターレ展 2008 With Supporters
2008.12.7 ~ 2009.1.12
- 18. 「戦後の作家たち」 2009.1.20 ~ 4.12
- 19. 幕末明治の諸相 - 岡コレクションより -
4.16 ~ 6.28
- 20. リトグラフと画家 - ポスターの印刷技術展
4.16 ~ 6.28
- 21. 「熊切圭介写真展 60 年代の光と影」 7.2 ~ 10.4
- 22. 「女性を撮る」 7.2 ~ 10.4
- 23. 「変革の渦 - Graphic Design in 60' s - 70' s」
7.2 ~ 10.4
- 24. 「メディアとアート 歪んだ瞬間 - 未来派、
構成主義、バウハウス、現代作品から探る -」
10.10 ~ 2010.1.17
- 25. 「カメラ毎日」の時代
平成 21 年度寄贈資料を中心に 12.1 ~ 2010.4.11
- 26. 「岡本かの子 その母性と母性像」
2010.1.21 ~ 4.11
- 27. 「シリーズ・日本のグラフィックデザイナー
グラフィック' 55 の作家たち」 2010.1.21 ~ 4.11
- 28. 木村伊兵衛写真賞 35 周年記念展
第 1 期 2010.4.17 ~ 6.27
第 2 期 2010.7.3 ~ 10.3
第 3 期 2010.10.9 ~ 2011.1.16
第 4 期 2011.1.22 ~ 4.10
- 29. 「マガジンカバーの世界展
~ ロートレック、ミュシャ、ピアズリー ~」展
2010.4.17 ~ 6.27
- 30. 詩人佐藤惣之助 2010.7.3 ~ 10.3
- 31. 「漫画収蔵品」展
- 漫画をコレクションし、展示するとは? -
2010.7.3 ~ 10.3
- 32. 「メディアとアート 明晰な幻」展
2010.10.9 ~ 2011.1.16

33. 映画美術監督 久保一雄の仕事 2011.1.22 ~ 4.10
34. 「シリーズ・日本のグラフィックデザイナー
宇野亜喜良のポスター」展 2011.1.22 ~ 4.10
35. 岩合光昭どうぶつ写真展関連企画「いきもの写真展」
4.16 ~ 6.26
36. 幕末明治の浮世絵 4.16 ~ 7.3
37. シリーズ・日本のグラフィックデザイナー
福田繁雄と川崎市市民ミュージアム 7.9 ~ 10.10
38. 世界初の写真技法ダゲレオタイプ-修復と表現-
7.9 ~ 10.10
39. シリーズ・川崎の美術-川崎の7人-
7.9 ~ 10.10
40. 岡本太郎生誕 100 年記念パパは漫画家
-岡本一平とその芸術- 10.15 ~ 2012.1.9
41. 岡本太郎生誕 100 年記念岡本家と大貫晶川
~芸術一家のはじまり~ 10.15 ~ 2012.1.9
42. 中田和昭写真展-工都川崎と昭和のこどもたち-
10.15 ~ 2012.1.9
43. ラク描キセヨークリエイティヴユニット
トーチカの軌跡 2012.2.4 ~ 4.1
44. アール・デコの女性と装飾 2012.2.4 ~ 4.1

特別資料室展示一覧（開館～平成 18 年度）

1. 川崎のむかし展 1992.7.1 ~ 1993.8.31
2. 石に刻まれた中世-収蔵板碑を中心に-
1993.9.7 ~ 1994.8.31
3. 川崎の民具展 1994.9.27 ~ 1995.8.31
4. 掘り出された川崎 1995.9.3 ~ 1996.9.1
5. かわさき歴史探検 1 - 中原区の巻 -
1996.9.3 ~ 1997.8.31
6. かわさき歴史探検 2 - 多摩区・麻生区の巻 -
1997.9.9 ~ 1998.2.28
7. かわさき歴史探検 3 - 川崎区・幸区の巻 -
1998.3.17 ~ 8.30
8. かわさき歴史探検 4 - 高津区・宮前区の巻 -
1998.9.15 ~ 1999.2.28
9. 新収蔵資料展 1999.3.16 ~ 8.29
10. 丘陵-人々とくらし- 1999.9.14 ~ 2000.2.27
11. むかしの川崎 2000.3.14 ~ 9.10
12. 出土品が語る川崎の歴史 2000.9.23 ~ 2001.2.25
13. かわさきの近代 2001.3.13 ~ 9.9
14. ヒトとモノの動き展 2001.9.29 ~ 2002.2.24
15. 収蔵資料展-岡コレクション- 2002.3.9 ~ 5.12
16. 特別公開 川崎市重要歴史記念物指定
古筆手鑑と指定文化財 2002.4.6 ~ 5.12
17. むかしの暮らし モノのうつりかわり
2002.5.28 ~ 9.1
18. 中原街道と中原区の文化財 2002.9.14 ~ 12.15
19. ベリー来航 150 年 黒船がやって来た！！
2003.1.5 ~ 4.6
20. 大むかしの川崎 2003.4.27 ~ 8.31
21. なりわい-生産と道具- 2003.9.13 ~ 11.30
22. 昔のくらし今のくらしII 2003.12.13 ~ 2004.4.11
23. 川崎の歴史 I 「先人の社会と文化」
2004.4.27 ~ 6.6
24. 川崎の歴史・「都市川崎の形成と発展」
2004.6.22 ~ 9.20
25. 近世出版文化と在村の知識人 2004.10.2 ~ 12.5
26. あかりの情景展 2005.3.26 ~ 9.25
27. 資料が語る川崎の歴史 2005.10.8 ~ 2006.1.29
28. 新収蔵考古資料展 2006.2.11 ~ 7.2
29. くらしをはかる -いろいろな単位-
2006.7.22 ~ 10.22

30. 昔の暮らし、今の暮らし
- 道具に見る暮らしのうつり変わり

2006.11.23 ~ 2007.2.18

企画上映一覧 (映画)

昭和 63 年度

1. 映画における川崎の情景 (11.1 - 2)
2. 人間賛歌
~ミュージアム・フィルムコレクションから
(11.3 - 13)
3. ルネ・クレール 巴里好日 (11.19 - 20)
4. 美空ひばりと歌謡スターたちの系譜
(12.3 - 18)
5. サイレント映画大全 (1.7 - 2.26)
6. 幻想の魔術師 イジイ・トルンカアニメーション
フェア (3.25 - 4.5)

平成元年度

7. イジイ・バルタの映像世界 (5.13 - 14)
8. 笑いのフィルモロジー：
日本映画に見るコメディの系譜 (6.17 - 8.6)
9. アニメ あ・ら・かると公開イベント (10.22)
10. 独立プロダクションの系譜 (9.15 - 24)
11. 企画展「TREND' 89」
併催企画「ロバート・フランク作品上映」
12. ドラマの中の昭和 ミュージアム・フィルムコレ
クションから (2.3 - 18)
13. ディレクターズ・カンパニーの監督たち
(3.24 - 4.5)

平成 2 年度

14. 映画における女性のまなざし (4.14 - 29)
15. 監督による告白的女優論 (7.7 - 29)
16. ヤン・ペシエックとポーランド芸術の冒険 (9.1)
17. 8ミリ映画の黄金時代 (9.7 - 19, 3.15 - 17)
18. ヤン・シュワンクマイエル映画祭 (10.2 - 14)
19. 日本映画のお婆ちゃん／北林谷栄 (1.19 - 27)

平成 3 年度

20. 御隠居日記／東野英治郎の歩み (6.22 - 30)
21. ATG 映画の 30 年 (6.7 - 23)
22. プロデューサー三浦朗の軌跡 (10.10 - 13)
23. オーストリア映画 1991 / マンスール・マダヴィ
特集 (11.3 - 24)
24. ノン・フィクションの物語論 (1.25 - 2.11)

平成 4 年度

25. 近代映画協会の 40 年 (4.4 - 26)
26. ドイツの新しいアニメーション (5.2 - 31)
27. レンフィルム祭 (7.4 - 8.2)
28. もう一つの東宝映画／新東宝の世界 (11.21 - 29)
29. 監督・中村登／大船調の冒険 (3.6 - 28)

平成 5 年度

30. サタジット・レイ映画祭 (6.12 - 7.4)
31. 妖怪映画特集 (8.7 - 8)
32. マノエル・デ・オリヴェイラとポルトガル映画の諸相 (11.6 - 28)
33. 狂った太陽の季節／日活ルネサンス 1956 - 1971 (3.2 - 30)

平成 6 年度

34. 英国アニメーション (4.23 - 24)
35. 田名網敬一／記憶のイメージ (6.4 - 5)
36. ハリウッド・ニンフェット／メアリー・ピッグフォードとその時代 (7.16 - 31)
37. 叙情とシニール／ガロ 30 [映画篇] (9.23 - 24)
38. まなざしの力／ケン・ローチ回顧展 (11.12 - 12.4)

平成 7 年度

39. 映画生誕 100 年記念・映画対談シリーズ (5.14 - 9.10)
40. デコールの前衛とリアリズム／美術監督・久保一雄 (7.22 - 9.9)
41. 戦後ポーランド映画の系譜 (10.21 - 11.1)
42. 残雪 プレミア上映 (11.23)
43. 神代辰巳 1 周忌・エレジー／虚無とざわめき (2.24 - 25)

平成 8 年度

44. 岩波映画出身者の監督たち (7.6 - 8.4)
45. 韓国映画祭～知られざる映画大国～第一期 戦後の黄金期 (10.19 - 11.7)
46. 青春映画と 70 年代 (2.8 - 3.16)

平成 9 年度

47. 中村正義展記念上映
48. 韓国映画祭～知られざる映画大国～第二期 新しい波 (6.1 - 7.5)
49. 韓国映画の現在形 (7.6 - 12)
50. 怪獣映画祭 (7.21 - 8.10)
51. レトロスペクティブ／ジョルジュ・ド・ポール・ガール (10.18 - 11.16)
52. メガホンを持った俳優たち (3.7 - 22)

平成 10 年度

53. 10 周年コレクション上映 自由という地平 1 戦後独立プロの多面性 (7.4 - 20)
54. 自由という地平 2 「日本ニュース」とその時代 (8.1 - 16)
55. 自由という地平 3 撮影監督・宮島義勇と独立プロ運動 (8.29 - 9.13)
56. 自由という地平 4 まなざしの力／ケン・ローチ・レトロスペクティブ (9.19 - 10.11)
57. かながわ・ゆめ国体公開競技スポーツ芸術 スポーツ映画フェスティバル (10.20 - 29)
58. 自由という地平 5 撮る者と撮られる者の対話 (11.7 - 22)
59. 自由という地平 6 アラヴィンタン映画展 (11.28 - 12.20)
60. キリスト教伝来と日本人 (1.15 - 2.28)
61. マノエル・デ・オリヴェイラ映画祭 (2.11 - 20)
62. チェコ・アニメーションの世界 (3.6 - 21)

平成 11 年度

63. 「自由」への旅 - 1970 年代以降のレンフィルム (5.15 - 6.20)
64. 映画における〈沖縄〉 (8.7 - 9.5)
65. 1970 年代の ATG 映画 (11.6 - 12.12)
66. 具流八郎の世界 (2.5 - 27)

平成 12 年度

67. 「今井正」の軌跡 - 映画の中の日本 (6.3 - 7.16)
68. 戦後日本のセル・アニメーション (7.22 - 8.20)
69. 記録映画の作劇術 (11.18 - 12.10)
70. 1980 年代の ATG 映画 (2.10 - 3.20)

平成 13 年度

- 71. 〈映画〉を聴く 真鍋理一郎の映画音楽 (7.7 - 8.12)
- 72. インド芸術映画の巨匠 ゴーヴィンダン・アラヴィンダン映画展 (10.13 - 14)
- 73. アルゴプロジェクトの挑戦 (2.2 - 3.21)

平成 14 年度

- 74. 脚本家・井手雅人の仕事 (6.22 - 8.11)
- 75. 夢幻礼賛 映画美術監督 木村威夫の世界 (11.23 - 1.19)

平成 15 年度

- 76. 映画ドラえもん大集合 (6.21 - 7.27)
- 77. 開館 15 周年記念「映画の中の子供たち」 (11.1 - 11.3)
- 78. 銀幕を彩る女優たち (11.15 - 12.14)
- 79. アルゴ 2 ニュー・エンタテインメントのゆくえ (2.7 - 2.22)

平成 16 年度

- 80. 独立プロダクションの映画作家たち 1 今井正・山本薩夫 (4.17 - 3.6)
- 81. 「街角に咲いた芸術」展関連上映 パリ、世紀末。 (5.1 - 2)
- 82. 嵐を呼ぶ！映画クレヨンしんちゃん祭り (6.26 - 7.11)
- 83. 独立プロダクションの映画作家たち 3 - 4 勅使河原宏・家城巳代治 (9.18 - 11.21)
- 84. 日本のネオ・ホラーフィルム (7.24 - 8.8)
- 85. 「谷岡ヤスジの世界展」関連上映 幻のアニメ「やっちまえ！！ Do it !!」復活上映 (9.20)
- 86. 映画を聴く vol.2 録音技師・久保田幸雄 ドキュメンタリーの音、劇映画の音 (10.9 - 31)
- 87. 新潟中越地震山古志災害復興支援上映会「掘るまいか」 (11.27 - 28)
- 88. 独立プロダクションの映画作家たち 5 - 6 新藤兼人・吉村公三郎 (12.18 - 1.16)
- 89. CLAMP 映画祭 (1.29 - 3.12)
- 90. 独立プロダクションの映画作家たち 7 - 8 大島渚・吉田喜重 (2.26 - 3.6)

平成 17 年度 (毎週土日および祝祭日に定期上映)

- 91. CLAMP 映画祭 再上映

- 92. シリーズ「魅惑の韓国映画」1 韓国映画のスターたち カン・スヨン
- 93. シネマテーク・コレクション 演じることと演出すること
- 94. 「小川美潮ライブ」関連上映 初期の市川準
- 95. シネマテーク・コレクション ニューヴェル・ヴァーグの先導者 岡本喜八と増村保造
- 96. シネマテーク・コレクション ゴーヴィンダン・アラヴィンダン特集
- 97. シネマテーク・コレクション ドキュメントとフィクションの狭間で
- 98. シリーズ「魅惑の韓国映画」2 韓国映画のスターたち アン・ソング
- 99. 市川雷蔵の「若親分」
- 100. シネマテーク・コレクション 東宝争議の主役たち 1
- 101. シリーズ「魅惑の韓国映画」3 6・25 動乱 (朝鮮戦争) を考える
- 102. デジモン、犬夜叉、名探偵コナン 人気アニメーション大集合
- 103. 「ロシア民族学博物館アイヌ資料展」関連上映 アイヌと記録映画作家・姫田忠義
- 104. われらサラリーマン - 東宝のサラリーマン映画
- 105. 戦後 60 年特別上映「平和記念都市 ひろしま」
- 106. 今村昌平の世界
- 107. 牛山純一と日本映像カルチャーセンター
- 108. シリーズ「魅惑の韓国映画」4 韓国映画のスターたち イ・ボヒとハ・ミョンジュン
- 109. 江利チエミの「サザエさん」
- 110. レンフィルムの監督たち
- 111. シリーズ「魅惑の韓国映画」5 韓国映画の監督たち ヴェテランたちの活躍
- 112. 「大水木しげる」展関連上映 妖怪たちがやってくる！！
- 113. シネマテーク・コレクション ジュルジュ・ド・ボールガール：ニューヴェル・ヴァーグのプロデューサー
- 114. シリーズ「魅惑の韓国映画」6 韓国映画の監督たち キム・ウンチョン
- 115. シネマテーク・コレクション 今井正の魅力
- 116. シネマテーク・コレクション 東宝争議の主役たち 2 山本薩夫
- 117. シリーズ「魅惑の韓国映画」7 自由と独立を求めて

- 118. 「伴淳三郎」物語
- 119. 関川秀雄の世界
- 120. シリーズ「魅惑の韓国映画」8 韓国映画の監督たち イム・グォンテクとペ・チャンホ
- 121. シネマテーク・コレクション 独立プロダクションの映画作家たち 舞台演出家、脚本家の視線
- 122. シネマテーク・コレクション につぼん風土記
- 123. シリーズ「魅惑の韓国映画」9 韓国映画の監督たち 21世紀への胎動
- 124. シネマテーク・コレクション 東宝争議の主役たち 3 撮影監督・宮島義勇

平成 18 年度

- 125. 藤純子－任侠の華
- 126. シリーズ「魅惑の韓国映画」X 王朝時代の女性たち
- 127. 高林陽一の京都
- 128. 赤木圭一郎 刹那の輝き、永遠（とわ）の伝説。
- 129. 土本典昭の水俣
- 130. シリーズ「魅惑の韓国映画」XI 結婚の行方
- 131. 寺山修司 非日常のすすめ
- 132. 「弥生・古墳・飛鳥を考える」展関連上映
- 133. 熊井啓 黒い霧の正体に迫る
- 134. シリーズ「魅惑の韓国映画」XII 現代家族考
- 135. 仮面ライダーとスーパー戦隊シリーズ
- 136. 円谷英二と空想科学映画の世界
- 137. シネマテーク・コレクション 戦争がもたらしたものは何か
- 138. シネマテーク・コレクション 小川紳介、三里塚から牧野村へ。
- 139. 昼下りのメロドラマ
- 140. シネマテーク・コレクション 松本俊夫:「映像」の変革
- 141. シンポジウム「50－60年代の芸術状況と松本俊夫」松本俊夫+湯浅譲二（音楽家）
- 142. 対談「松本俊夫の実験映画を巡って」松本俊夫+西村智弘（美術評論家・映像作家）
- 143. 対談「アヴァンギャルディスムの未来」松本俊夫+西嶋憲生（映像研究者）
- 144. 現代ドキュメンタリー映画の潮流
- 145. シリーズ「魅惑の韓国映画」XIII 現代社会考 男の場合、女の場合
- 146. 「横山光輝の世界」展関連上映
- 147. インディペンデント映画の挑戦

- 148. かわさきデジタルショートフィルムフェスティバル
- 149. シリーズ「魅惑の韓国映画」XV 1970年代セレクトーション
- 150. シネマテーク・コレクション 独立プロダクションの映画作家たち
- 151. シネマテーク・コレクション 柳町光男と橋浦方人
- 152. オムニバス映画の魅力
- 153. フランキー堺の『与太郎戦記』
- 154. 東南アジアの風 福岡市総合図書館フィルム・アーカイヴ・コレクションから
- 155. シリーズ「魅惑の韓国映画」XVI 1990年代セレクトーション
- 156. 加東大介の『大番』
- 157. シネマテーク・コレクション 山本薩夫の仕事

平成 19 年度

- 158. シネマテーク・コレクション 勅使河原宏の仕事
- 159. シネマテーク・コレクション レンフィルム・コレクション
- 160. 大森一樹と“アイドル”映画
- 161. ハナ肇と山田洋次
- 162. 「昭和ブギウギ 1945－64」展関連上映 スターの時代
- 163. シネマテーク・コレクション 小川紳介、三里塚への道。
- 164. 梶芽衣子の「さそり」
- 165. 人情派バンザイ！映画監督・久松静児
- 166. 没後 10 年・勝新太郎と「兵隊やくざ」の世界
- 167. 「OFF STRIPES 縞模様の繊細なる瞬き」展関連上映 しましまえいが
- 168. シネマテーク・コレクション 記録映画作家・姫田忠義
- 169. 小林旭の銀座旋風児
- 170. 「安彦良和原画展」関連上映 伝説の勇者たち 綺羅星のごとく
- 171. シネマテーク・コレクション インディペンデントというスタイル
- 172. 大映京都の怪談
- 173. 川崎ゆかりの映画人たち・坂本九の巻
- 174. 「星と宇宙のファンタジー」展関連上映
- 175. キャメラマンは国境を越える 永田鉄男と栗田豊通

- 176. 国際合作の可能性
- 177. 今東光のと“河内”の世界
- 178. シネマテーク・コレクション 独立プロダクションの映画作家たち
- 179. シネマテーク・コレクション これが女の生きる道！－ATGの軌跡－
- 180. 「産業都市・カワサキのあゆみ100年－進化しつづけるモノづくりの街－」展関連上映
- 181. シネマテーク・コレクション 今井正と家城巳代治
- 182. 映像の現在形2007「映像の創出 イメージと装置」展関連上映 飯村隆彦の世界
- 183. 田宮次郎のアクション映画
- 184. “一番星”と“やもめのジョナサン”『トラック野郎』の世界
- 185. シネマテーク・コレクション 記録映画選集
- 186. “必殺”の世界
- 187. 五味川純平と「人間の條件」
- 188. 高橋英樹 剣客と侠客
- 189. シネマテーク・コレクション ジョルジュ・ド・ボールガール：ヌーヴェル・ヴァーグとプロデューサー
- 190. 映画監督 谷口千吉
- 191. 亀井文夫の戦後
- 192. 「少女マンガパワー！」展関連上映
- 193. 春休みはポケモン！

平成20年度

- 194. シネマテーク・コレクション 小説の快樂、映画の愉楽
- 195. 艶姿七変化 特集・長谷川一夫
- 196. 「オキナワ／カワサキ」展関連上映 太陽の国オキナワ
- 197. シネマテーク・コレクション アンチ・ヒロイズム－敗者の美学－
- 198. 特集 石原裕次郎
- 199. 幼子の祈り－かつて子供だったおとなたちのために
- 200. 一投一打のドラマ 野球映画特集
- 201. 「くらしと着物」展関連上映 所作ごと麗し、きものの粋
- 202. メタモルフォーゼ 変身する人間
- 203. ふるさとのくらし 記録映画
- 204. 記憶と祈り 映画のなかの“公害”

- 205. 「ジャパンブラジルクリエイティブアートセッション」関連上映 ブラジル映画特集
- 206. Lupin the Movie カワサキより愛をこめて
- 207. ロシア映画特集 アラノヴィッチとソクーロフ
- 208. 「ともに生きる」展関連上映
- 209. 特集・新藤兼人
- 210. 脚本家 荒井晴彦
- 211. 風刺と諧謔 コメディの地平
- 212. 「てなもんや」シリーズと「沓掛時次郎」
- 213. 粟津潔展関連上映「知りすぎていた男 粟津潔」
- 214. 戦後の作家展関連上映 映画監督・大島渚
- 215. SLC ファクトリー アニメーション・ワークショップ
- 216. 無垢なる詩人 G.アラヴィンダン
- 217. 生誕百年記念 松本清張 第一弾
- 218. 「昔のくらし今のくらし」展関連上映

平成21年度

- 219. 特集上映 今井正
- 220. 「幕末・明治期の川崎とニッポン」展関連上映
- 221. 生誕100年記念 松本清張 第2弾
- 222. 特集上映 オタル・イオセリアーニ
- 223. 生誕100年記念 松本清張特集 第3弾
- 224. 郷土を知る－川崎の伝統と行事－
- 225. 元祖・クールビューティ！ 江波杏子の「女賭博師」
- 226. 「サンデー・マガジンのDNA」展関連上映 タイムスリップ 僕らの時代
- 227. 山本薩夫監督特集 演出のダイナミズム
- 228. シネマテーク・コレクション 家族へのまなざし
- 229. わが街・昭和の風景
- 230. シネマテーク・コレクション 映画監督・神山征二郎
- 231. ドキュメンタリー選集
- 232. 川崎ゆかりの映画人たち 実相寺昭雄の巻 大回顧展プレ・イベント
- 233. シネマテーク・コレクション アルゴプロジェクト 20年目の傑作選
- 234. 特別上映 長篇記録映画『セレバス』
- 235. 映画監督・岡本喜八、戦争を“啜う”
- 236. 第64回毎日映画コンクール 表彰式川崎開催記念 ドキュメンタリー映画賞特集
- 237. シネマテーク・コレクション レンフィルムへの誘い

- 238. インディペンデントというカタチ
- 239. 映画監督・家城巳代治の流儀
- 240. スピンオフ映画のプロトタイプ 熊虎親分とピラニア軍団

平成 22 年度

- 241. シネマテーク・コレクション アラヴィンダン 悲哀とユーモアのなかで
- 242. シネマテーク・コレクション 勅使河原宏 リアルの向こう側
- 243. 吉村公三郎 名匠が捉えた男の魅力
- 244. 超・サラリーマン 東映編
- 245. シネマテーク・コレクション 54年目の水俣病事件
- 246. 映画監督・熊井啓の視座
- 247. シネマテーク・コレクション 三島由紀夫と立松和平
- 248. シネマテーク・コレクション 記録を超えて
- 249. 泉鏡花 悲恋の系図
- 250. 川崎ゆかりの映画人たち 女優・川崎弘子
- 251. シネマテーク・コレクション 自主制作のシルエット
- 252. シネマテーク・ドキュメンタリー・セレクション 4つの視線
- 253. シネマテーク・コレクション 思想の自由を求めて 今井正と中尾駿一郎
- 254. ザッツ・ジャパニーズ・ホラー 山本迪夫監督作品から
- 255. シネマテーク・コレクション 思想の自由を求めて 新藤兼人と黒田清己
- 256. アンコール上映 長篇記録映画「セレベス」
- 257. シネマテーク・コレクション 1980年代の息吹
- 258. 「詩人 佐藤惣之助」展関連上映 昭和歌謡のヒット・メーカー 佐藤惣之助
- 259. 蘇る登戸研究所
- 260. シネマテーク・コレクション 記録映画作家・姫田忠義「日本文化のふるさと」
- 261. シネマテーク・コレクション 山内久の“若者たち”
- 262. 生誕 100 年 映画監督・山本薩夫
- 263. 1980年代のレンフィルム
- 264. 「アイヌー美を求める心」展関連上映 記録映画作家・姫田忠義「アイヌのくらし」
- 265. シネマテーク・コレクション 映画音楽〈武満徹〉

- 266. 有吉佐和子 百花繚乱
- 267. クロード・シャブロール追悼 プロデューサー ジョルジュ・ド・ボールガール
- 268. 追悼上映 人形アニメーション作家 川本喜八郎
- 269. シネマテーク・コレクション ATG 特集 第1弾 -ニッポンの最も熱い日々-
- 270. 特集上映 脚本家 馬場当
- 271. 新春特集 向田邦子と久世光彦
- 272. シネマテーク・コレクション ATG 特集 第2弾「変貌の時代」
- 273. 「映画美術監督 久保一雄の仕事」展 関連上映
- 274. 毎日映画コンクール表彰式川崎開催記念 過去受賞作品アンコール上映 「歴代受賞作品特集 (1970年代)」
- 275. シネマテーク・コレクション 映画監督 中川信男
- 276. シネマテーク・コレクション パペット・アニメーション!
- 277. 日本映画大学設立記念日本映画学校卒業生作品選

平成 23 年度

- 278. シネマテーク・コレクション青春の物語
- 279. インドの映像詩人G・アラヴィンダン
- 280. 司馬遼太郎 vs 吉川英治
- 281. アニメーション 特集東映動画
- 282. シネマテーク・コレクション 石井隆特集
- 283. シネマテーク・コレクション ドキュメンタリー傑作選 vol.1
- 284. 映像の魔術師フェデリコ・フェリーニ
- 285. シネマテーク・コレクション レン・フィルムの輝き
- 286. シネマテーク・コレクション カメラの前と後ろで
- 287. 太郎の愛した映画たち
- 288. 特集上映 奇才・実相寺昭雄
- 289. 日活創立 100 年記念イベント 特集・日活サスペンス&「事件記者」
- 290. 川崎の祭りと日本の伝統文化
- 291. シネマテーク・コレクション ATG の挑戦
- 292. 親子上映会 第1部 シネマテーク・コレクション
- 293. 親子上映会 第2部 CON - CAN MOVIE FESTIVAL 提供 ショートムービー傑作選

294. 育児とクリエイティビティ
295. 坂本九生誕 70 年記念 映画の中の九ちゃん
296. 川崎の物語
297. 川崎ゆかりの映画人 今村昌平
298. 新春特集 お正月映画
299. 「昔の暮らし 今の暮らし」展 関連上映 日本のおばあちゃん
300. ロシア映画特集 カネフスキー 3 部作+レンフィルム
301. 毎日映画コンクール表彰式 川崎開催記念 過去受賞作品アンコール上映「歴代受賞作品特集」
302. 「キカイ デ ミルコトー日本のビデオアートの先駆者たちー」
303. シネマテーク・プロジェクト 第 4 弾 フレデリック・ワイズマン選集
304. 活動弁士の語りによる無声映画鑑賞会

平成24年度 市民ミュージアム 利用者統計表

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
常設展・企画展		810	487	10,343	11,851	12,779	11,754	22,279	3,095	12,715	14,936	13,642	22,035	136,727
映像ホール	有料	43	0	1,626	401	173	598	431	0	396	848	372	727	5,615
	大人	1	0	2	1	7	0	1	0	0	3	0	2	17
	小人	12	0	614	323	426	814	633	35	634	375	1,176	1,134	6,176
無料		12	0	614	323	426	814	633	35	634	375	1,176	1,134	6,176
ミニホール		0	0	137	103	63	146	51	0	69	77	80	77	803
館内イベント・講座等		65	22	324	466	433	608	445	60	843	1,173	472	1,082	5,993
ミュージアムライブラリー（映像）		11	19	152	209	268	306	262	57	151	272	336	415	2,458
ミュージアムライブラリー（図書）		43	51	637	908	1,154	1,043	827	136	476	645	726	790	7,436
研修室等利用者		6	22	253	157	78	294	225	60	327	255	295	149	2,121
ミュージアムギャラリー1		0	0	0	0	0	1,056	811	0	0	0	733	255	2,855
ミュージアムギャラリー2		0	0	0	0	0			0	0	0			
館外展示入館・出張プログラム等		809	163	12	0	86	0	0	139	0	105	366	298	1,978
合計		1,800	764	14,100	14,419	15,467	16,619	25,965	3,582	15,611	18,689	18,198	26,964	172,178
利用者累計			2,564	16,664	31,083	46,550	63,169	89,134	92,716	108,327	127,016	145,214	172,178	
開館日数		1	3	26	26	27	26	26	4	22	24	24	26	235
1日平均利用者数		1,800	255	542	555	573	639	999	896	710	779	758	1,037	733

展示室別内訳

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
映像ホール	有料	一般	44	0	1,628	402	180	598	432	0	396	851	372	729	5,632
		優待割引	28	0	472	147	61	202	212	0	181	271	139	304	2,017
		学生	0	0	0	1	2	2	6	0	2	7	5	2	27
		シニア	0	0	6	4	39	6	7	0	6	10	17	4	99
		小中学生	6	0	964	166	45	279	127	0	73	370	136	372	2,538
		友の会	1	0	2	1	7	0	1	0	0	3	0	2	17
		スカラチケット	1	0	18	6	4	15	12	0	12	15	5	3	91
	無料	招待券	8	0	166	77	22	94	67	0	122	175	70	42	843
		障害者	12	0	614	323	426	814	633	35	634	375	1,176	1,134	6,176
		幼児	0	0	4	5	5	19	0	0	4	1	43	1	82
		モニター	11	0	315	131	61	202	104	0	92	205	131	143	1,395
			1	0	0	1	4	0	0	0	34	0	0	1	41
			0	0	295	186	356	593	529	35	504	169	1,002	989	4,658
企画展1	有料	一般	0	0	13	514	463	202	1,197	495	235	209	0	4,569	7,897
		シニア	0	0	9	206	292	166	973	428	190	182	0	2,057	4,503
		高・大生	0	0	4	175	127	10	59	17	25	11	0	2,386	2,814
		小人	0	0	0	27	35	17	122	43	19	14	0	51	328
		その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		一般（団体）	0	0	0	18	4	9	42	7	1	2	0	62	145
		シニア（団体）	0	0	0	87	3	0	1	0	0	0	0	13	104
		高・大生（団体）	0	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	3
	無料	その他（団体）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		招待券	0	0	14	1,243	810	707	4,363	702	2,548	1,814	1,944	3,071	17,216
		障害者等	0	0	5	226	354	137	779	366	1,238	1,256	0	2,263	6,624
		友の会	0	0	1	59	49	34	162	10	27	25	0	334	701
		小・幼	0	0	0	23	14	1	11	5	3	1	0	43	101
		取材	0	0	7	860	335	486	3,352	295	1,233	504	0	329	7,401
		その他（バッチ・家族でGO）	0	0	1	6	20	3	2	0	1	1	0	23	57
企画展2	有料	一般	0	0	0	24	303	268	151	0	0	0	0	0	746
		シニア	0	0	0	14	208	179	90	0	0	0	0	0	491
		高・大生	0	0	0	2	61	74	40	0	0	0	0	0	177
		小人	0	0	0	8	27	7	13	0	0	0	0	0	55
		その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		一般（団体）	0	0	0	0	4	7	8	0	0	0	0	0	19
		シニア（団体）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		高・大生（団体）	0	0	0	0	3	1	0	0	0	0	0	0	4
	無料	その他（団体）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		招待券	271	0	1,605	35	653	1,402	2,276	0	3,224	2,444	4,992	5,605	22,507
		障害者等	0	0	0	10	168	183	247	0	0	0	0	0	608
		友の会	0	0	0	6	19	45	31	0	0	0	0	0	101
		小・幼	0	0	0	0	7	10	1	0	0	0	0	0	18
		取材	73	0	0	19	406	928	938	0	1,649	1,060	1,985	1,323	8,381
		その他（バッチ・家族でGO）	0	0	0	0	14	5	0	0	0	0	0	0	19
	198	0	1,605	0	39	231	1,059	0	1,575	1,384	3,007	4,282	13,380		

平成 24 年度歳出予算

単位：千円

事業名等	予算	備考
市民ミュージアム予算合計	648,977	
市民ミュージアム運営管理事業費	443,743	
市民ミュージアム非常勤職員経費	26,351	
0 1 報酬	20,813	非常勤職員報酬
0 4 共済費	5,413	非常勤職員共済費
0 9 旅費	125	
市民ミュージアム運営管理事業費	367,030	
0 4 共済費	483	
0 7 賃金	5,490	臨時職員賃金
0 8 報償費	1,231	収集委員・評価委員等謝礼
1 1 需用費	40,495	光熱水費・消耗品・印刷製本費等
	(35,686)	電気料・水道料
1 2 役務費	1,296	電話料・郵便料等
1 3 委託料	305,689	総合管理委託・学芸業務委託等
	(190,518)	学芸業務委託
	(100,904)	総合管理委託
1 4 使用料及び賃借料	3,625	事務機器・フィルム保管庫賃借料等
1 6 原材料費	45	塗料等
1 8 備品購入費	8,506	資料作品購入・研究用図書購入等
	(7,169)	資料作品購入
1 9 負担金補助及び交付金	170	博物館協会会費等
市民ミュージアム企画広報事業費	34,619	
0 8 報償費	470	
1 1 需用費	2,130	
1 2 役務費	2,403	
1 3 委託料	29,446	広報物作成等
1 4 使用料及び賃借料	170	
市民ミュージアム教育普及事業費	15,743	
0 8 報償費	1,900	
1 1 需用費	1,104	
1 2 役務費	59	
1 3 委託料	12,090	
	(10,295)	社会科教育推進事業費
1 4 使用料及び賃借料	390	
1 8 備品購入費	200	
市民ミュージアム運営協議会経費	234	
市民ミュージアム運営協議会経費	234	
0 1 報酬	234	委員報酬
市民ミュージアム施設整備事業費	205,000	
市民ミュージアム施設整備事業費	205,000	
1 3 委託料	10,000	
1 5 工事請負費	195,000	空調設備改修

() は内数

川崎市市民ミュージアム協議会

1. 設置主旨

川崎市市民ミュージアムの円滑な運営を図るため、専門家や学校教育・社会教育機関の代表、公募による一般市民が委員になり、館長の諮問に応じ、運営に関する意見を述べる。

※根拠条例 川崎市市民ミュージアム条例第 21 条

2. 委員構成

学校教育関係 2 名
社会教育関係 1 名
市民公募 2 名
学識経験者 4 名

3. 開催経過

第 1 回川崎市市民ミュージアム協議会

日程 平成 24 年 7 月 3 日

場所 川崎市市民ミュージアム会議室

議事 平成 24 年度事業計画について
市民ミュージアム評価について
評価対象事業について

第 2 回川崎市市民ミュージアム協議会

日程 平成 24 年 11 月 2 日

場所 川崎市市民ミュージアム会議室

議事 平成 24 年度実施済み事業について
市民ミュージアム評価について
評価対象事業について

第 3 回川崎市市民ミュージアム協議会

日程 平成 25 年 3 月 13 日

場所 川崎市市民ミュージアム会議室

議事 平成 24 年度第 2 回以降の事業実施報告
について
市民ミュージアム評価について
平成 25 年度事業について

川崎市市民ミュージアム資料等収集委員会

1. 設置趣旨

川崎市市民ミュージアムにおいて資料及び作品の適正かつ公正な収集を図るため、学識経験者をもって審議する。

2. 委員構成

学識経験者（考古）	1 名
（歴史）	1 名
（民俗）	1 名
（美術文芸）	1 名
（グラフィック）	1 名
（写真）	1 名
（漫画）	1 名
（映画）	1 名
（ビデオ）	1 名

3. 開催経過

平成 24 年度 川崎市市民ミュージアム資料等収集委員会

日程 平成 24 年 7 月 27 日

場所 川崎市市民ミュージアム会議室

議事 収集計画及び資料・作品収集結果について

川崎市市民ミュージアム資料等収集委員会 博物館部会

日程 平成 24 年 11 月 16 日

場所 東京古書会館

議事 収集予定資料について

川崎市市民ミュージアム資料等収集委員会 美術館部会

日程 平成 25 年 2 月 6 日

場所 川崎市市民ミュージアム会議室

議事 収集予定資料について

川崎市市民ミュージアム資料等評価委員

1. 設置趣旨

川崎市市民ミュージアムが収集し、及び寄贈又は寄託を受けようとする資料及び作品の適正かつ公正な収集を図るため、収集を予定している資料等の真贋の鑑定及び購入価格の評価等を行う。

2. 開催

日程 平成 25 年 2 月 7 日

委員 2 名

評価資料 田中岑 作品 14 点

かわさき市美術展運営委員会

1. 設置趣旨

かわさき市美術展の開催にあたり、専門的な知識や視点に基づき、市民ミュージアムの文化芸術の向上及び円滑な事業の運営を目的に設置する。

2. 委員構成

美術作家または美術評論家（2 名）

学識経験者（2 名）

川崎市文化団体関係者（1 名）

3. 開催

第 46 回かわさき市美術展第 1 回運営委員会

日程 6 月 22 日

会場 川崎市市民ミュージアム 3 階会議室

議題 第 46 回かわさき市美術展募集内容について
審査委員について

第 46 回かわさき市美術展第 2 回運営委員会

日程 平成 25 年 2 月 23 日

会場 川崎市市民ミュージアム研修室 3

議題 第 46 回かわさき市美術展審査結果報告
について
表彰式について

第 46 回かわさき市美術展第 3 回運営委員会

日程 平成 25 年 3 月 22 日

会場 川崎市市民ミュージアム研修室 3

議題 第 46 回かわさき市美術展実施報告について
第 47 回かわさき市美術展にむけて

施設概要

敷地面積	25,358㎡	
建築面積	8,386㎡	
延床面積	19,542㎡	
常設展示室	2,551㎡	
博物館展示室	1,491㎡	
アートギャラリー	1,060㎡	
企画展示室	1,334㎡	
企画展示室 1	597㎡	
企画展示室 2	590㎡	
ミュージアムギャラリー1・2	147㎡ (82㎡ + 65㎡)	
逍遙展示空間	747㎡	
映像ホール	342㎡	266 席
ミニホール	57㎡	40 名
	(椅子席・ビデオのみ)	
研修室 1	70㎡	24 名
	(机・椅子固定)	
研修室 2	60㎡	30 名
研修室 3	56㎡	36 名
収蔵庫	2,433㎡	(9室、前室を含む)
その他	12,083㎡	
ミュージアムショップ	40㎡	
ミュージアムレストラン	62 席	
身障者設備		
トイレ	5ヶ所	
車いす	4台	
乳幼児設備		
ベビーベッド	2台	
授乳室	1室	
ベビーカー	3台	

設計

建築設計者 (株)計画連合 (担当 菊竹 清訓)
 展示設計者 (株)トータルメディア開発研究所

当時の総工費

建築工事費 88 億円
 展示工事 23 億円
 資料収集 21 億円
 運営費 10 億円
 合計で約 150 億円

収蔵品

平成 24 年度分

購入作品・資料	19 点
寄贈	56 点
寄託	73 件 (継続を含む)

総点数	約 204,100 点 (平成 25 年 3 月 31 日)
考古	約 72,000 点
歴史	約 28,000 点
民俗	約 12,200 点
美術文芸	約 10,000 点
グラフィック	約 8,600 点
写真	約 20,000 点
漫画	約 36,000 点
映画	約 12,200 点
ビデオ	約 12,000 点

指定文化財

神奈川県指定 1 件

 鰐口 1 口

川崎市指定 21 件

 紙本墨画淡彩仙女図 2 幅

 青銅製鰐口 1 口

 古筆手鑑「披香殿」 1 帖

 後北条氏の虎の印判状 (永禄元年) 1 通

 後北条氏の虎の印判状 (天正 7 年) 1 通

 後北条氏の虎の印判状 (天正 15 年) 1 通

 関東下知状 附 極札 1 枚 1 通

 板碑 1 基

 有馬古墓群後谷戸グループ古墓出土火葬骨蔵器

 附 坏 19 箇 3 組 3 箇

 有馬古墓群台坂上グループ古墓出土火葬骨蔵器

 附 簪状骨製品 1 本 3 組 7 箇

 生田古墓群生田 8601 番地古墓出土火葬骨蔵器

 附 鹿角製刀子柄 1 本 2 組 4 箇

 生田古墓群鴛鴦沼古墓出土火葬骨蔵器

 附 鉄板状製品 1 枚 1 組 2 箇

 菅生古墓群長沢 1822 番地古墓出土火葬骨蔵器

2 組 4 箇

 野川古墓群野川南耕地 A 地点古墓出土火葬骨蔵器

 附 鉄板状製品 1 枚 鉄釘 13 本 1 組 2 箇

 稗原古墓群 A 地点古墓出土火葬骨蔵器

 附 和銅開寶 1 枚 1 組 2 箇

 无射志国荏原評銘文字瓦 1 点

万福寺遺跡群縄文時代草創期出土品 一括
宿河原縄文時代低地遺跡出土品 一括
下原遺跡縄文時代後・晩期出土品 一括
獅子頭 3頭
大師河原の漁撈具 一括

職 員

(平成24年4月から平成25年3月まで)

川崎市市民・子ども局

川崎市市民ミュージアム

館長	原 隆
副館長	高岸 堅司
担当課長	石澤 志津
担当課長	柿崎 祐一
課長補佐	小松 史尚
担当係長	豎月 基
担当係長	星野 美代子
担当係長	松川 哲司
主任	小池 大輔
主任	高橋 小百合
	内海 美佳 (嘱託)
	片柳 圭輔 (嘱託)
	河合 洋介 (嘱託)
	後藤 愛美 (嘱託)
	澤口 恭子 (嘱託)
	武井 麻里子 (嘱託)
	武田 智子 (嘱託)
	門馬 英美 (嘱託)

アドバイザー 志賀 健二郎 (嘱託)

公益財団法人川崎市生涯学習財団

学芸室室長	石原 敏明
学芸総務課長	北西 誠
課長補佐	深川 雅文
課長補佐	望月 一樹
主査	高橋 典子
主査	濱崎 好治
主任	林 司
	新井 悟
	岩槻 歩
	金澤 韻
	平井 直子
	阿部 久瑠美 (嘱託)
	江口 浩 (嘱託)
	大西 舞 (嘱託)
	喜安 嶺 (嘱託)
	佐藤 美子 (嘱託)

副島 蔵人（囑託）
平林 悠紀子（囑託）
飛田 美香（囑託）

平成 24 年度
川崎市市民ミュージアム年報
2012 年 4 月～2013 年 3 月

平成 25 年 6 月発行
編集・発行／川崎市市民ミュージアム
川崎市中原区等々力 1-2
電話 044-754-4500
印刷／日本プロセス株式会社



KAWASAKI
CITY
MUSEUM